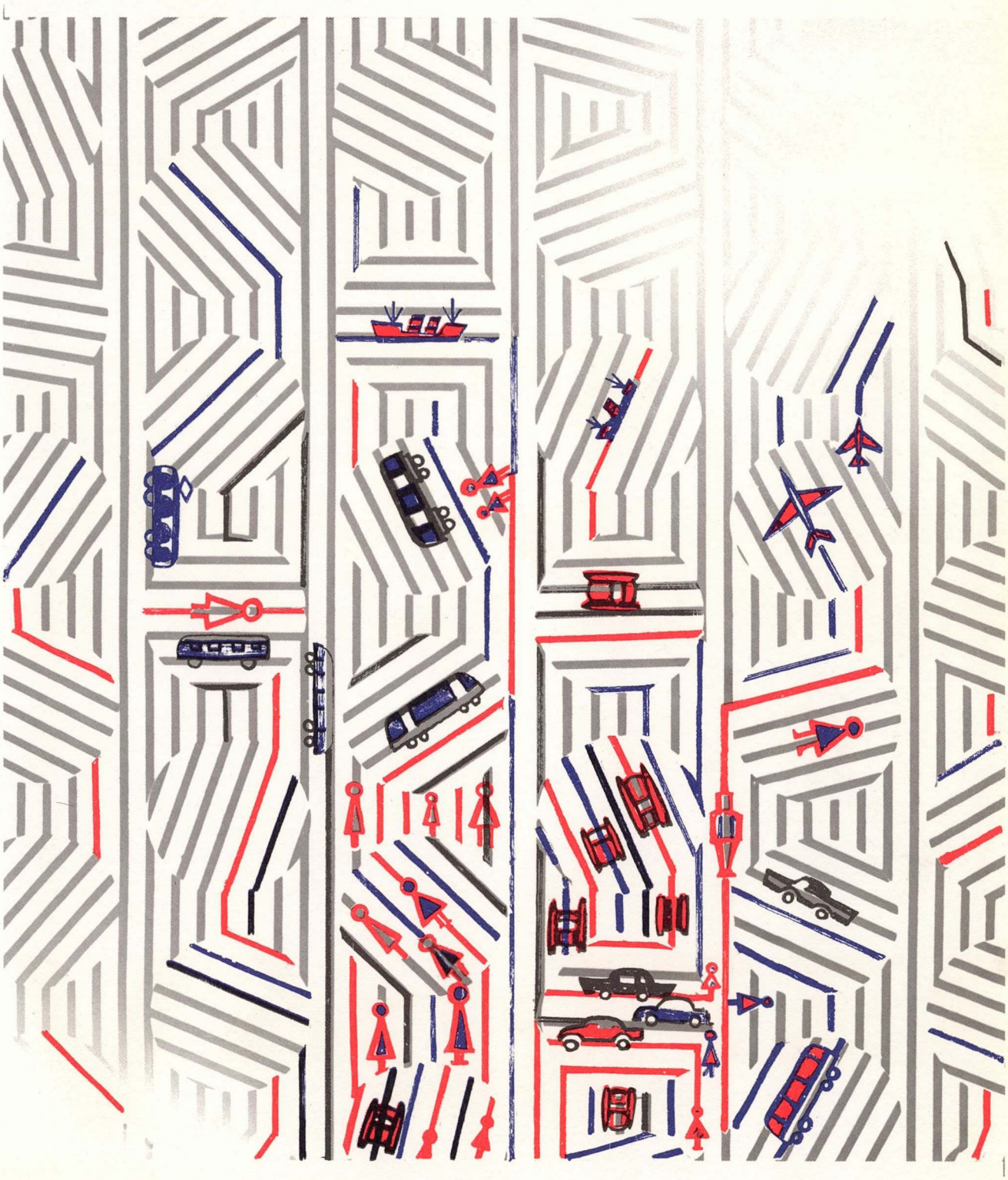
昭和24年3月19日　第3種郵便物認可　昭和42年5月20日印刷　昭和42年5月25日発行　第48輯第5号（毎月1回25日発行）

建築と社会

'67 5

都市と流通空間



日本建築協会

ARCHITECTURE AND SOCIETY

"鉄をつくり 未来をつくる"住友金属



同じ建て坪なら　倍ぐらいには使えます

事務所・工場・倉庫など、中型構造物の建築をご計画中なら、ぜひ、住友のプレハブ骨組《スミフレームV》をご利用ください。中柱が不要で、間口、屋内スペースが広くとれ、同じ建て坪なら、まず、倍ぐらいに活用でき、合理的です。強靱で耐久性に富み、建築も簡単。 360種以上の標準設計を用意しています。

住友のプレハブ骨組

スミフレームV

住友金属

住友金属工業株式会社

大阪 ── 大阪市東区北浜5の15(新住友ビル) 電(203)2201
東京 ── 東京都千代田区丸の内1の8(新住友ビル) 電(211)2211
営業所 ── 福岡・広島・岡山・高松・名古屋・富山・静岡・新潟・仙台・札幌

床材の総合メーカー

TOYO LINOLEUM

洗練された美しさがマチコタイルの生命　スキッとした美しさ…マチコタイルだけが表現できるフロアカラー。独特のカラーが、インテリアデザインを、みごとに、新鮮に演出します。

品質の良さは、すでに、欧米でも実証ずみ　マチコタイルは美しいだけでなく、耐摩耗性、耐薬品性歩行感などにすぐれ、品質の面でも、折り紙つき。インテリアデザイン時代をリードするドイツやイタリアなどでもドシドシ使われています。

■床材のハイ ファッション

マチコV

ビニールアスベストタイル®

リノリューム・リノタイル・マチコタイル・ナイアンタイル総発売元

東洋リノリユーム株式会社

本　社　大阪市南区順慶町通り4の25　・三和ビル

札幌 / 仙台 / 東京 / 長野 / 名古屋 / 広島 / 高松 / 福岡

インテリアデザインを
みごとに演出する
マチコタイル

MATICO



スマートで静かな機械だけが入室を許されます

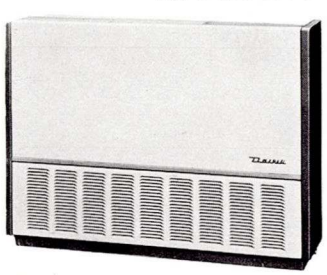
写真のようなお部屋には、スマートで、静かな空調機でないとふさわしくありません。
ダイキン薄形エヤコンは、国産唯一のロータリー式コンプレッサーと独特の静粛ファンの採用によって初めて実現した型破りに薄く、ズバ抜けて静かな冷凍機内蔵の空調機です。ホテル・旅館・病院・高級邸宅の空調にご推せんください。

●完全な個別制御ができます
使用条件の異なる各室・各ゾーンをキメ細く個別空調できます。

●設備費、運転費が安くつきます
冷水ファンコイルのように機械室や複雑な配管工事がいりません。ムダな運転は確実に制御できますから、運転経費も安上りです。

●強冷運転でＮＣ値37の静けさです
独特の機構で初めて実現しました。この種の製品では随一の静けさです。

新発売!!



《水冷式》 UCL 100

●24cm～27cmの超薄型です
壁面にシックリとなじみ、場所をとりません。ほどよい高さは窓際の設置に便利です。

●暖房効果も優れています
ダイキン薄形エヤコンは、蒸気・温水ヒーターを別組みにしますから、80℃の高温水を使用して効率のよい暖房ができます。

●ペリメーター空調にも最適です
幅広く力強く上方に吹出す方式は、ペリメーター空調向です。

驚異のロータリー式コンプレッサー内蔵

ダイキン薄形エヤコン

☆詳しくは、誌名ご記入の上、資料をご請求ください。

ダイキン工業株式会社 本社 大阪市北区梅田８番地（新阪急ビル） 支店 東京・名古屋・福岡 営業所 広島・札幌

《電話連絡先》大阪(06)312－1201(大代)東京(03)272－3211(大代)名古屋(052)961－6351(大代)福岡(092)74－8631(代)広島(0822)47－4471(代)札幌(0122)26－5556(代)

機械と化学で未来をつくる ダイキン

プランニングのときから
タ-ダ Kee フルホットがある





新しい住宅設計のポイントは、セントラルヒーティング。したがって湯沸器のよしあしが、プランのよしあし、ひいては住宅寿命にまで影響をおよぼします。

ターダのKeeフルホットなら、あなたのプランをフルに生かし、その機能性を最高度に発揮、耐久性も抜群です。

ターダのKeeフルホットは、依頼者の信頼にも直結、これからの住宅設計、ホーム・セントラルヒーティングに、ぜひご活用ください。

■サビつかない特殊パーマ・グラス加工、たたいてもヒビ割れしません。

■7つの安全装置、完全自動のすばらしい機能性。

■いつでも、どこでも、たっぷり使える多用式。

■世界でただ一つの〈5年間保証〉湯沸器。

●くわしくは、カタログをご請求ください。

タ-ダ
●ガス器具

多田金属工業㈱キーフルホットA係
大阪市西成区辰己通三ノ九

アメリカA·O·スミス社と技術提携

タ-ダが贈る世界の一流品

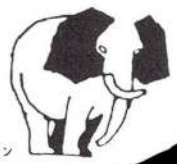
アメリカで900万台売れた最高級湯沸器（ハイトップ・ヒーター）

タ-ダ® Kee フルホット

キー／ガス貯湯式湯沸器　都市ガス用・プロパンガス用

KGA-120	KGA-160	KGA-200
65,000円	77,000円	95,000円

新しい生命を
アスファルトにあたえた!



荷重
やわらかいクッション



水・湿気
水・湿気を通さない



紫外線
直射にも平気



酷寒
もろくならない



薬品
酸・アルカリ・塩分に強い



公害
公害から守る



錆
金属を腐蝕から護る



高熱
引火しない流れない



電気
完全絶縁

一見、なんの変哲もない黒い流動体です。ところがひとたびなにかの表面に塗布しますと、およそ信じられない程の強さを発揮する—それがフリントコートです。大切なものはシエルのフリントコートで守りましょう。

株式会社シエル石油大阪発売所 フリントコート部 大阪市東淀川区西中島町2の76 TEL 302-5937
シエル石油株式会社 アスファルト部

Tsurumi

水中ポンプ



ツルミ水中サンドポンプ　KRB-A型



ツルミ水中ベビーポンプ

	口径(㎜)	揚程(m)	電動機(KW)
水中ベビーポンプ	35～50	6～10	0.15～0.4
水中ポンプR型シリーズ	50～100	15～30	1.5～5.5
水中汚水ポンプ	40～80	6～10	0.4～2.2
水中サンドポンプKR型	50～200	10～28	1.5～22
水中サンドポンプKVM型	75～150	10～28	2.2～22
水中サンドポンプKSM型	100～150	20	11～22



ツルミ水中サンドポンプ　KRB-B型

建設工事に大活躍！

《強力揚排水に焼損が絶無になった》

Tsurumi 特許 ツルミ水中ポンプ群

株式会社 鶴見製作所

本　　社	大阪市城東区鶴見町６８８
	電話　大阪　931－７３５２(代)
東京営業所	川口市元郷町一丁目１６１
・東京工場	電話　川口　22－４０２５～７
札幌営業所	札幌市北２３条東一丁目
・札幌工場	電話　札幌　72－1889・73－2286
福岡営業所	福岡市住吉住田町７５２の２２
	電話　福岡　43－0371～2

お申越次第資料送呈

お部屋のポイントは
床材から……

明るい配色…落ちついたムード
色種類……34色

マルエスの

ビニエスタイル

合成ゴム系(ネオプレンゴム)
異形建物に最適
最終仕上材はハイパロン
色彩……21色

気候較差の著しい
所に最適
防水工事をプレハブ化　新材料
(合成ゴム系コンパウンドにて加工)

マルエス
日新

NS 塗膜防水工法

メルタン ルーフィング

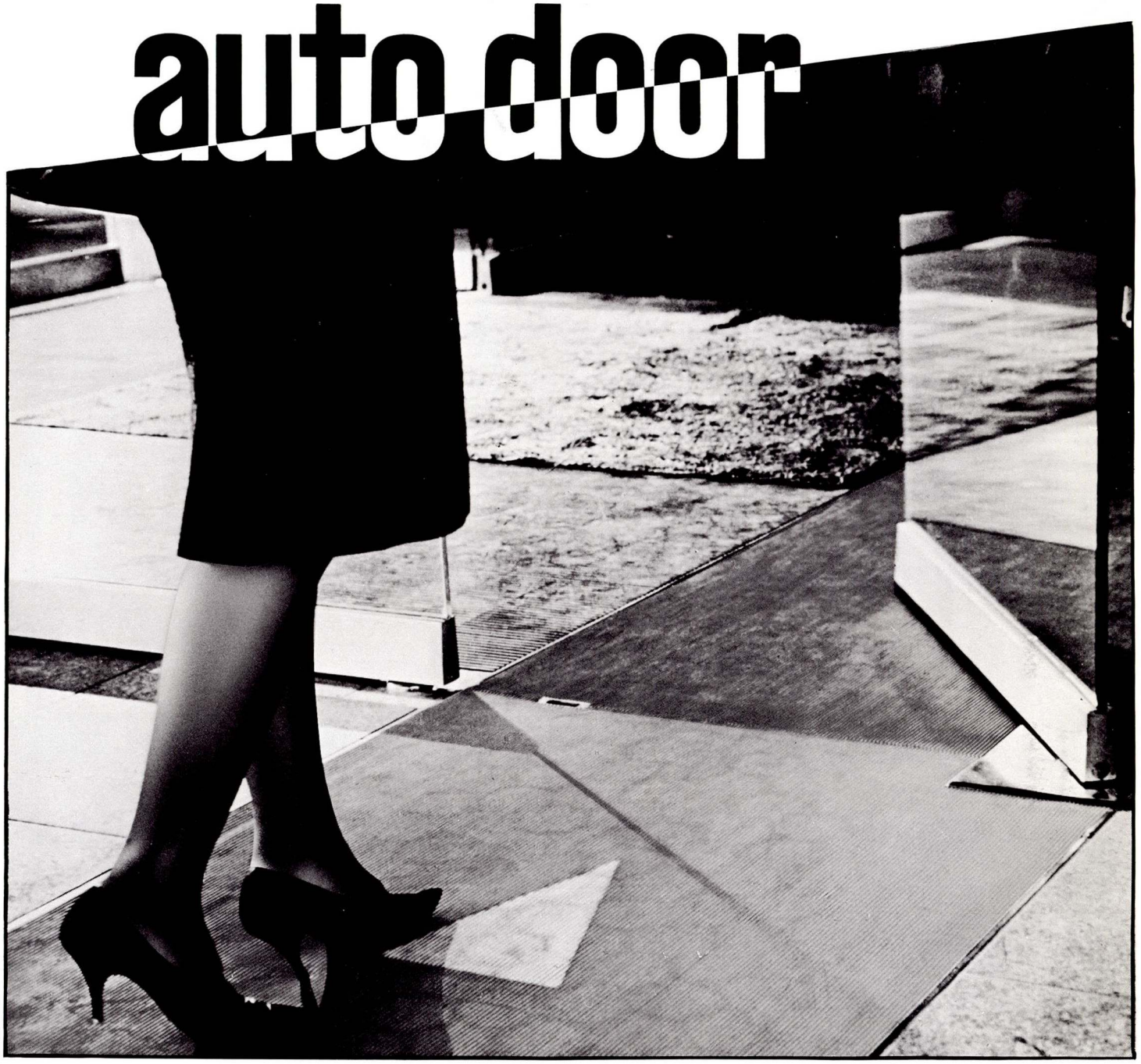
●カタログ
お入用の方は御一報下さい

マルエス ルーフィング製造元

日新工業株式会社

大阪支店／大阪市西区新町北通1－18　TEL(531) 5281～3
本　　社／東京都足立区千住東町93　TEL(882) 2424～34
出 張 所／名古屋(741)6257～8・広島(21)1019・6061
福　岡(74) 3461～3・札幌(51) 6885・5659

auto door



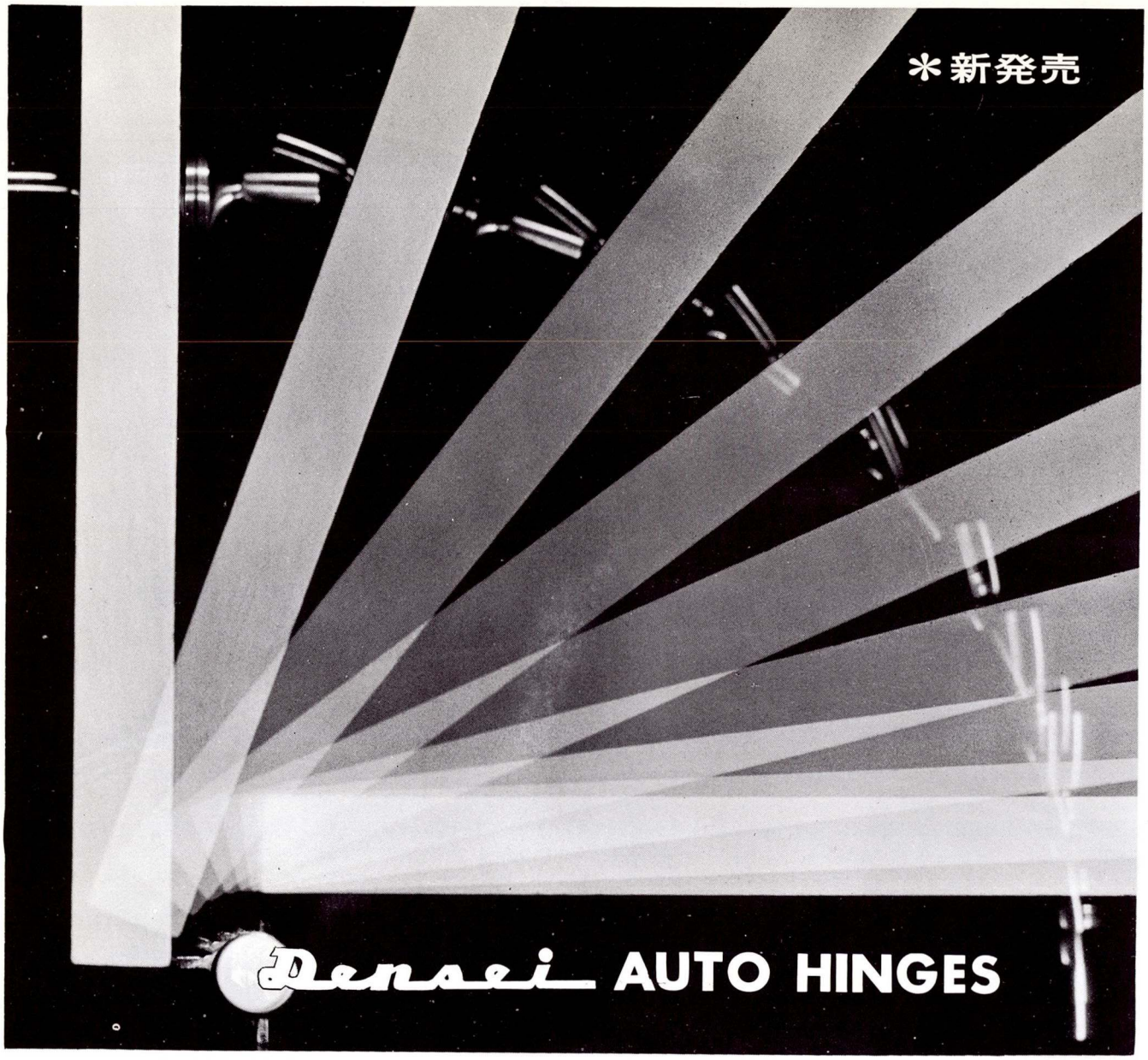
其の他の営業品目

ドアチェック
フロアヒンジ
ピボットヒンジ
シリンダーロック

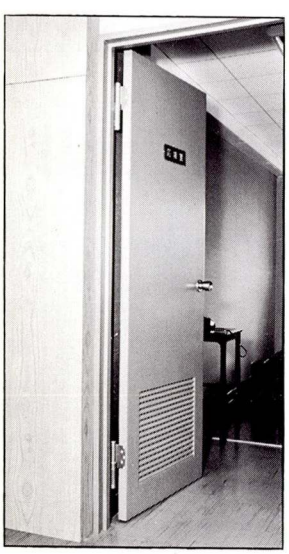
発売元 株式会社 ニッカナ

大阪営業所／大阪市西区新町通り４－３９　TEL 531－4776（代）
本　社／東京都中央区日本橋本町2－7(信和ビル) TEL 241－1301(代)
駐在所／福 岡(65)9131(代)・名古屋 (321)6431(代)・札 幌 (24) 7246(代)

製造元 ダイハツディーゼル株式會社



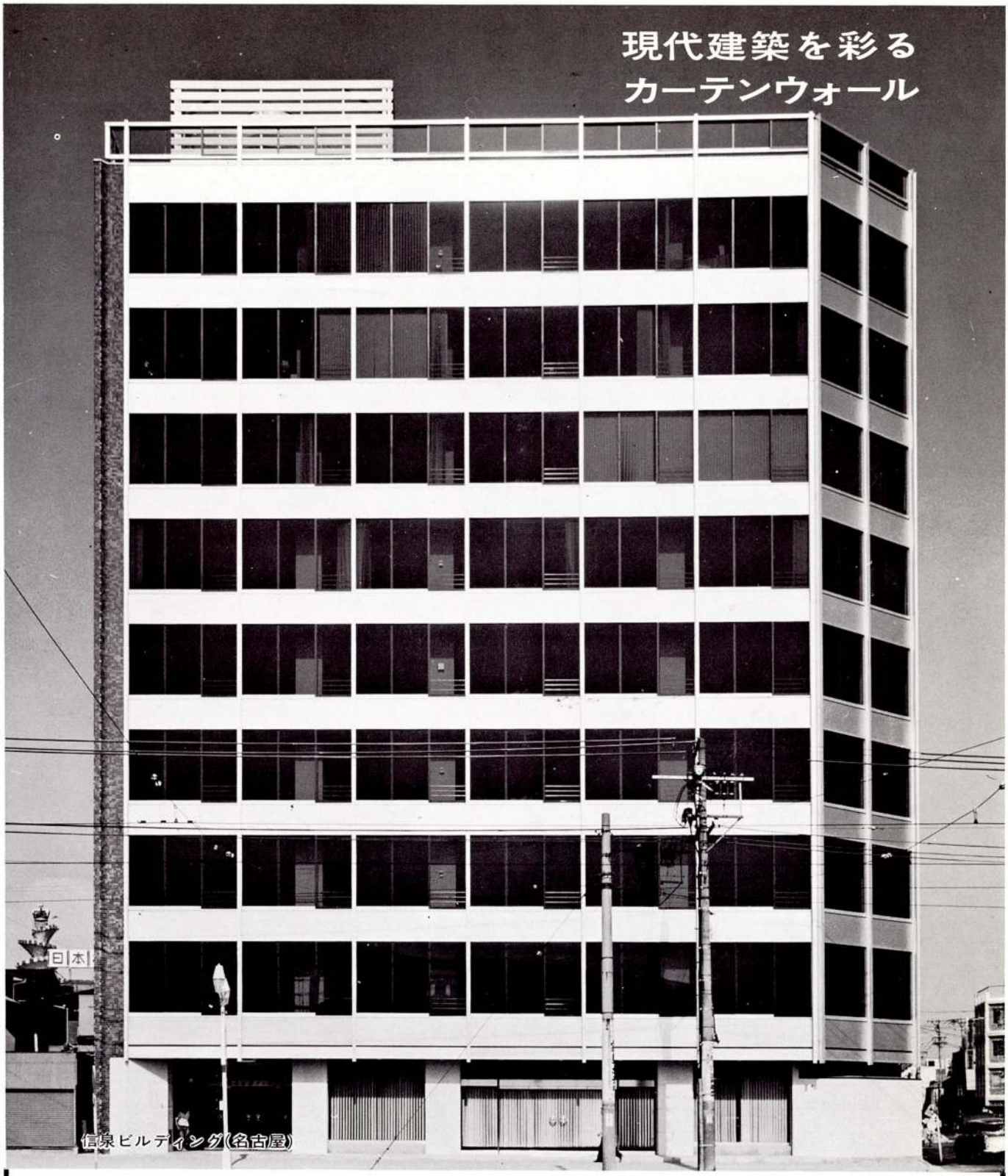
デンセイ オートヒンジ《丁番型》



■ 特　長

1. 丁番がドアークローザーを兼ねていますので、外観は目立たず、そのシンプルなデザインは扉に良くマッチします。
2. 画期的なダブルスプリング切換機構(クラッチ)により、充分な閉扉力を具えております。
3. 内蔵されたストップ装置により、扉は85°～90°の間でストップします。
4. 閉扉速度のコントロールは円滑で、速度調整はどなたにも簡単にできます。
5. ドアーチェックを使用することが困難な特殊な扉にも使用できます。
6. 機構的に摩擦面が少く無理がありませんので、耐久力に優れ、20万回以上に及ぶ耐久テストでもこれが実証されています。

発売元　日恵機材株式会社
東京都千代田区丸ノ内2～2（丸ビル459区）
電話　東京(201)３３３３(211)０００５
大阪出張所　大阪市東区高麗橋５～16(今井ビル)
電話　大阪(231)４６０８
製造元　日本電氣精器株式會社



<営業品目>

カーテン　ウォール
アルミサッシ・ドア
ステンレスサッシ・ドア
スチールサッシ・ドア
住宅用アルミサッシ〝エリート〟
アルミレディーメード　サッシ・ドア

サッシの綜合メーカー

dsk ダイケンサッシ株式会社

本社・工場　堺市松屋町1－6　TEL 堺(38)大代表 1141
鳳　工　場　堺市平岡町48　TEL 堺(7)代表 5541
営　業　所　大阪・東京・名古屋・金沢・福岡・長野



ノジギク園
設計　兵庫県建築課
施工　東海興業株式会社
使用場所　外装全面

●特許建築用内装・外装化粧材
砂粒状陶磁器の吹付
セラスキン

●粉状陶磁器の吹付
セラコート

●粗粒状陶磁器の吹付
セラカット

セラスキンとは陶磁器の皮（CERAMIC SKIN）と云う意味で砂粒状の有色陶磁器と結合剤とを混合、液状としたもので、これをスプレー（コンプレッサー使用）ガンにて建造物の内・外、壁面、天井etc に吹付け、防水性と装飾を目的とする建材です。

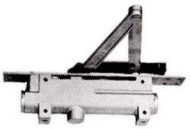
特　徴

- ●色　彩　高熱焼成（1250℃－1350℃）にて発色した陶磁器を主材料にして顔料、色素を使用しない為雨風、太陽光線による色彩の変化は起りません。
- ●防水性　通気性、防水皮膜を形成します。
- ●耐薬品性　弱酸、弱アルカリに対しては変化を起しません。
- ●耐寒性　－20℃に4時間冷凍しても亀裂その他の異常は認めません。
- ●下　地　コンクリート打放し、モルタル、ベニヤ板、和壁、ブロック、スレート、テックス類etc.
  鉄類の場合は錆止塗料を塗って下さい。

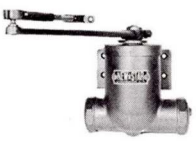
山本窯業化工株式会社
大阪市東淀川区西淡路町3－176　TEL（322）4851～4
東京出張所・東京都港区西新橋2－21－6　TEL（431）7106～7
瀬戸工場・愛知県瀬戸市大字山口字南山138　TEL（82）8847

NEW★STAR

NEW★STAR



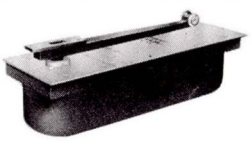
ドアチェック 60シリーズ



ドアチェック 70シリーズ



ドアチェック 80シリーズ



フロアヒンジ

その他
ラバトリヒンジ
ピポットヒンジ
ドアハンドル

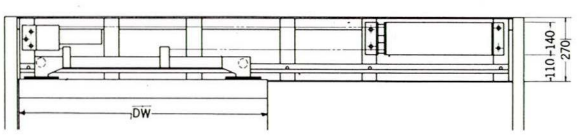


✳ 品質・性能ともに定評ある

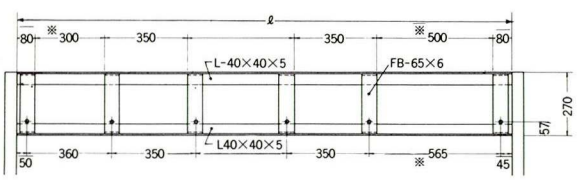
●スイング式・スライド式

ニュースタードアオペレータ

片引き戸内観図



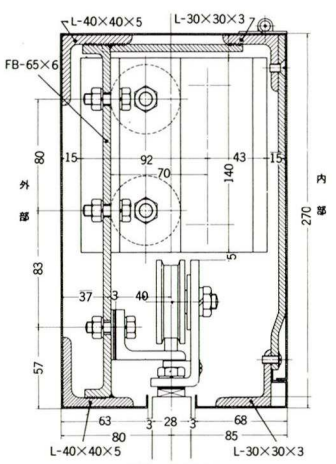
エンジン及ドア関係要領



レール取付板例図

※印寸法は守って下さい。
※印寸法NSL-4の場合は$^{535}_{600}$に変更されます。

上枠断面懸吊要領



※斜線部は客先工事分

■ニュースタースライド式ドアオペレーターの特徴

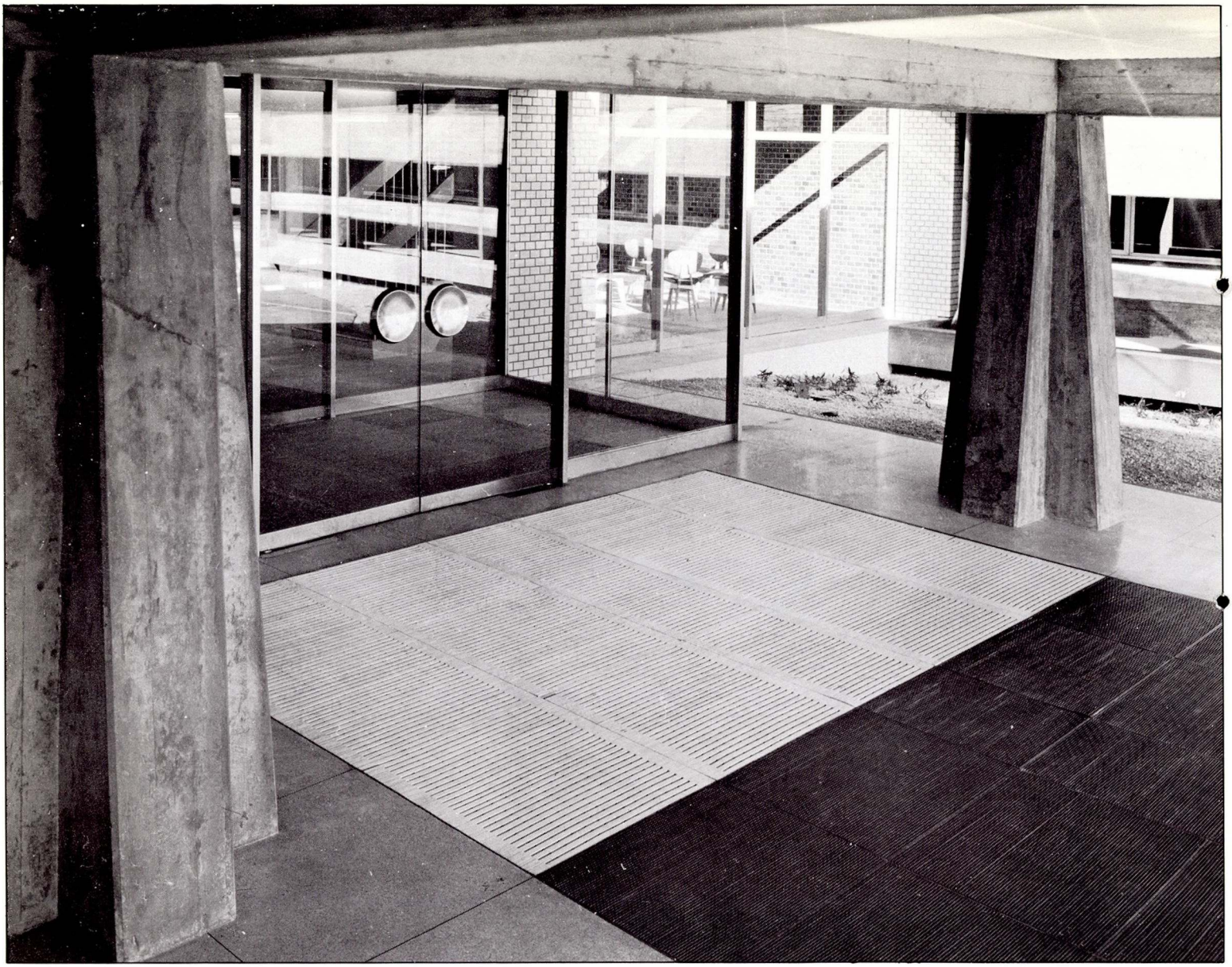
●油圧の長所と電気式の利点とを組合せた新製品です。●油圧装置がついているために閉る速度が「ゆるく」「なめらか」です。●バルブの調整で閉る速度が自由に変えられます。●閉る手前で一旦止って、その后ゆるく閉ります。●停電の場合、すぐに手で軽く開閉が出来ます。●価格が安く、別途工事がほとんどない。●取付工事、保守が非常に簡単です。

生産高日本一

日本ドアーチエック製造株式會社

本社工場 大阪市生野区巽矢柄町222 電話(758) 1251(代)
東京支店 東京都千代田区神田小川町2－12(信愛ビル) 電話(293) 4831～5
札幌出張所 札幌市月寒中央通り月寒314－1 電話(86) 8255～6
名古屋出張所 名古屋市東区高岳町1－11 電話(961) 5771～3
広島出張所 広島県安佐郡佐東町緑井205 電話(広島八木局)106
福岡出張所 福岡市天神4丁目4番24 電話(74)2372・3312

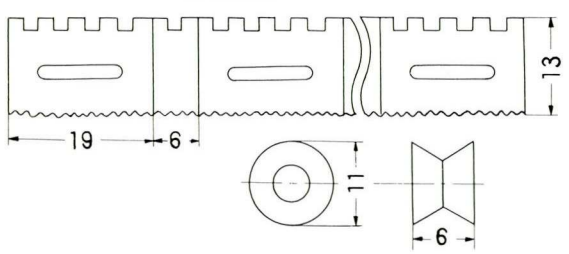




各種玄関マット設計製作　ミヅシマ

ストレートラインアット
（ビニール）

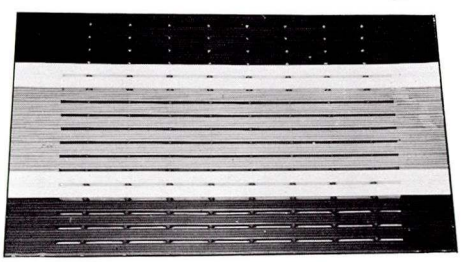
断面詳細図



ハイセンスを
しこう！

グッドデザインを
選ぼう

●PAT.NO.748401



おそうじ百貨
ミヅシマ工業株式会社

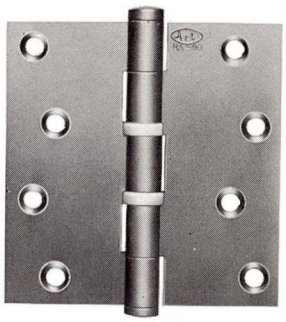
営業本部／大阪市西区北堀江上通一丁目20　TEL（531）3514・8246・9347
本社工場／京都市南区久世築山町 380の２　TEL（92）６３６１～３

〈営業所〉
東　京／TEL（666）4714（668）4873
名古屋／TEL（731）5138・5396
京　都／TEL（22）5363・0214
大　阪／TEL（531）3514・8246
福　岡／TEL（29）２７０６

Art の製品には……

日本住宅公団指定規格品

DR-844 ヒンジ



●デルリンブッシュ入
平頭角型ギボシ丁番

- ドアーの開閉時に音を立てない。
- 長期の使用にも摩耗する事がない。
- 注油の必要がない。
- 温度の急激な変化にも耐えられる。
- 衝撃にも強い
- 完全防錆のボンデライズ焼付塗装である。

寸法（㎜）

呼名	全長	横巾	板厚	ナックル外径	ブッシュ	SWAGING	取付巾	鋼材	十字穴付木捻子 JIS.B1112			
	A	B	C	D	E	F	G	JIS G3307	H・I	本数	太サ	長サ
89㎜(3½)	89	89	2.5	12.3	4.5	1.6	29	SPH-1	10×6	6	4.5	25
102㎜(4)	102	102	2.8	13.0	4.5	1.6	32	SPH-1	10.5×6.2	8	4.8	25
127㎜(5)	127	127	3.2	14.7	5.0	1.6	39	SPH-1	12×6.7	10	5.1	32

●丁番の取付けが簡単、作業能率の向上！

木ネジの革命 **スパイラー**



- 錐でガイド(下穴)を設ける必要がない。
- 全ネジ式ですから密着が良く振動のために抜けてくるようなことはない。
- 釘状の部分で木部へ安定した嵌合が出来るのでドライバーの横滑りがなく製品を傷めずに固定出来る。
- 表面硬化をしてあるためにネジ山の破損が少なく反復作用によく耐えます。

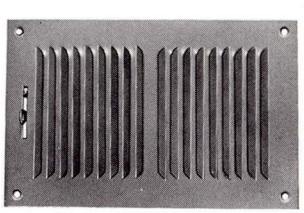
※〝アート〟のヒンジの中級品以上（DR-844. NR-64. ST-84. ST-SL-84-1）にはスパイラーが附属されています。

●最新型ウォール
レジスターセット

EWレジスター ●米国FHA規格品

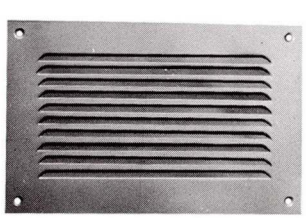
- 自然換気により室内の空気はいつも爽やか。
- 室内冷暖房の保温調節が容易。
- シャッター120°迄自在調節止め付。
- 錆の発生、変色がなく湿度の高い所、バスルーム等にも安心して使用出来る。
- スッキリとしたデザイン中間色の落ちついた色調。
- 風雨の晒す場所でも雨の吹込む心配がない。
- ソフトシートにて取付けの際のガタつきがなく、完全密着取付け施工が出来る。

レジスター No.55—R



取付部分切込み寸法 ㎜（吋） 縦	横	表面板寸法(㎜) 縦	横
150（6″）	260（10″）	195	295
150（6″）	310（12″）	195	345
150（6″）	360（14″）	195	395

グリル No.55—G 防虫網付



取付部分切込み寸法 ㎜（吋） 縦	横	表面板寸法(㎜) 縦	横
150（6″）	260（10″）	195	295
150（6″）	310（12″）	195	345
150（6″）	360（14″）	195	395

※鉄筋住宅のお部屋の換気、冷暖房装置の通風口には理想的な吸入、排気のレジスター、グリルをセットして使用ください。

Art ●JIS規格表示許可工場　日本住宅公団指定メーカー
永和工業株式会社

本　社　大阪市生野区巽矢柄町128　TEL 大阪(751)1271～5
工　場　東大阪市布市町50　TEL 枚岡(81)5566
東　京　東京都中央区日本橋本町4—4　TEL 東京(663)6748
営業所　（クラウンビル内）

完全責任施工 | 年限保証

日本アスのアスファルト防水

■シグマートによるウエルドシステム防水工法
■特殊絶縁防水工法（特許出願中）
■メルタン防水工法

■全国に配置された組合員の強力な連繋と技術で完全な施工工事をお引受けいたします。

地区別	会社名	代表者	住所	電話
北海道地区	日本スレート株式会社	仲川 憲吉	札幌市北三条東４－１	（22）3458・4426（23）8016
	日新建工株式会社札幌出張所	大木 久俊	〃 南大通り西13丁目	（22）５０１５
東北地区	日新建工株式会社仙台出張所	滝沢 慶則	仙台市二日町１－２	（25）５４３１代
関東地区	伊藤建材株式会社	伊藤 豊吉	東京都台東区西浅草２－15－９	(841) 5646・5729
	北条瀝青工業株式会社	北条 弘太	〃 中央区湊町３－７	(551) 2676・4382
	有限会社金岡興業	金岡辰次郎	〃 新宿区柏木５－1172	(363) ４３４１代
	瀝青建材株式会社	山中喜代治	〃 千代田区神田佐久間町河岸51号	(866) 6993・2892
	日新建工株式会社	荻野 英夫	〃 荒川区南千住６－42	(803) 2411～５
	日本綜合防水株式会社	山崎 慎二	〃 千代田区神田猿楽町１－９	(292) ２６６１代
	マサル瀝青工業株式会社	西田 勝治	〃 台東区北上野２－21－10	(842) ６３１１代
	藤井工業株式会社	藤井 喜昌	〃 文京区林町94	(941) 0271・2582
	富士工材株式会社	小島 英夫	〃 江東区深川住吉町１－14	(634) 0950・0900
	鶺田工業株式会社	鶺田 武	〃 千代田区富士見町１－12	(263) ４８６１代
	木下工業株式会社	木下 一	〃 墨田区江東橋４－32	(634) ０８２１代
	野口工材株式会社	野口 伝八	〃 渋谷区下通り３－15	(441) 3751 (444) 0405
	大和工業株式会社	楡井 喜重	〃 荒川区南千住６－151－２	(802) ４７５１代
	協立工業株式会社	関谷 克巳	〃 大田区南蒲田１－14－２	(731) 0358 (738) 3401
	株式会社奈良屋商店	市橋 祐造	水戸市泉町1009	（３）0171～６
	石田建材工業株式会社	石田 想吉	高崎市八島町117	（２）3301～２
	同和建業株式会社	徳永 昭二	新潟市流作場宮浦１－1711	（45）２２５１代
北陸地区	島屋建設株式会社	島 勝人	金沢市此花町５－７	（21）0085 （31）6420
	有限会社折橋政次郎商店	折橋彌一郎	富山県高岡市二番丁	（２）０９９９
	有限社会小島工業所	小島 一公	〃 〃 志貴野２５	（３）０３９１
	大和工業株式会社富山営業所	島田 真一	富山市堀川小泉町７７６	（31）４３８５
東海地区	株式会社三井工業所	三井 辰雄	静岡市大和町１－20	（85）9151～３
	協和建材工業株式会社	渡辺 亘	清水市渋川５２０	（２）２２２１代
	中央建材工業株式会社	木下 作二	名古屋市中区南久屋町３－12	(251) ３５４１
	日本建材鋼業株式会社	伊藤 隆造	〃 西区南押切町５－12	(571) 代5541～４
	宮崎建材店	宮崎 勇	〃 中区伊勢山町１００	(321) 1311・1331
	東京建材工業株式会社	伊藤 鎮善	名古屋市中村区稲上町１－41	(461) 9363 (481) 5621
近畿地区	日新工材株式会社	井場 績	大阪市西区新町北通１－17	(541) 3785～６
	マルエス工業株式会社	山崎 達夫	〃 福島区上福島南１－152	(458) 4841～３
	株式会社新光商店	松本 重治	〃 南区塩町通２－13	(261) 7195～７
	清水興業株式会社	清水 実	〃 北区鶴野町３４	(371) 0251～３
	マサル瀝青工業株式会社大阪営業所	勝見 勲	尼崎市水堂加茂６４	(481) ７３５５
	中村瀝青工業株式会社	中村秋太郎	神戸市生田区北長狭通６丁目神織共栄ビル	(34) 5884・5658
	棚田建材有限会社	棚田 秀吉	〃 葺合区上筒井通８－221	(22) 9182代
	フタバ興業株式会社	友長 保男	大阪市福島区上福島北４－49	(458) 0267・0277 (451) 6089
	石橋建材株式会社	石橋 節雄	福井市松ケ枝町６２	(23) ０７７５
中国地区	豊永建材株式会社	木村 豊	広島市若草町１０６５	(61) 6371～４
	大和工業株式会社広島出張所		〃 庚午南町１－２	(71) ４６８７
	株式会社三洋技建	谷岡 肇	広島県大竹市小方町小方２４５５	（２）３５４３
	東中国防水工業有限会社	馬場 久	岡山市磨屋町７－18	(23) １１８１代
四国地区	株式会社山本商会	山本 進	松山市三番町７－８－１山本ビル	（３）6261～３
	大三工業株式会社	飯間 浅吉	高松市本町２－17	(51) ６８１１～５
	高知瀝青株式会社	横井 良一	高知市塩屋崎町２－20	（２）３２４４
	徳島大三工業株式会社	柴田 秋男	徳島市矢三町東野 181－１	（４）４１６１
九州地区	日新興業株式会社	河野 孝義	延岡市本小路７４	４３０５・４３０６
	株式会社工材社	竹村 藤一	北九州市門司区大里東通10丁目	(38) 1468～９
	株式会社大二商会	戸高 藤雄	宮崎市和知川原３６５	（２）５００１
	株式会社北原建材商会	北原 正	鹿児島市草牟田町３９８０	（３）9395～６
	安藤工事株式会社	川勝 正之	福岡市大浜１－新町９５	(28) 5207～９
	日建工材株式会社	進藤 博一	〃 大手門２－８－６	(75) ７７５２

■建設省東計第240号認可

日本アスファルト防水工業協同組合

東京都足立区千住東町９３　日新工業株式会社内　電話（882）２４２４(代)
関東支部　東京都足立区千住東町93　日新工業株式会社内　電話（882）２４２４(代)
関西支部　大阪市西区新町北通1－18日新工業株式会社大阪支店内　電話(531)5281－３
九州支部　福岡市大手門１の６　日新工業株式会社九州出張所内　電話（74）３４６１

東・西アス協組 統一年限仕様確立

特許

ギル・アス防水

ギル・アス防水は
世界の防水の
九〇%以上をしめる
アスファルト防水の
安定した実績と
長い伝統の上に開発された
〈強力ギルソイド・
アスタイト防水〉
の略称です

ずばぬけた耐候・耐久性
幅広い温度特性
下地亀裂に順応する延伸性
きわだった柔軟性…など

建築防水として必要な
かずかずの苛酷な実験に耐え
あらゆる面で
現代最高の防水であることが
実証されています

強力ギルソイド

合成繊維の不織布にアスタイトをタップリと含浸させた特許製品で、いわばアスタイトの層に維繊が内在する〈**プレハブ防水被膜**〉ともいえる防水補強材の決定版です。
下地亀裂に順応する延伸性のほか、低温でも脆化しない柔軟性、粘りと強靱性、腐朽・老化しないずばぬけた耐候・耐久性など補強材として理想的な特性をもっています。

アスタイト

特殊な製法によってつくりだされる最高の防水材で、一般の合成樹脂にもまさる画期的な特性をもち、〈**黒いプラスチック**〉ともいえるものです。
耐候・耐久性、温度によって硬化・軟化しない幅広い温度特性加熱安定性、強い粘着性、適度な塑性流動性など、防水材として要求されるあらゆる特性をそなえています

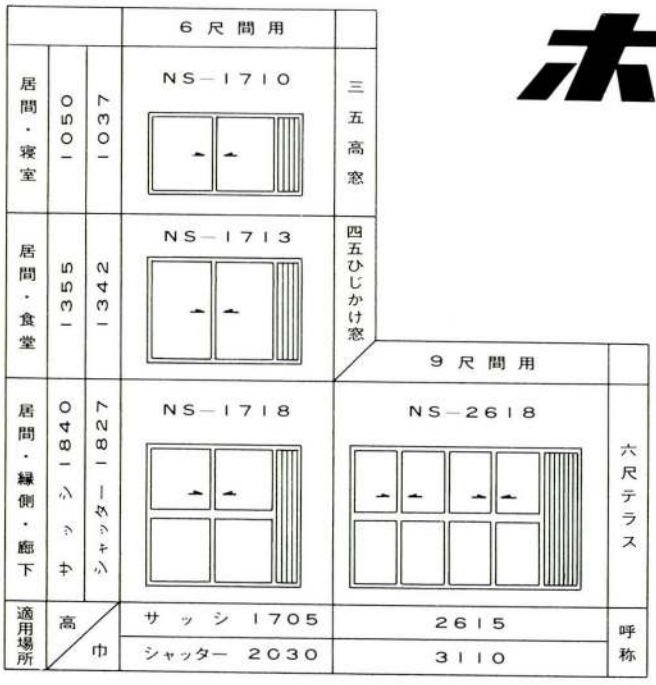
ギル・アス防水

すぐれた性能のアスタイトと、特許・補強材強力ギルソイドを組み合わせた防水層は、その相乗効果によって、どんなきびしい自然条件にもよく耐えて、老化・変質することなく、破損・漏水などの事故をおこさない〈**最高の防水層**〉です

建設省東計65号認可 東日本アスファルト事業協同組合
建設省阪建22号認可 西日本アスファルト事業協同組合

東　京・千代田区岩本町3の11の13田島応用内　TEL代表（866）6101
大　阪・大阪市西区京町堀1の74　TEL代表（441）5951
札　幌・TEL（22）6038　仙　台・TEL（22）6413　名古屋・TEL（571）6361
福　岡・TEL（28）2807　広　島・TEL（21）2281　岡　山・TEL（24）2692





ホームシャッター

レディメード サッシ付

従来住宅の窓には台風時や盗難の予防のために雨戸を別に取付けておりますが、このホームシャッターは工場でサッシとシャッターを一体にして製作されていますので雨戸を別に設ける必要がなく、現場取付も一度ですみます。またシャッターは折りたたんだ時そのまま化粧となりますので、戸袋をつける必要がありません。

■特　長

1．お子さまでも手軽るに開閉できます。
2．外観は優美です。
3．戸袋はいりません。折りたたんだスラットがそのまま化粧となります。
4．火災・台風・盗難すべて安心です。
5．施工は簡単です。
6．安価です。

株式会社 日本シャッター製作所

本社・工場　大阪市東淀川区田川通６丁目３８番地
TEL （３０１） 代表３６５６～９
営業所　東京・名古屋・金沢・神戸・岡山
広島・高松・福岡・北九州

◀通常総会開催通知

本年度通常総会を下記のとおり開催いたします。ご多忙のところまことに恐縮ながら何卒お繰り合わせご出席くださいますようお願い申し上げます。　社団法人 日本建築協会 会長　東畑謙三

記

日　時　昭和42年6月16日（金）3時半
場　所　近畿建築会館4階集会室（北浜3丁目）
議　題　（1）昭和41年度事業報告承認の件
（2）昭和41年度決算報告承認の件
（3）昭和42年度収支予算承認の件（4月号会告）

◀会員の受賞

下記会員の方々は，昭和42年春の叙勲，ならびに大阪府知事より建設関係功労者として表彰を受けられました。ここに誌してその栄誉をお慶び申し上げます。

記

●春の叙勲（大阪府関係）
勲五等双光旭日章　福田万亀雄氏（大阪工業技術専門学校理事長）
勲五等　瑞宝章　井上　福蔵氏（㈱井上組社長）
勲六等単光旭日章　永田　鼎三氏（大阪電気暖房㈱相談役）

●大阪府知事表彰
建設関係功労者　赤松　修氏（赤松嘗野建築設計事務所代表取締役）
〃　〃　大下順三郎氏（平和建設㈱社長）
〃　〃　北栄弥三松氏（松尾橋梁㈱社長）
〃　〃　辰巳秀太郎氏（㈱辰巳工務店社長）
〃　〃　知見　義夫氏（㈱斎藤省三商店大阪支店長）
〃　〃　船木　由松氏（昭和産業㈱社長）
〃　〃　松井　邦彦氏（耐酸化学工業㈱社長）
〃　〃　山崎　達夫氏（マルエス工業㈱社長）
〃　〃　山本　義樹氏（西日本建設業保証㈱専務取締役）
〃　〃　横田喜一郎氏（㈱工英社社長）

◀昭和42年度理事会務分掌

4月13日開催の第1回理事会において下記のとおり理事各位の会務分掌が決定いたしましたのでお知らせいたします。（＊印主幹）

記

	主記	主計	編集
（技術部門）	＊佐野　正一氏	中原　茂氏	＊政岡　基次氏
	後藤　典夫氏		長沢　徹夫氏
	橋本　忠保氏		西村　栄一氏
	堀内　三郎氏		長谷川哲之助氏
			岡橋作太郎氏
（総合部門）	藤木　正一氏	大林　芳郎氏	竹中　錬一氏
	鴻池　藤一氏		浅沼猪之吉氏
	松村　雄吉氏		白井　周二氏
（電気部門）	佐藤　太氏	＊梶本　秀尾氏	菅谷　三郎氏
（管工部門）	南　長吉氏	伴　一郎氏	尾亀清四郎氏
（建材部門）	安田　誠一氏	田中　政二氏	横田喜一郎氏
（支部）	中川　文雄氏		芳山　保蔵氏

◀新建築現場見学会
大阪駅前市街地改造事業第一棟新築工事見学会（大阪府建築士会，日本建築学会近畿支部と共催）

日　時　6月3日（土）集合　1時→解散3時
所在地　大阪市北区曽根崎上4丁目
集合場所　桜橋交叉点，北東角一ツ北の筋東入ル・大林組現場事務所前（目標会旗）
申　込　5月末日までに電話で願います。
＜但し定員150名（三会共）に達し次第〆切ります。＞
建物概要　施　主　大阪市区画整理局
設計監理　大阪市建築局再開発施設課
株式会社　東畑建築事務所
施　工　株式会社　大林組
構造規模　SRC造　地下6階　地上12階，塔屋4階
第1期，第2期　建築面積 9,140㎡　延建築面積 98,500㎡
竣　工　昭和43年11月末日
上記見学会は特殊地下工法を見学いたします。

◀50周年記念事業：第3回特別見学会
『桂離宮・修学院離宮・表千家・裏千家の茶室を見る会』

今回の見学先は，種々の制約がありますが，この機会により多くの会員各位が参加願えるように，班別による見学コースといたしました。下記要項をご参照の上折返し往復はがきでお申込み下さい。

記

開催日　6月20日（火）
班別見学コース
A班「桂離宮と裏千家茶室」　9.00～14.00（15名）
B班「桂離宮と表千家茶室」　11.00～15.30（15名）
C班「桂離宮」のみ　13.30～14.30（15名）
D班「桂離宮」のみ　15.00～16.00（15名）
E班「修学院離宮と表千家茶室」11.00～15.30（27名）
F班「修学院離宮」のみ　（30名）
注（　）内は定員
会　費　「A」「B」「E」班のみ300円（昼食代，その他）
申込方法　往復はがきに限ります。『往信』に第1希望と第2希望の「班名」・氏名・年令・勤務先と役職名・電話。現住所。前記要項の記載がない場合は申込受付を保留いたします。また「はがき」は連名とせず1人1枚に願います。定員を越えた場合は抽せんいたします。『返信』には返信先と氏名を必ず記載して下さい。
申込〆切　6月8日の消印までとします。
（注）集合・解散は現地を予定しております。
参加者には参加証を6月15日までに送附いたします。

◀千里に建つ高層住宅団地見学会

日　時　6月24日（土）集合・午後2時→解散・4時
集合所　阪急電車千里線・南千里駅出口付近・目標会旗
申込方法　6月13日までの消印のある往復はがきで願います。
20日までに定員100名に参加証をお届けいたします。
建築概要　計画名　千里E住区高層団地／場所　吹田市千里ニュータウンE住区／設計　日本住宅公団大阪支所，東畑建築設計事務所／監理　日本住宅公団大阪支所／施工　塔状建物戸田建設，版状建物佐藤工業，奥村組／敷地面積　52,800㎡／全延面積63,000㎡／住戸数　993戸／容積率　120%／構造　RC－SRC／地上11階／工期1965年12月～1967年5月／版状建物3棟と塔状建物4棟からなる。

□お知らせ□　懇親ソフトボール大会は開催を延期いたしました。

◀昭和42年度日本建築協会常設委員会委員

4月13日の理事会において，下記のとおり昭和42年度常設委員会の委員委嘱を決定いたしましたので，ここに委員氏名を掲載いたします。

日本建築協会

（敬称略・50音順・◎印委員長・○印副委員長・△印幹事・＊編集理事）

■ 事業委員会

見学・講演・説明・映画・展示・懇親会・若い会員の集いなどの事業企画および実施

安部大就（大阪府立大学）
審忠夫（国鉄）
今井平（大阪市）
打浪政信（新興建材工業所）
○尾亀清四郎（三晃商会）
大橋一夫（関西電力）
○岡本弘（浅沼組）
柏岡十三介（阪急電気）
△金子敏男（鹿島建設）
金本賢治（大阪建築事務所）
○窪田祐（大林組）
久保田進也（松村組）
小泉豊（銭高組）
△駒日出男（駒建築事務所）
○近藤義雄（清水建設）
佐藤暢秀（今西組）
佐藤泰（大阪市）
椎原毅（池上建築事務所）
鈴木洋也（東畑建築事務所）
田中隆（竹中工務店）
△田森信夫（熊谷組）
滝川公策（坂倉準三建築研究所）
谷川丈夫（西原衛生工業所）
○冨中三郎（鴻池組）
中野孝治（安井建築設計事務所）
○中出俊郎（竹中工務店）
中村信夫（大阪市）
△能勢次郎（能勢建築事務所）
○林野全孝（近畿大学）
原田守蔵（原田商店）
△平田作太郎（平田タイル）
△星野二郎（住宅公団）
◎政岡基次（政岡土地）
南次郎（浅沼組）
道田泰治郎（新工務所）
村上良雄（大阪郵政局）
村川十一（昭和設計事務所）
森田孝雄（国鉄）
○矢野豊作（藤木工務店）
○山本義樹（西日本建設保証）
吉田正春（南海電車）
和田克朗（大阪府）

■ 編集委員会

会誌「建築と社会」の企画・編集

＊浅沼猪之吉（浅沼組）
△猪沢徳忠（兵庫県）
池田彰一郎（東畑建築事務所）
△出江寛（竹中工務店）
石本徳三郎（積水ハウス）
乾亮三（今宮工高）
＊尾亀清四郎（三晃商会）
＊岡橋作太郎（日建設計工務）
△河野元昭（日建設計工務）
岸政司（安井建築設計事務所）
鬼頭寿郎（清水建設）
清水克己（住宅公団）
島津良樹（京都大）
＊白井周二（清水建設）
＊菅谷三郎（大阪電気暖房）
高木富夫（坂倉準三建築研究所）
＊竹中錬一（竹中工務店）
△多胡進（大阪市大）
立成良三（大阪府住宅公社）
永井実（布施工高）
中原信生（大林組）
中村文男（清水建設）
＊長沢徹夫（竹中工務店）
＊西村栄一（大阪市）
西村源之助（大阪建築事務所）
◎＊長谷川哲之助（近畿地建）
服部卓爾（共同設計）
福原裕治（大阪市）
＊政岡基次（政岡土地）
松田昌久（都市設計）
枡谷芳明（大阪府）
松村芳夫（大成建設）
村尾栄（竹中工務店）
△溝神宏至朗（安井建築設計事務所）
村上孝雄（鹿島建設）
毛利誠（大林組）
森谷晋作（近畿地建）
＊横田喜一郎（工英社）
＊芳山保蔵（京都支部）
吉村勲夫（住友鋼材）
脇山広三（大阪大）

■ 法規委員会

建築に関する法規の研究ならびに普及

一ノ瀬周太郎（兵庫県）
伊藤幸一（清水建設）
上田隆夫（大阪市）
越智隆晴（高橋事務所）
大津敏晴（東和組）
恩田一則（大阪市消防局）
椚座正信（大阪府）
楠昭夫（村野森事務所）
越田正勝（大阪市指導課）
小林得志（小林建築事務所）
駒敬三（駒建築事務所）
近藤達夫（大阪市）
◎佐野正一（安井建築設計事務所）
島田儀（大阪府）
竹内博文（大阪市大事務局）
竹口信夫（大阪市）
田淵穣一（大林組）
土居一雄（新建築事務所）
丹羽克己（大阪府土木計画課）
西田一（住宅公団）
林谷武雄（竹中工務店）
福永薫（福永建築事務所）
松井清開（東海興業）
森川喜代之助（森川建築事務所）
山田忠顕（大阪市）
山本広志（近畿地建）
山本康雄（万博協会）
吉村卯（大阪府）
渡辺甚吉（大阪市）

■ 住宅委員会

住宅に関する研究ならびにこれが改善についての一般啓蒙

足立幸一（大阪市）
秋田満（住宅公団）
生田喜一郎（大阪市住宅供給公社）
上田良治（ユーエー事務所）
大橋孝則（大阪府）
太田隆信（坂倉建築研究所）
◎岡橋作太郎（日建設計工務）
奥山清治郎（都島工高）
垣内弘（柴田土地建物）
景山正明（大建ウォールボード）
勝浦覚（日生住宅）
金森梁雄（京阪電鉄）
北本隆之（大林組）
○黒谷俊一（住宅公団）
古郷康雄（大阪府）
坂井茂信（日建設計工務）
坂倉利男（大阪府）
島田多津子（大阪市立大学）
高田重清（小堀住研）
竹内さく（山手女子短大）
寺内信（大阪工業大学）
中間廉之助（大阪市）
仲埜皎朔（住宅新報社）
長山弘子（大阪府農林技術センター）
楢崎正也（大阪大学）
○野々村五四男（関西大学）
星野二郎（住宅公団）
増田富三男（竹中工務店）
松本大平（田島応用化工）
松本忠良（住宅金融公庫）
村田房之助（永大産業）
山本茂（大日本土木）
吉岡重和（大阪府住宅供給公社）
吉村義治（大和ハウス工業）

■ 出版委員会

建築に関する出版物の企画・刊行

伊藤克三（大阪大学）
池田有隣（京工繊大）
石崎滌雄（京都大学）
稲村数矢（近畿地建）
上田稔（大阪市）
川上貢（京都大学）
上林博雄（大阪市立大）
木村喬夫（大阪建築事務所）
木村聚（日本住宅公団）
玄古昌一（近畿電通局）
小林清（新住宅社）
坂本勝比古（神戸市）
清水寿栄次（関西電力）
嶋田勝次（神戸大学）
多田英之（日建設計工務）
高橋裕（鹿島建設）
長沢徹夫（竹中工務店）
長谷川幸雄（桜井設備）
林茂（竹内建築事務所）
原桂一郎（大阪市）
前川陽一（村野森建築事務所）
水谷勇（松村組）
宮川達郎（泉設計事務所）
山野俊一（佐々木建築事務所）
米田元一（大阪府）
吉川剛夫（大林組）
吉田千秋（安井建築設計事務所）
力武利夫（清水建設）

■ 教育委員会

建築教育についての調査研究ならびに講座などの企画および実施

朝野博文（ED建築事務所）
今西茂雄（今西建築デザイン）
△石田秀宏（松田・平田・坂本建築事務所）
○岩下久哉（鹿島建設）
上野賢三（都島工高）
岡田一朗（松村組）

○辛木貞夫（東海興業）
○小西岬（田中・小西建築事務所）
斉藤暢（大阪市立工芸高校）
△佐々木保（東畑建築事務所）
△篠原太郎（近畿建設）
清水和弥（清水和弥事務所）
田沢昭一（今宮工高）
○谷口尚武（大林組）
中川秀夫（日本万国博協会）
永井実（布施工高）
西尾兵衛（大成建設）
◎橋本忠保（日本住宅公団）
原田守（新日本技術コンサルタント）
真宮透（大阪府）
△宮武三郎（日建設計工務）
山路利一郎（国鉄）
八十島健二（竹中工務店）

■ 建材委員会

一般建材の改良進歩のために，コンサルタント的に検討などをして斯界の向上発達をはかることに努める。

伊木周作（近畿地建）
伊藤幸一（清水建設）
大沢徳吾郎（鹿島建設）
大賀郁夫（文部省工事々務所）
○香取礼三（東畑建築事務所）
後川春雄（大阪建築事務所）
中邨嘉幸（日建設計工務）
中原茂（安宅エンヂニヤ）
橋本良介（大林組）
◎堀内三郎（京都大学）
松本洋（竹中工務店）
武藤倫男（倉敷レイヨン）
元木貞次（東洋紡績）
矢野豊作（藤木工務店）
山田幸一（大阪市立大学）
吉田圭三（住宅公団）
吉田耕保（大成建設）
渡辺禎巳（大阪市）

■ 建築データシート編集委員会

池田博（住宅公団）
上野豊（近畿電通局）
小川博三（竹内建築事務所）
木村博己（大阪郵政局）
喜多聖泰（大日本土木）
近藤護（小笠原浜田建築事務所）
酒井蔚圭（大阪建築事務所）
正法院陽三（近畿地建）
提兼雄（大林組）
◎中原茂（安宅エンジニヤリング）
西川幸之輔（大阪市）
○松村志津男（大阪建築事務所）
山田義信（住宅公団）
渡辺英秋（不二建設）

◀ 創立50周年記念事業資金受領報告・その4（5月8日迄分）

50周年記念事業資金を下記のとおり受領いたしました。厚くお礼申し上げます。

日本板硝子株式会社殿	100,000円
住友金属工業株式会社殿	50,000円
旭硝子株式会社殿	50,000円
八幡製鉄株式会社殿	50,000円
東洋陶器株式会社殿	30,000円
㈱淀川製鋼所殿	30,000円
耐酸化学工業株式会社殿	20,000円
室谷商事株式会社殿	20,000円
㈱矢橋大理石商店殿	20,000円
松下電工株式会社殿	18,000円
浪速合板株式会社殿	15,000円
大阪装飾株式会社殿	10,000円
大島応用化学工業株式会社殿	10,000円
㈱工英社殿	10,000円
三友工業株式会社殿	10,000円
野崎石綿セメント株式会社殿	10,000円
明研化学工業株式会社殿	10,000円
山本窯業化工株式会社殿	10,000円
㈱新興建材工業所殿	6,000円
朝日瀝青株式会社殿	5,000円
㈱井上浄夫商店殿	5,000円
㈱大阪熊平金庫店殿	5,000円
㈱川岸窯業商店殿	5,000円
久保田鉄工株式会社殿	5,000円
サンエス石膏株式会社殿	5,000円
㈱大仏殿	5,000円
㈱ナニワ商会殿	5,000円
㈱日垣本社殿	5,000円
アスニュー工業株式会社殿	3,000円
秋元調理機器株式会社殿	3,000円
㈱大阪硝子店殿	3,000円
清水興業株式会社殿	3,000円
㈱清光社殿	3,000円
㈱中村多喜弥商店殿	3,000円
二葉屋装備工業株式会社殿	3,000円
松本金物株式会社殿	3,000円
㈱山中製作所殿	3,000円
高田機工株式会社殿	2,500円
友田工業株式会社殿	1,000円
㈱中島組殿	1,000円
日本建築協会兵庫支部殿	50,000円
全日本建築士会殿	3,000円
栗原工業株式会社殿	30,000円
関東電気工事株式会社殿	20,000円
江東電気工業株式会社殿	10,000円
北陸電気工事株式会社殿	1,000円
㈱今西建築デザインルーム殿	5,000円
赤崎建築事務所殿	5,000円
野村建設工業株式会社グループ一同殿	8,000円
西村栄一殿	2,000円
佐藤四郎殿	1,500円
今田隆人殿	1,000円
榊弘美殿	1,000円
牧内正文殿	1,000円
松井清之助殿	1,000円
宮川達郎殿	1,000円
箕曲在信殿	1,000円
渡辺正三殿	1,000円
江畑博殿	500円
前田大二殿	500円
合計	699,000円
累計	5,664,500円

◀ 近畿建築会館建設資金借入金の一部償還当選お知らせ

先年会館設置に際し，建設資金として借用いたしましたものについて，これが一部償還の抽せんを3月22日の定時評議員会後同席上において執り行ないましたところ，下記のとおり償還が決定いたしましたのでお知らせ申し上げます。なお償還金のお支払は6月1日より行ないます。

記

大木建設KK大阪支店殿	20,000円
日本耐火ボードKK殿	100,000円
柏原瀝青KK殿	30,000円
高砂熱学工業KK大阪支店殿	100,000円
玉置産業KK殿	100,000円
KK東和組殿	10,000円
松井建設KK大阪支店殿	20,000円
松重電機KK殿	20,000円
山田工業KK殿	50,000円
KK山本建材社殿	50,000円
計	500,000円

なお以上のほか，日本建築学会よりの借入金に対して，今回は¥500,000円 を償還することになっております。

全国的に大好評の…
新興の繊維壁材！

◉お部屋のムードは壁材の美しい調和で……

建設省建築研究所試験合格品

（一種繊維壁材）
・チェリーコート　・ママウオール　・ほたるかべ　・霧香
・いすゞかべ　・パビロン　・ふくよかべ　・清流　・金蘭
・カセロンウオール　・パーマエース　・ありあけ　・錦上壁K（三種繊維壁材）
・スーパーウォール　・瑞雲　・ニコニコ　・蛍光壁　・龍鳳
・センカウオール（二種繊維壁材）　・明光壁　・日本壁　・金龍
・あけぼの　・錦上壁　・昭和壁　・すずらん（特殊壁）
・新興壁　・大阪壁　・新日本壁　・桃山　・大和壁

（防火繊維壁材としてご使用の節は上記商品にシンケン防火剤を混入のこと）

●シンケン防火剤　●防錆剤エバコン　●耐湿剤オートン　●化学糊スーパーシンケン糊　（全国有名建材店に有）

株式会社　新興建材工業所

大阪市西区四ツ橋　TEL(538)2951代(541)5757代
営業所　東京・大阪・明石・広島・福岡

石膏壁は

SSSプラスター
（ボード用プラスター）

SSSプラスターC（セメントモルタル下地用）
SSSプラスターP（ペイント下地用・金鏝仕上）
SSSプラスターSP（発泡軽量コンクリート下地用）
SSS混合プラスター（上塗用・白色）

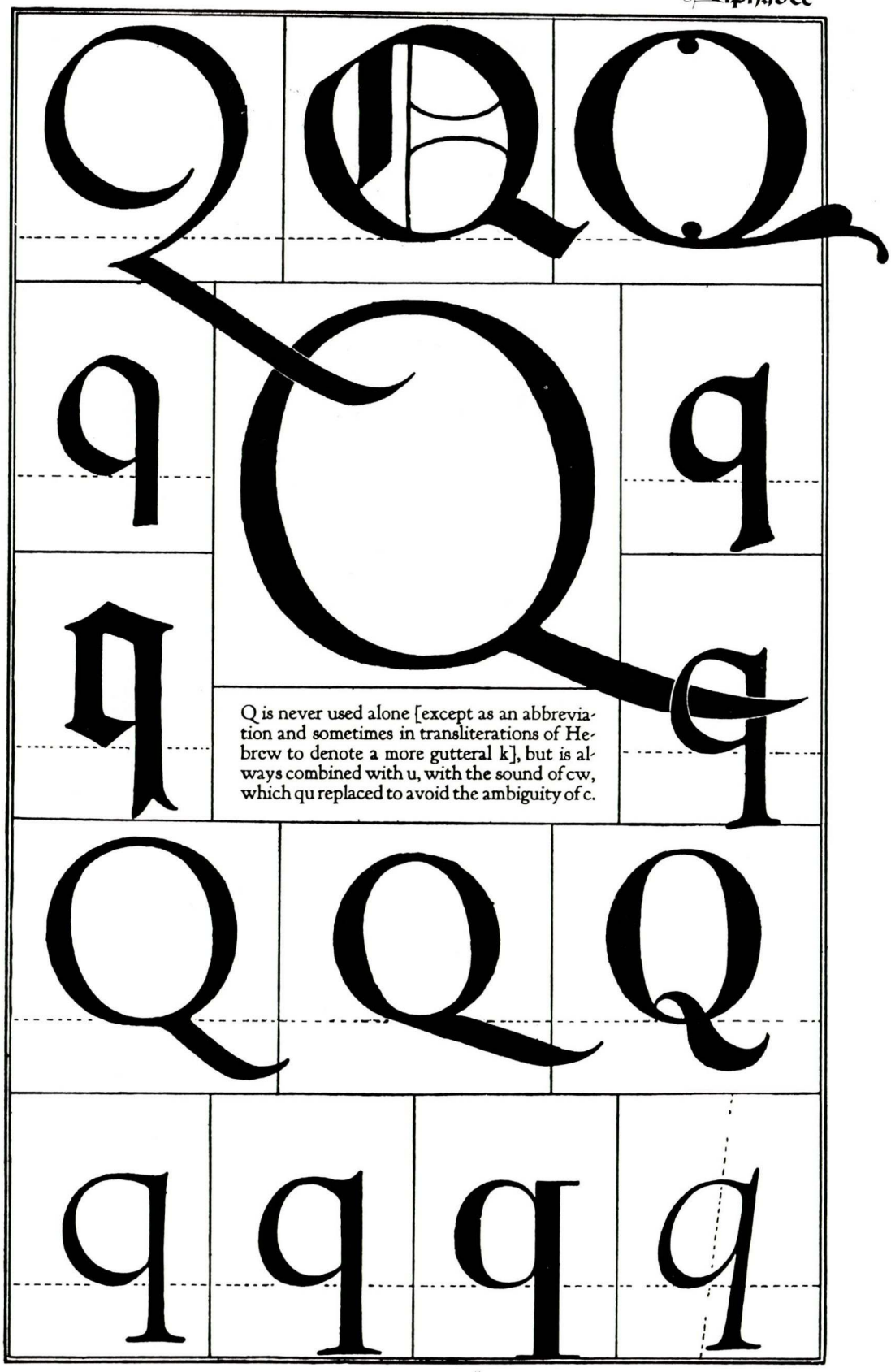
●建築用・美術工芸用・各種焼石膏●

サンエス石膏株式会社

本社工場・姫路市神屋町4－77
TEL 姫路(22)3837(代表)
東京営業所・東京都新宿区東大久保1丁目331番地
TEL(351)0396・(351)6962
中部営業所・瀬戸工場・瀬戸市苗場町113
TEL 瀬戸(82)9185～6
大阪営業所・大阪市西区江戸堀1－24(三興ビル2階)
TEL (441)0094・5375
福岡営業所・福岡市七隅282－3
TEL (82)9419

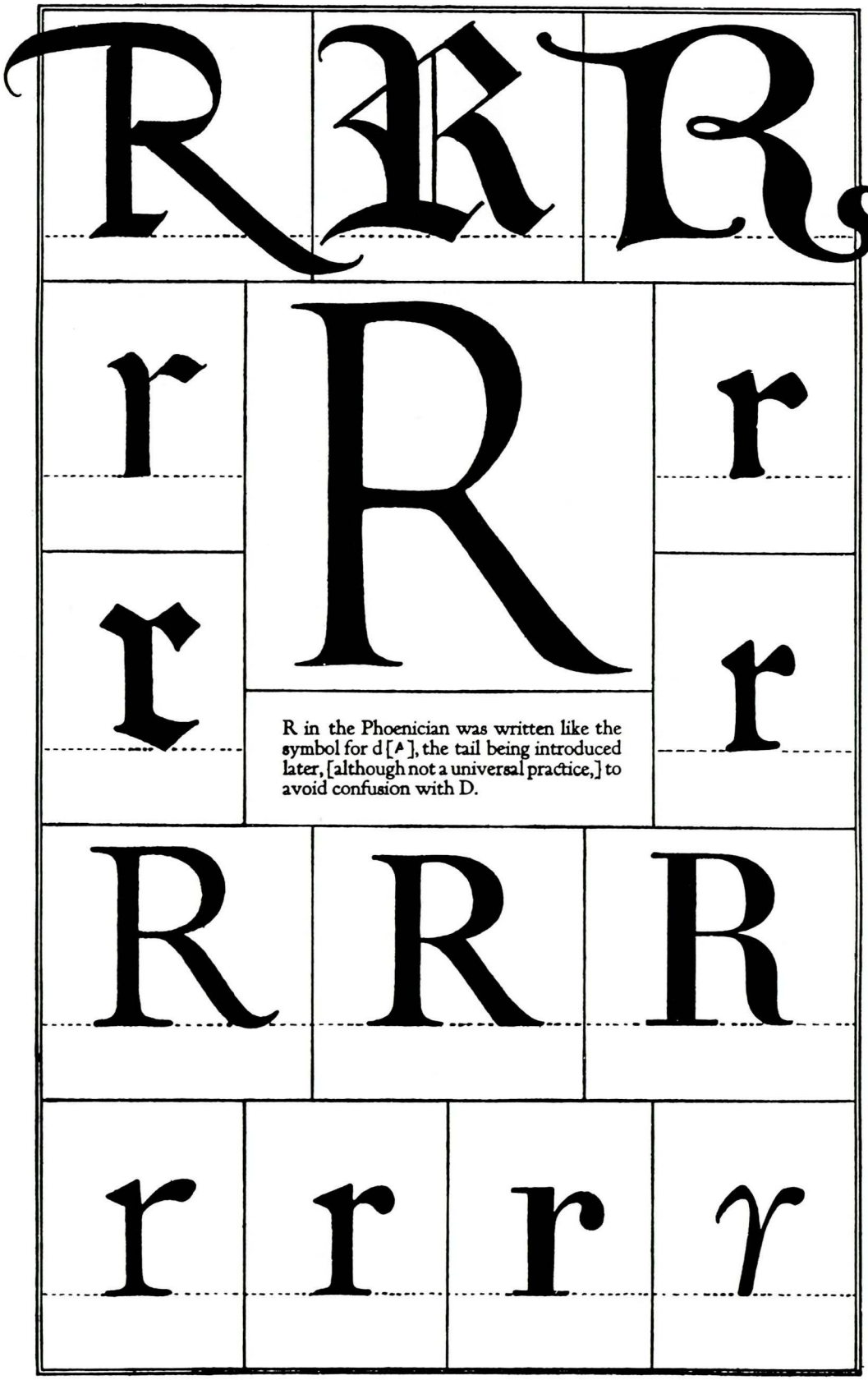
レタリング

Q



Q．Qは［省略および時にはKよりも奥で調音される軟口蓋音を示す場合のヘブライ語の音訳を除いて］単独で用いられることはなく、常にuと結合して、cwという音となる。この場合、Cのあいまいさを避けるためにquに置換えられたものである。＊本文にはgutteralとなっているが、これはguttural の間違い。

きりとり線



R．Rはフェニキア語ではd［𐤃］の記号に似たように書かれていた。尾はDとの混用を妨ぐために後になってつけられたものである。しかしながら、これは世界共通のものではない。

きりとり線

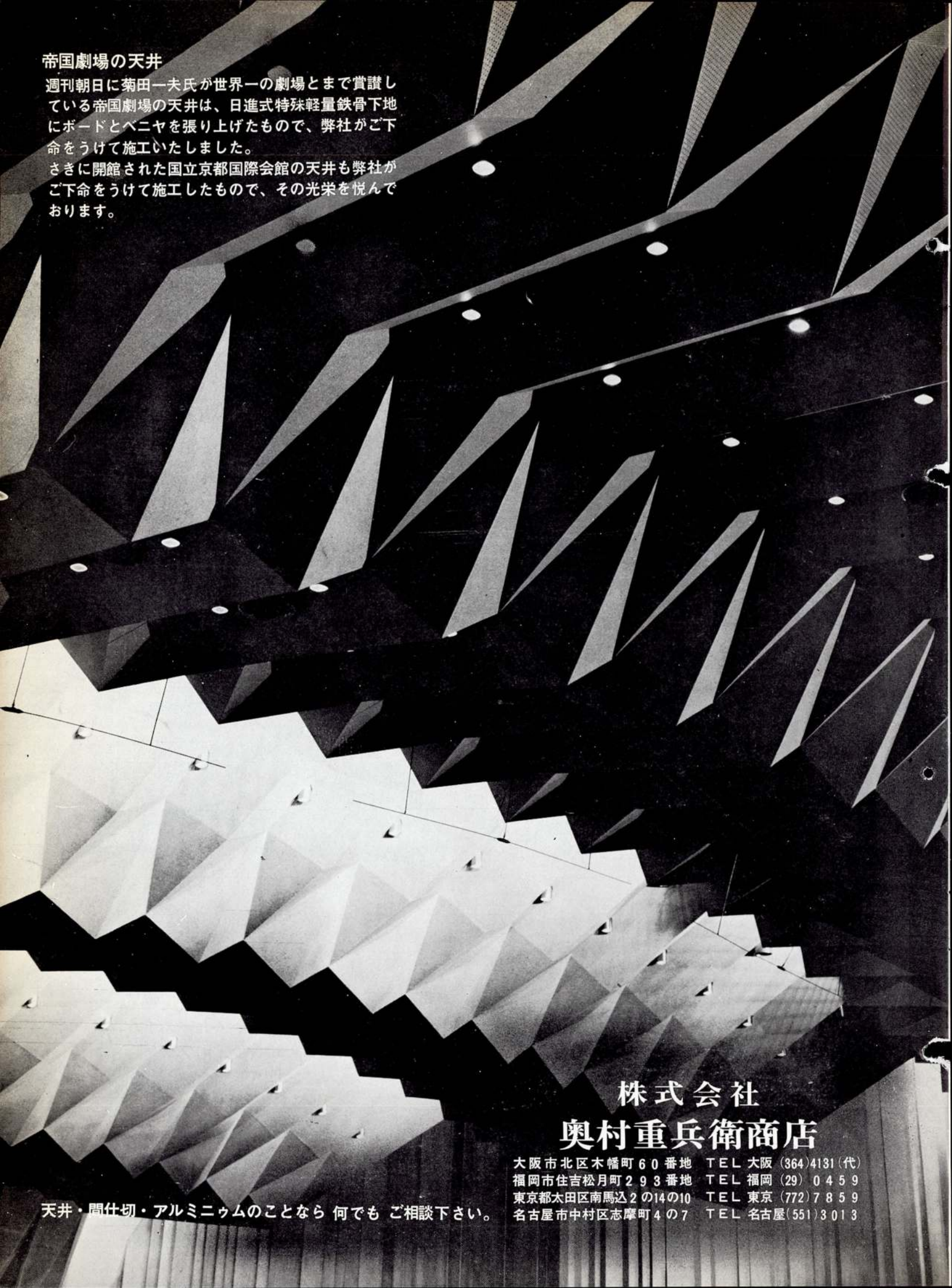


屋根にビニロイド防水を施工した京阪ビル（松阪屋）

どんな地域でも　どんな構造の建物をつくっても完全な防水ができたら——それを実用化して　すでにすぐれた数々の実績を示しているのが〈**ビニロイド２号**〉です
防水下地にキレツができても破れず　寒冷地の冬にも丈夫で　どんな場所に使っても腐りません　それは弊社が合成繊維による不織布を独特な方法で加工した　技術の成果です
京阪ビル（松阪屋）の屋根にも**ビニロイド２号**による防水工事をご採用いただきました

営業品目　●ビニロイド防水工事　●アスファルト防水工事　●三星ソフトンタイル貼工事　●保温・保冷工事　●三星プラスオール　●三星コーキン販売・工事　●シポレックス工事

三星産業株式会社
東京都千代田区岩本町３－11－13
ＴＥＬ〈866〉0271～６・6121～９
出張所／札幌〈72〉6031　仙台〈21〉5366－７　名古屋〈941〉3751
〈971〉4574　大阪〈443〉9721－３　福岡〈76〉2076〈75〉0298



帝国劇場の天井

週刊朝日に菊田一夫氏が世界一の劇場とまで賞讃している帝国劇場の天井は、日進式特殊軽量鉄骨下地にボードとベニヤを張り上げたもので、弊社がご下命をうけて施工いたしました。
さきに開館された国立京都国際会館の天井も弊社がご下命をうけて施工したもので、その光栄を悦んでおります。

天井・間仕切・アルミニゥムのことなら 何でも ご相談下さい。

株式会社
奥村重兵衛商店

大阪市北区木幡町60番地　TEL 大阪 (364)4131(代)
福岡市住吉松月町293番地　TEL 福岡 (29) 0459
東京都太田区南馬込2の14の10　TEL 東京 (772)7859
名古屋市中村区志摩町4の7　TEL 名古屋(551)3013

読者の頁

投稿をおまちしております。掲載の分には粗品進呈いたします。

□建　築　大　万　才□

ぼくが，兵庫工業高校・建築科に入って早や1年が過ぎ去り，2年目を迎えました。

製図や，透視図のようなものが，中学時代からむしょうに書きたかったので，入ったわけだが，建築という商売，いや学問が，これほど，ぼくにとって興味をひくとは，思わなかった。奥のない世界，無限に広がる宇宙のような世界……，建築はそんな世界ではなかろうか。だから世界で一番むずかしい学問なのである。ただ，建築の本ばかり読んでいたのでは，その方面の知識はつくが，それでは真の建築美というものは，図面には出せないであろう。

そのためには，文学や絵画，音楽などにも親しみ，また，数学のような勉強もしなければならないであろう。あるいは，土方や，こえくみ屋などいろいろの職業を体験し，その結果，真の建築美というものは造り出せるのではないかとぼくは思う。真の建築美，そんなものは体験の浅いぼくにわかるはずはない。しかし，それに一歩でも近づくように努力しようと思っている。なかなか，一口では言えないぐらいむずかしい学問だろう，それだけに，ぼくはやりがいのある職業だと思う。

一生かかっても，未完成な学問!!

ぼくは，この1年間の学校生活からこのようなことを感じとった。

（兵庫県立兵庫工高・建築科2年　**河南　重雄**）

□ 技能院の新設より技能研究所の新設を □

早川労相は，技能労働者の不足対策の一環として，新しく技能労働者の栄与の殿堂技能院を設立する方針をかため，このほど事務当局に具体案の作成を指示した。これは，最近若手労働者に現場作業をきらう傾向が顕著であり，ことに年々技能労働者不足が深刻化しているので，技能院の設立によって，技能労働者の社会的地位を高め，新規学卒者がホワイト・カラーに流れすぎるのを防ごうというものである。技能院の設立は，この技能者尊重の精神を更に発展させるのが目的で，

1. 技能が卓越しているもの
2. 後輩を指導する能力がすぐれているもの
3. 人格が高潔であるもの

等が技能院会員の撰定の基準になるものである。

実際には，42年度から毎年100名ずつ行なわれる大臣表彰者の中から選ばれる。

芸術院の会員数は100人ないし150人，終身で60万円程度の年金が支給されているので技能院の会員の数も待遇も同一になるものと見られるものである。

私は建築技能のうち大工，左官を主として研究し，その養成に多年苦労したものなので，この技能院の設立は心から喜び祝意を表するものである。

だが，特に大工技能にしろ，左官技能にしろ，日本の建築教育体系から，少くも学校教育からはみだしてしまっておったものなので，その技能そのものの研究は全く現在まで手をつけられてはおらない。技能士試験はあるが技能そのものは依然として，昔からの「カン」「コツ」で腕で習得しろとか，見様見まね式の教育訓練法しかない前世紀のやり方そのままの状態であることは認めざるを得ない。私は技能院の殿堂の新設よりは，それより先に技能研究所の新設の方がより重要なのではないか。そして，技能の本質，動態研究，工具，工作機械と技能関係を明らかにし，それを土台に技能大学を創設してこそほんとうに，技能者尊重，地位の向上もあり，盛上げられるのではないかと思う。ただ勲章を差し上げたから，それで技能向上になるという考えは，少し甘いのではなかろうかと思う。

それも決して悪いことでない，もちろん喜んでよいことではあろうが，私は多年の経験から，それよりもっと経費の要するしかも地味な技能の科学的研究所を設立してもらいたい。そして，現在の技能以上の技能を教育する学校を創立して，弟子，徒弟制度の崩壊した跡始末の一部でも補充してもらいたい。これを労相にお願いするものである。

（建築技能研究家　**鈴木忠五郎**）

□明治建築土木史年表・関西編（その5）（自明治11年6月22日。至同年7月1日）□

明治

11年6月22日　伊勢渡会郡落山村の官林火災。桧。松等500余本を焼失する。

〃　〃　〃　新橋・横浜間鉄道を複線化し，貨物列車を通すことになる。それにより従来三菱会社が一手に引受けていた荷物は鉄道が扱うこととし，〝蒸気機関車に連結する荷車〟も完成。

〃　〃　25日　静岡県静岡本通り2丁目に，第三十五国立銀行でき上る。

〃　〃　〃　「有喜世新聞」，明治天皇北陸・東山道御巡幸の休憩・宿泊旅程をスクープ。東京より信州坂本経由越後青海川までを先ず発表したが，即日仮編輯長服部照朝は，内務省図書局に呼出され取消を命ぜられてしまった。

〃　〃　26日　在阪中の山縣有朋陸軍卿の旅館へ，京都，大阪両府知事。堺，兵庫両県令。および熊本鎮台司令官谷干城。広島鎮台司令官三浦梧楼。名古屋鎮台司令官四条隆哥（何れも陸軍少将）が参集して会合が行なわれたという。

〃　〃　〃　大阪府下旧樫多村の豪商，通称太鼓又なる者。堺県に出願して，大和吉野川近くの桧山に在る数万本の桧と樫の大木を，3,40人の樵を使って伐出す。この山は維新以来まだ誰も斧を入れぬと言われ，伐られた木はすべて太鼓の胴にする（？）と巷間言われていた。

〃　〃　28日　御陵墓地は宮内省所轄に移り，内務卿伊藤博文。御陵墓のある全府県に，実測地図を書面に添へて宮内省へ届出るよう通達。従前の所轄は内務省。

〃　〃　29日　山口県赤馬ケ関（現下関の一部）新たに開港場となることになり，工事の準備に入る。

〃　〃　〃　讒謗律違反で2年の禁獄に処せられていた元「評論新聞」の小松原英太郎。刑期充ちて出獄。「評論新聞」はすでに解散していた。小松原は後4代目「大阪毎日新聞」社長。

〃　7月1日　大阪鎮台第一大隊至急四国丸亀分営出張を命ぜられ，補欠のため東京鎮台より歩兵一大隊が大阪に出張す。

〃　〃　〃　神戸居留地34番で，日刊英字新聞「神戸アドベンタイア」創刊さる。

大阪大学医学部付属病院病棟
(第２期)・大阪府救急医療施設



設計監理　大阪大学施設部
監　　理　大阪府建築部営繕課
構　　造　鉄骨鉄筋コンクリート造
規　　模　地下１階、地上９階、
　　塔屋３階
延 面 積　16,723m²
所 在 地　大阪市福島区
工　　期　昭和40年９月～
　　昭和42年１月

施工　株式会社 大林組

建築と社会
ニュース

ニュース原稿をお送りください。

■昭和42年度東海支部 通常総会と懇親会

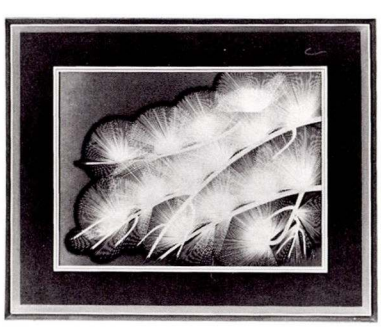
日本建築協会東海支部（支部長一圓俊郎）では，昭和42年４月21日（金）午後，東海建築文化センター９階中会議室において通常総会を開催し，昭和41年度事業報告ならびに昭和42年度事業計画案を審議し，また役員改選を行なった。

つづいて，映画「色彩と生活」と「偉大なる建設」を映写したのち，地下「メゾン」にて懇親会をもよおした。

■日本建築協会集会室を飾る 輪島塗・漆芸額

日本建築協会創立50周年記念日（３月30日・太閤園）の式典で会員の功労・功績者に贈呈した記念品（輪島塗・文筥・漆芸額）の製作会社・株式会社稲忠漆芸堂殿（石川県輪島市河井町二部245―2・社長稲垣忠右衛門氏）より，日本建築協会に「漆芸額」（作者・角野岩次氏・第９回日展無監査）の寄贈があった。同会の集会室に飾ってご芳志に感謝することとした。

輪島塗漆芸額は，なめらかに塗りあがった漆の面に小刀などで彫刻し，その跡に金箔や金粉を置いて仕上げる佳麗な技法である。室町時代に中国から伝えられたもので，現在では日本伝統工芸として，輪島市だけに残っている貴重なものである。



額の寸法　タテ・695×ヨコ・847mm
作品の寸法　タテ・470×ヨコ・620mm

■小松益喜個展

小松益喜画伯は長らく神戸に住み，神戸の街並を愛し，その姿を何十年にわたって画きつづけてきたすぐれた民衆の画家であるが，今回20年ぶりで大阪で個展を開いた。

梅田画廊（大阪・梅田新道）で，５月８日～13日（午前10時～午後７時）まで開催された。

■慰霊の泉記念碑

靖国神社内に今般＜慰霊の泉＞記念碑がが建立された。設計彫刻はアートクラブ会員の井上武吉氏。施工は北野建設KK。



故 古林義敦氏略歴

明治33年４月16日生。
昭和42年４月19日死去。67才。
本籍　岡山県赤磐郡山陽町長尾449番地。
大正12年　官立京城高等工業学校建築学科卒。
昭和４年　広島県立工業学校教諭。
昭和20年　広島県技師。土木部建築課勤務。
昭和28年　(財)広島県住宅公社常務理事。
昭和32年　松本建設(株)営業部長。
昭和37年　(株)日興取締役社長。
昭和36年　建設大臣より表彰。
十五位勲五等双光旭日賞。

追悼記　故古林義敦氏と私

松田　実

古林さんに初めてお会いしたのは，昭和４年頃であったと思う。広島県立広島工業学校の建築科長として就任された頃，北支に在住していた私が久し振りに日本に帰ってきていたので学校をたずね，そこで挨拶をした記憶がある。その頃古林さんはまだ若く元気溌剌としておられた。以来，20年終戦で引揚げるまで，３，４年振りには日本に帰ってきていた私。そのつど北支の人形や古瓦など土産にさし上げたものである。先生は大変喜ばれ大切に保存していられた。

終戦で23年も住みなれた北支天津での生活をきりあげ，故郷広島に引揚げてきた。故郷とは申せ，23年もあけていた広島は初めての土地と全く同じで，頼る親戚の者は原爆で死んでいるので自然古林さんに足が向く。海外で自営していた私，履歴に日本の官庁の技師という肩書きがない。「一寸の間でもいいから役所に勤めたら」との勧めもあり，自営を計画していた私は役所の碌を喰むことになった。以来19年間の役所生活。その間古林さんには随分お世話になった。

昭和22年広島に日本建築協会中国支部ができて古林さんは副支部長になられ，会員募集や日本建築協会主催の講習会，講演会，材料説明会等熱心にお世話せられた。私も支部設立と同時に古林さんの勧めで入会して，古林さんの手足となってご援助させてもらった。33年からは支部長として就任され，私も38年から副支部長として古林さんのお手伝いをさせていただき今日に到っている。中国支部の仕事はほとんど一人でしていられた感がある。

広島県建築士会も27年から副会長として，昨年末，前会長が亡くなられるまでの長い間，病弱の前会長を補佐してこられた。本年１月からは各方面から推され，会長に就任された。爾来東奔西走，日夜もわかたず活躍され，ほとんど休養される暇もなかったようであった。昨年10月27日広島市において第10回建築士会全国大会が催され，６月大会事務局を開設したとき，私もまた古林さんに推されて事務局長の重責をになうはめになった。古林さんには運営委員会の委員として，また実行委員会の見学委員および事務局機構中の企画を受け持って活躍していただき，毎日のように事務局に姿を現わされ指揮された。おかげで未曽有の大成功に終ったが，これもひとえに古林さんの力の大なるものがあった。

思えば古林さんに誘われてよく遊びに行ったものである。いつも３軒４軒位歩かなければ気のすまない人であったが，大した酒呑みでなく，酔いつぶれるなどということは決してなかった。酒や煙草の嫌いな私，初めは迷惑であったが，だんだん教育せられ終には同じように遊べるようになった。ああした雰囲気が好きな人であったのだろう，実に愉快に遊ばれた。しかし晩年はほとんど酒もあがらなければ，あそびにも行かれなかった。

十数年広島県立広島工業学校の建築科の科長。広島女専および女子短大講師を二十幾年しておられたので，教え子が方々到る処におり，また重職に長年携っておられた関係もあり，随分顔の広い方であった。これはKK日興の社長になられても便利であったことと思う。私の接した人で古林さんを悪くいう人に出会ったことがない。また実によく人の世話もされ，その恩恵に浴した人は数限りないことと思う。独特なあの笑顔。今でも目に浮ぶ。好々爺であった。

３月１日古林さんに用事があって会社に電話したところ宅におられるとのことで，再びお宅に電話したら本人が出られ用件をすませたのに，同日夕刻には入院の報せを受け驚いた。明けて二日に見舞に行ったときには病人らしくない病人という感じがしたほど健康そうに見えたが，１週間後お目にかかったときにはもう普通の容体でなく驚いた。でも亡くなられるとは夢にも思わず，よくなられるものとばかり信じ祈っていた。はからずも19日遂にご他界の悲報に接したときには，私は生きる力を失ったような気がした。兄貴のように思い，弟のように思われ，互に手を握り励しあってきた日も今はただ懐しい思い出となった。

古林さんを失ったことは，広島にある建築諸団体の大きな損失であり，また惜しいことでもある。

（42. 4. 30）

すぐれた居住性を創造する

軽量気泡コンクリート

シポレックス



和歌山薬品本社ビル

設計　坂倉準三建築研究所
施工　株式会社青山工務店
使用場所　外壁

軽　量（比重 0.5コンクリート¼の重量）

断　熱（コンクリートの１０倍の断熱性）

耐　火（法　定　耐　火　材　料）

◆シポレックスは工場、住宅から超高層ビルまであらゆる建物の屋根・床・壁・間仕切・耐火被覆に使用されますが次の建物には特に最適です

1　工期短縮を要するすべての建物
2　空調を要する工場・倉庫事務所住宅等
3　鉄骨大張間の工場・体育館等
4　軽量化を要する高層建築物・軟弱地盤の建物
5　鉄骨耐火構造の建物

SIPOREX

シポレックス販売株式会社

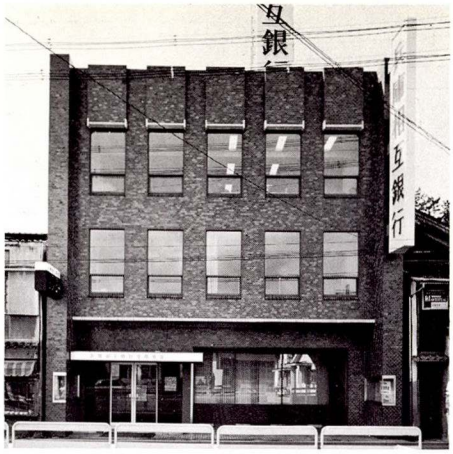
本　　社　東京都千代田区岩本町２ノ１ノ16(森川ビル)
　　電話　東　京（861）代　表　７　２　４　１
大阪支店　大阪市西区京町堀通１ノ125(東洋ビル)
　　電話　大　阪（443）代　表　７　７　４　１
名古屋支店　名古屋市中村区広小路西通３ノ２(大商ビル)
　　電話　名古屋（581）代　表　７　４　２　１

□ 写真と概要をどしどしお送りください。
凡例：a．所在地　b．建築面積　c．延面積　d．構造規模　e．工　期



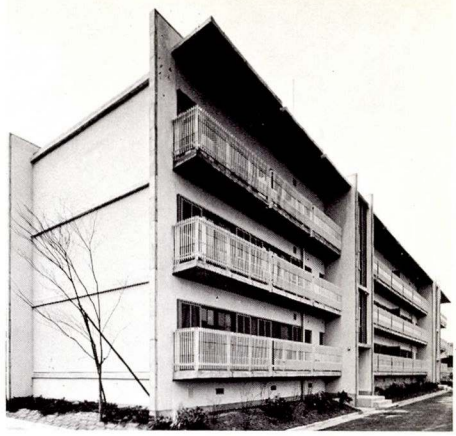
226．エスペロ商事鈴乃屋 みゆき通り店

設計・施工：不二建設 K.K.
a．東京都中央区銀座5丁目4番地
b．124.58m²
c．500.7 m²
d．RC，B1，3F
e．昭和41年7月～昭和42年2月



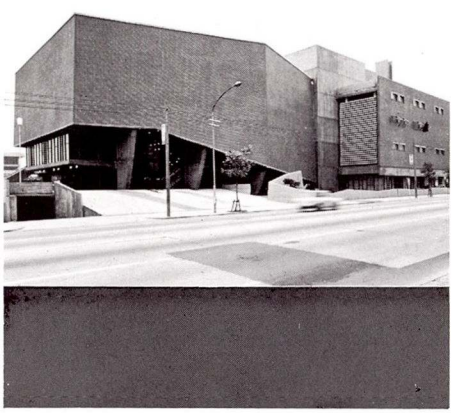
227．株式会社 兵庫相互銀行 宝塚支店

設計：K.K.安井建築設計事務所
施工：K.K. 戸田建設
a．兵庫県宝塚市川面字五反田22
b．219.09m²
c．608.16m²
d．RC，3F，
一部鉄骨A・L・C造，2F
e．昭和41年2月～昭和42年2月



228．日本開発銀行木津山舎宅

設計：日建設計工務K.K.
施工：大成建設K.K.
a．西宮市木津山町38の1
b．379m²
c．1,142m²
d．RC，3F
e．昭和41年7月～昭和42年1月



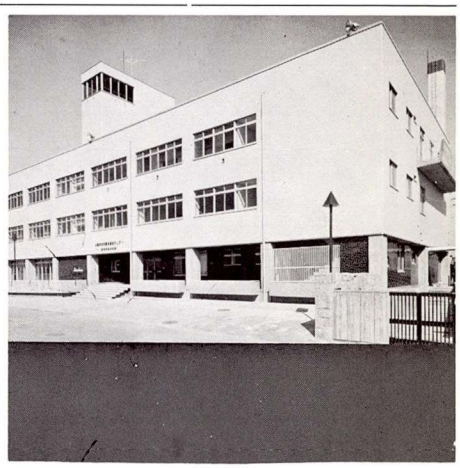
229．守口市民会館

設計：三紀建築事務所
施工：K.K. 熊谷組
a．守口市京阪本通2－56
b．2,822.353m²
c．7,756.500m²
d．RC，B1，4F
e．昭和41年3月～昭和41年8月



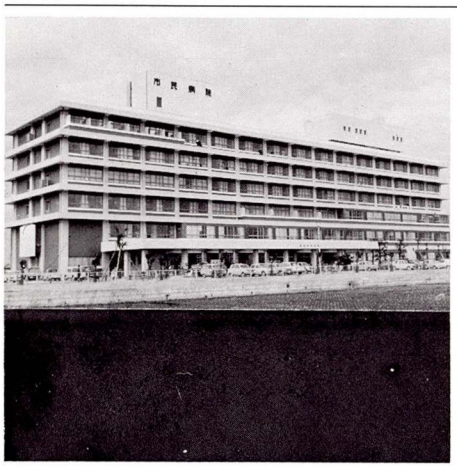
230．智積院会館

設計：京都大学増田研究室
施工：K.K. 藤田組
a．京都市東山区東山七条
b．849.9m²
c．2,518.9m²
d．RC，3F，一部4F
e．昭和41年4月～昭和41年12月



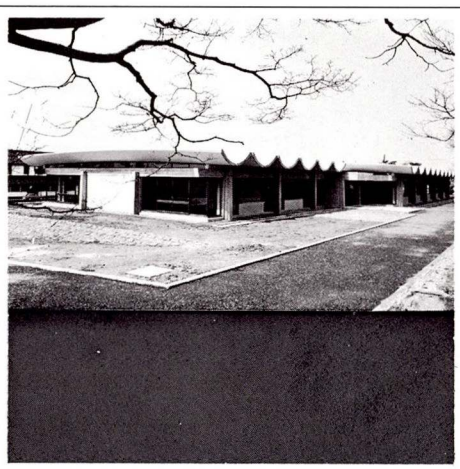
231．大阪港湾労働者福祉センター

設計：K.K.東畑建築事務所
施工：K.K. 銭高組
a．大阪市港区三失入舟地区
第7ブロック
b．887.9m²
c．2,582.0m²
d．RC，3F，P3
e．昭和41年3月～昭和42年1月
港湾労務者の宿泊を主とした厚生設備



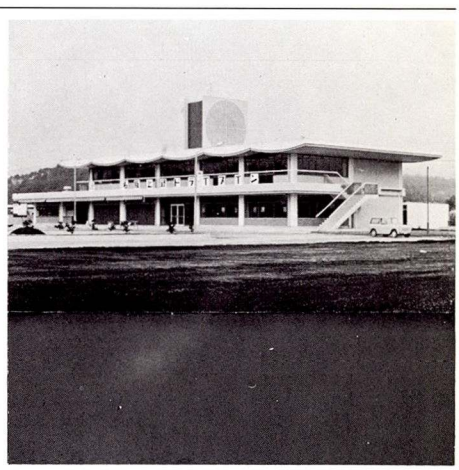
232．徳島市民病院

設計：K.K.東畑建築事務所
施工：鹿島建設K.K.
a．徳島市中徳島町
b．2,014m²
c．11,750m²
d．RC，B1，6F，P3
e．昭和40年4月～昭和41年10月
地盤悪く約30mのカラー付ペデスター基礎を採用。



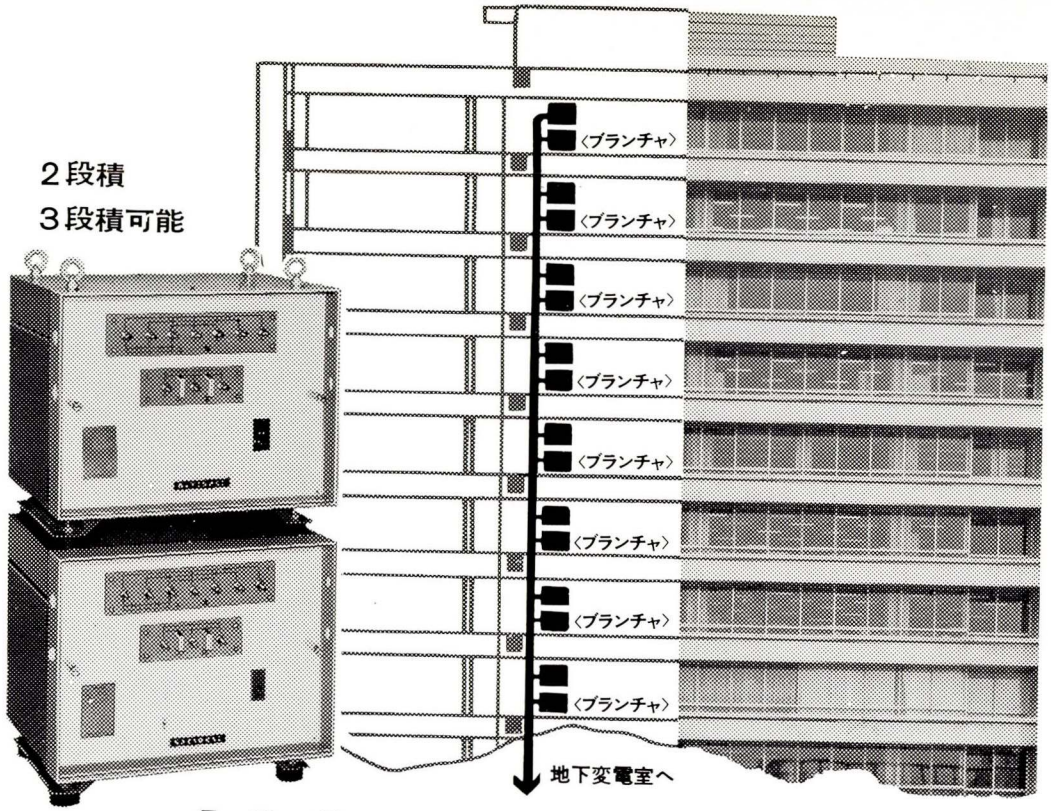
233．奈良教育大学附属図書館

設計：文部省管理局教育施設部
大阪工事事務所
（株式会社 設計連合）
施工：大日本土木K.K. 大阪支店
a．奈良市高畑町
b．128.87m²
c．1,047.77m²
d．RC，2F
e．昭和41年7月～昭和42年2月
シルバクールPS板、大張間構造



234．名阪上野ドライブイン

設計：K.K.東畑建築事務所
施工：大日本土木K.K.
a．三重県上野市大内
b．1,166m²
c．1,486m²
d．RC，2F，一部S造
e．昭和41年4月～昭和41年11月



大形ビルなどの400V級配電方式に…

ナショナルトランス〈ブランチャ〉

電源分岐室用乾式変圧器（実用新案・意匠・商標）申請中

■400V級配電の変圧器です。

＜ブランチャ＞は、400V級配電を100V級200V級に円滑に降圧。三相200V級と単相100・115Vの同時使用ができますのでビル・工場・学校・病院などの400V級配電方式の合理化に大きく貢献します。

■積重ね式が特長です。

分岐室を有効に使用するため、難しい条件の積重ね式と結線方式の技術を解決、インピーダンス電圧と位相角を合せて、異種容量〈5KVAと10KVA〉及び〈20KVAと30KVA〉の並行運転ができます。

■諸経費も割引されます。配電方式の合理化により材料費・工事費が減少。また、小形で取扱いが簡単なため設備費・保守費も大へん経済的です。

三相・乾式（H種絶縁）**・二巻線変圧器　容量 5・10・20・30・50KVA**
一次電圧　440V（60%）　415V（50%）　二次電圧　210V－105V
結線方式△－Yノーヒューズブレーカ、防震ゴム取付可能

ナショナル
松下電器

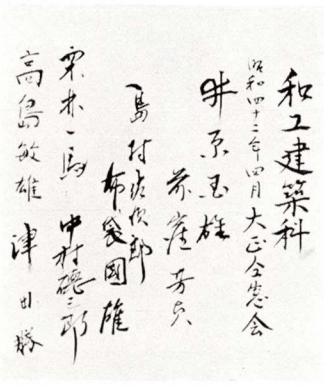
●お問合せは

札　幌（24）9271	東　京（453）3111	富　山（21）8561	名古屋（951）6211	広　島（41）5111	小　倉（53）5221
仙　台（25）8111	横　浜（68）0743	金　沢（61）2125	大　阪（362）5151	高　松（2）1194	鹿児島（3）0671
宇都宮（3）3235	静　岡（54）1241	新　潟（45）6386	神　戸（39）8011	福　岡（28）3331	

クラスメート

24 〔和歌山工業学校大正期卒〕

前列座っている人・左より（敬称略）
島村佐次郎（島村建築事務所長・大正８年卒）
井原国三（井原建築事務所長・大正６年卒）
前窪芳貞（前窪工務店社長・大正６年卒）
後列立っている人・左より
津田　勝（花王石鹸和歌山工場建築課長・大正14年卒）
高島敏雄（前堺市立第二工業高等学校長・大正14年卒）
中村徳三郎（ＫＫ中村組社長・大正14年卒）
布袋国雄（東西建築サービスＫＫ副社長・大正９年卒）
栗林一馬（栗林建築士事務所長・大正11年卒）
和歌山・建築士会館にて（窓より和歌山城が望める）



大正期の卒業と言えば、明治生ればかりである。お互いに歳の数を言わないが、上と下とでは10年の距てがある。しかし追々自分のクラスメートが減るに従い、大正期の卒業と聞けば同期生のように親しみを覚える。誰も若返った気分で「明治は100 年でも我々は10代だ」とうそぶいて、まだ角力の一番も取れるようなことを言う。当時学校では角力を正科に取り上げ、全校一斉に土俵に上ったから特に思い出も多いのである。まず**前窪**さんから始めよう。大浜全国角力大会の優勝候補にも上った人で、度量も大きく人に好かれる徳人である。その角力の応援団長は**井原**さんであった。学校中のカーテンを引っぺがして応援旗とし、応援振りも奇想天外で他校のど肝を抜いたが後に時の県知事鹿子木（かのこ）さんから応援団禁止のきついお達しを受けたと言う。**島村**さんは角力よりもゴルフの名手、お部屋にはトロフィーの数は私共訪問の度毎にその数を増している。母校の同窓会長をやり、現在県建築士会長、先年は黄授褒賞受賞に輝いた人格者である。**布袋**さんも二代目建築士会長に選ばれた人物。学生時代角力も強かったが、負けっぷりもよかった。愉快な話もあるが割愛する。謡曲は素人の域を遙かに超えている。**高島**君の時代はテニス時代と言えよう。母校に教鞭をとった君は、同僚安藤先生とコンビで「安藤高島組」と言えば当時のテニスマンなら県の内外を問わず思い出す筈である。**津田**君もテニスは良くやったが、その手はいつの間にか踊りの手振りに変ってなかなか大したものである。同じクラスの**中村**君、ある人が君を評して野人的と言う。飾り気がなくて率直明快なところは人を引きつける。海南市議に連続選ばれた所以でもあろう。

さて一向に取り柄のないのは私達の組である。優れた奴は早くもあの世へ移籍して、篩い粕だけが風邪も引かずに残っている。（栗林記）



豊富な品種と
精密さ、堅牢さ、美しさ、
をそなえたユニロックは
信頼の出来る錠(ロック)です。

有名ビル・ホテルで採用されているのは
完全な品質管理と半世紀にわたる
鍵づくりの技術を高く、評価されて
いるからです。

建設省・日本住宅公団・各府県市庁
有名建築設計事務所ご指定



GOAL IS THE FINEST NAME IN LOCKS AND HARDWARES

株式会社ゴール

本社・工場／大阪市東淀川区三津屋北通4－30 TEL(三〇二)一七七一
九州工場／佐賀県神埼郡三田川町 TEL(神埼)三二七七
営業所／東京・名古屋・札幌・仙台・静岡・金沢・広島・高松・福岡

建築の眼

浦辺鎮太郎
浦辺建築事務所長

金多潔
京都大学教授・工博

矢野豊作
KK藤木工務店常務取締役

桜川貞雄
東洋陶器KK顧問

1月号より6月号まで上記の四人の執筆者で担当してもらいます。

■コスト・ダウン

三笑主義のキーポイントは建築費のコスト・ダウンについての具体的な手段方法をもっているか，どうかにかかっている。コスト・ダウンは今日の社会全般が建築界に要求している最も大きい問題である。やれ施工の機械化だの，プレハブ化だのと，お題目ばかり並べて，独走していては到底，目的を達することはできない。発注受注のやり方から支払方法とか金利計算にまで意を用いても，まだまだ不十分である。筆者は浅学不才で，快刀乱麻のコスト・ダウン法はもたないが，うまく納まった場合をふり返って見れば，施主，設計者，施工者の三者の間で相互の立場と言い分が理解され，『では共同研究をやって，コスト・ダウンを計ろうではないか！』ということになった場合は成功している。わずかに一隅を照すに過ぎないケースでも，捨てないで，この相互理解に達することが，いつしか建築界の大きい方向を決めることに，なるか，ならないかそれは分らないが……。 （U）

■建築のおさまり

私はいま400字詰の原稿用紙に書いている。この文の長さはこの用紙1枚におさまるようなものでなければならぬという約束であるから，短か過ぎるとでき上りでの余白が目立つだろうし，長過ぎれば編集者にご迷惑をかけることになろう。

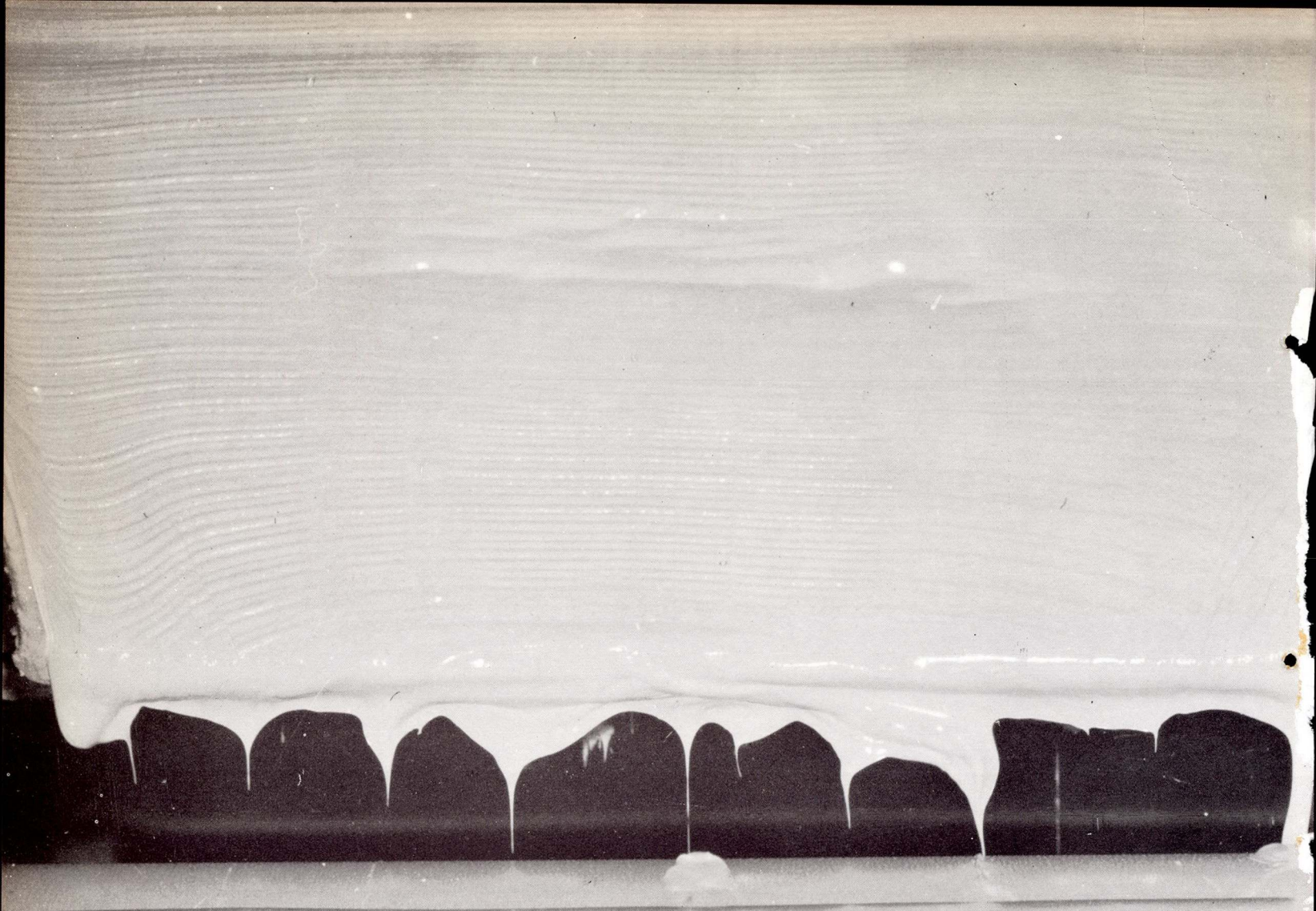
ところで，この条件で作文してみると，字数の制限は意外に難かしいものであることが段々とわかってきた。題材が自由であることも却って気苦労である。テーマの選択も自分の責任だということにもなるからである。建築のおさまりも，これに似たような事情があろうかと思う。個々のディテールにはかなりの表現の自由度があると同時に，材料や経済性からの拘束もある。あくまでも与えられた条件を遵守しながら美しいおさまりを案出して行くこと，才能に恵まれぬ私共にとっては習練のみがその解決法ではなかろうか。 （K）

■外装と内装

外装と内装は建築の仕上げの分野を二分しているわけだが，技術的な問題点の多いことでは外装は内装とくらべものにならない。当然クレームも外装の方がはるかに多い。その問題点を分析してみると，研究の突込みの足りないもの，手のつけられていないもの，あるいは簡単には解答の出ないまま放置されているものなどいろいろあり，極言すれば，八方破れである。新建材でも，内装材ではなかなかおもしろいものが出るが，外装材としては飛びつきたいようなものが少いのも，この辺の事情を説明しているようだ。在来の外装の手法についても，設計者も施工者も，内装とハッキリ区分して，もっと真剣に検討を加えなければならない。少くとも安易に内装と外装の手法を混同してはならない。なお，学者も，外装問題など研究テーマとしては甚だ地味でパッとしないが，もっと関心をもって究明に乗出してもらいたい。 （Y）

■隣りのぼたもちはうまい

日本人は欧米の真似をしようとし，欧米人は日本の真似をしたがる。隣りのぼたもちはうまいという心理はどこでも変らぬらしい。あっといわせようというのなら真似るのも結構だが，こと生活に関してはそう簡単に変えても困ることが多い。欧米のバスルームはなかなか合理的だというわけで，これをわが国の住宅に採用する人がいるが，大勢の家族で共用するときはすぐ困る。逆にアメリカでは日本の便所が間仕切られているのを見て，プライバシ獲得には都合がよいというわけで，個人専用は別として，最近では簡単な間仕切をする傾向がある。また日本では腰掛便器がよいというので採用が多くなったが，アメリカでは食物の関係か便泌が多く，日本式にしゃがんだ方が出やすいからよいといい出した学者がいる。仮にしゃがんだら日本人と同じ苦しみを訴えること必定。しかし進歩は真似から生まれるのだから奨励すべきだが，その必要性，慣習などを十分吟味して，よいと分ったら進んで採用すべきで，単なる真似はいけない。 （S）



建築用塗料

関西ペイント株式會社

ARCHITECTURE AND SOCIETY

建築と社会

Vol.48 第5号

表紙：都市と建築と人間シリーズ
その5. 都市と交通

表紙デザイン：表紙デザイン小委員会 & 菅谷 淳

©

■1967年・第48集・5月号・目次

会　告　日本建築協会会告……17
レタリング　Q，R……21
読者の頁　……25
建築と社会ニュース　……27
追悼記　故 古林義敦氏と私　……松田　実……27
スケッチブック　最近竣工の新建築9点……29
クラスメート　24. 県立和歌山工業　大正期卒業（井原国三，島村佐次郎，栗林一馬ほか）…31
建築の眼　担当：浦辺鎮太郎・金多　潔・矢野豊作・桜川貞雄……33
海外写真　欧米建築写真旅日記6・サラセンの装飾文様（コルトバ・スペイン）
……撮影：徳永正三……37
作品作風　大阪銀行協会……設計監理：日建設計工務KK……38
施　工：共同企業体
（KK大林組，鹿島建設KK，KK鴻池組，清水建設KK
大成建設KK，KK竹中工務店）
梅田第一ビル……設計施工：清水建設KK……48
都市と流通空間特集
1流通機構　最近の流通革命……林　信太郎……52
東大阪トラックターミナルの計画について……梶原　明……56
大阪マーチャンダイズ・マートと船場……大槻　四郎……61
建材流通と建築生産……城谷　豊……63
2流動時代への都市計画 ——流通コンビナートの提案——
……京大　上田研究室（上田篤，高口恭行ほか）……65
建設業界史話2　花山院……宮村　次郎……80
技術の頁　56. 構造部門：テント建築……磯野　義人……82
月報　日本建築協会月間の動き（昭和42年3月分）……85

編集人　松井昭光
印刷　昭和42年5月20日
発行　昭和42年5月25日
発行人　福中定三郎
発行所　(社)日本建築協会
大阪市東区北浜3—37
電 大阪231—9648
振替口座 大阪39975
印刷者　網野栄
印刷所　(株)研文社
大阪市北区堂山町66
電 大阪361—2091
売価　1部 300円・送料共

KENTIKU TO SHAKAI No. 5 Vol. 48, May 1967

(Architecture and Society)

A Journal of "The Architectural Association of Japan"

Cover design: J. Sugaya

Editor: *Akimitsu Matsui*
Publisher: *Teisaburo Fukunaka*
Published by
The Architectural Association of Japan.
37, 3-chome, Kitahama, Higashi-ku, Osaka, Japan.
Price: *single copy price ¥300*

CONTENTS

Lettering: Alphabet Q, R *21*

Column for Readers *25*

News for Architecture and Society *27*

Column of New Buildings *29*

Class-mates *31*

Essayes ("Kentiku no Me") ..... *33* — by *S. Urabe, K.Kaneda, T. Yano, & S.Sakuragawa*

Photograph: Sarasenic Decorative Relieves at Cordovan, Spain ..... *37* — photo: *Masami Tokunaga*

WORKS OF NEW ARCHITECTURE ASSESSED

Building of The Osaka Bankers Association ..... *38* — Design & Supervision: Nikken Sekkei Komu Co., Ltd. Construction: Joint Venture (6 componies)

Umeda Daiichi Building ..... *48* — Design & Construction: Simizu Construction Co., Ltd.

SPECIAL FEATURE OF CITY & CIRCULATING SPACE

[1] Circulating Structure

Recert Circulational Revolution ..... *52* — by *Shintaro Hayashi*

On the Planning of East Osaka Truck-Tarminal ..... *56* — by *Akira Kajibara*

Osaka Merchandise Mart and Senba-District ..... *61* — by *Shiro Otsuki*

Circutation of Building Materials and Architectural Production ..... *63* — by *Yutaka Shiroya*

[2] City-Planning to the Circulating Age

——A Proposal of Circulating Conbinate—— ..... *65* — by *Ueda Seminar of Kyoto University*

HISTORICAL STORY OF THE CONSTRUCTION FIELD

2. Kazan-in ..... *80* — by *Jiro Miyamura*

COLUMN OF ENGINEERING

56. Architecture by tent Structure ..... *82* — by *Yoshito Isono*

BULLETIN *17, 85*

欧米建築写真旅日記 6

写真と文　徳永正三



サラセンの装飾文様（コルトバ・スペイン）

スパニッシュ・サラセニック・ゴシックの建築研究のため、私はセビリヤからコルトバへ、それからグラナダへ旅をした。
コルトバのモスクの外壁にある、その文様は、サラセン装飾文様中も最も豪快なものとして推奨できる。



大阪銀行協会



正面入口



2階　手形交換室



5階　ロビーよりシャンデリヤを望む



5階　会議室

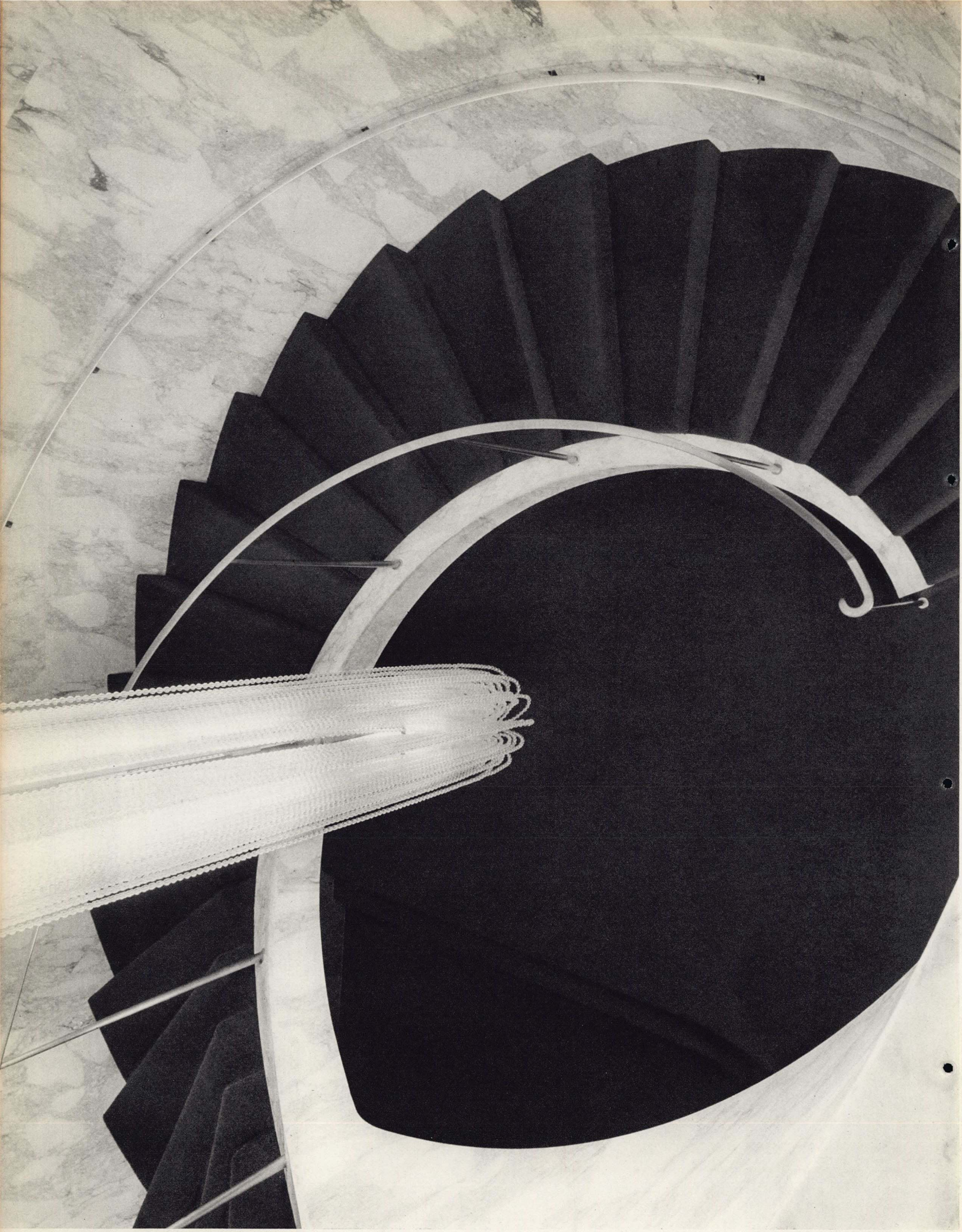


6階　クラブらせん階段

7階　大会議室



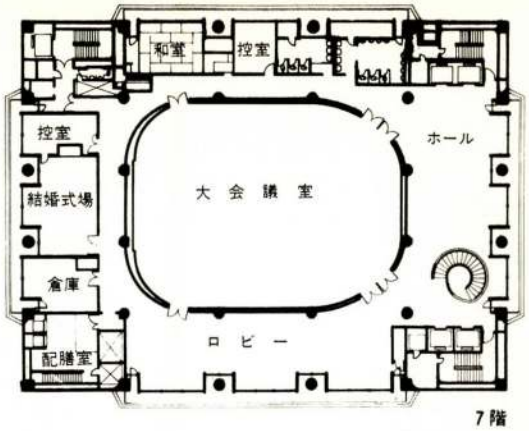
7階　ロビー



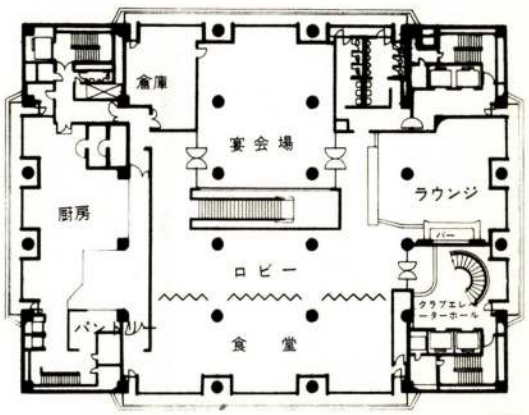
7階　クラブらせん階段

大阪銀行協会

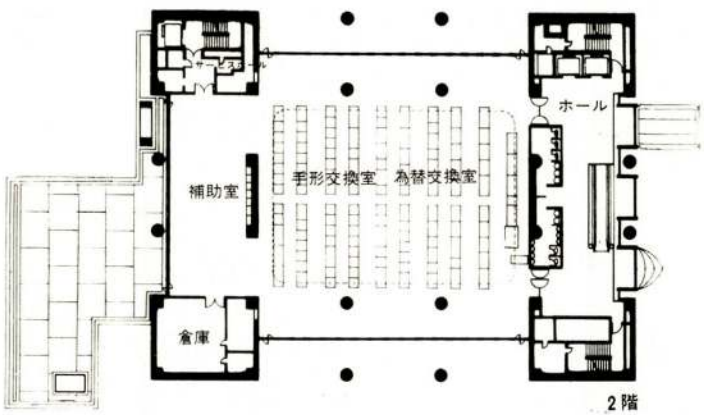
設計監理　日建設計工務株式会社
計画部長／橋本喬行　担当／結崎東衛　構造／若林嘉津雄
空調衛生／水野力　電気／畑正明　インテリヤ／合田正甫
平井美蔓　監理／石原清次郎、豊田進也
施　工　共同企業体／(株式会社大林組、鹿島建設株式会社、株式会社鴻池組、清水建設株式会社、大成建設株式会社、株式会社竹中工務店)
建築場所　大阪市東区谷町３丁目１５番地
面　積　敷地面積　2,847.781m²
建築面積　1,954.534m²
延面積　16,092.393m²
構造規模　地下２階　地上８階　塔屋１階
工　期　着工　昭和40年６月24日
竣工　昭和42年３月28日



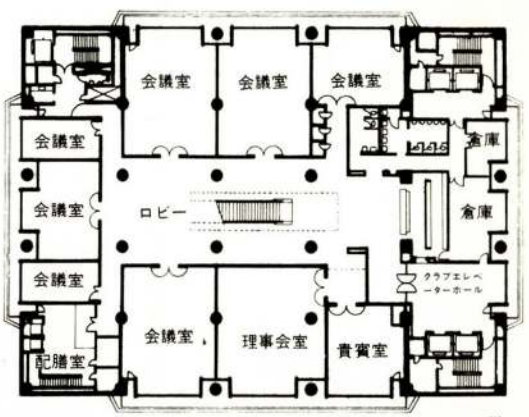
7階



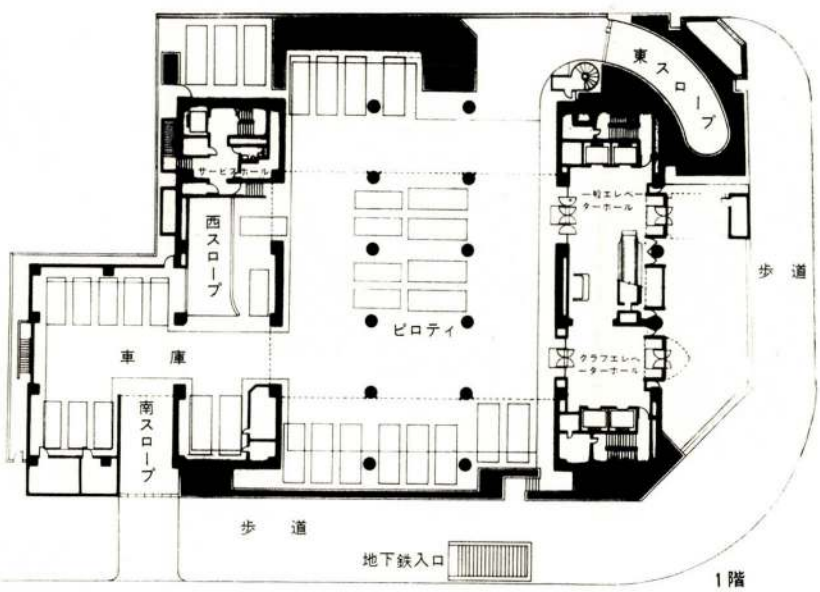
6階



2階



5階



1階



4階

■設計者のことば

銀行協会は昭和20年、戦後の新しい金融体制に即応するため大阪銀行集会所を改組して設立されたもので、銀行相互間の集会や各種の業務を執り行なっていますが、施設としては手形交換所と銀行倶楽部に集約できます。

片岡安氏設計による旧建物は中之島を彩る点景として永く親まれて来ましたが、参加銀行の増加と特に車の処理が難しく新たに谷町の高台に移設することになりました。敷地は大阪市の主幹線道路に接してアプローチに秀れ、再開発の進行とともに立地価値を高めるものと予想されます。

手形交換業務には毎朝短時間に80銀行100台余の車が集散します。1階のピロティはその車のさばきにあてられ参加者はエスカレータで2階の交換室に導かれます。交換室は集中度の高い事務室であると同時に本部席を核として共同作業を行なうため適度の大きさと統一されたスペースが必要です。そのため柱のない20m×27m×6mHの主空間とそれをとりまく補助作業のスペースが用意されています。構造としてはこのために4階をトラス階としており、ここは協会事務局の各種の用途にあてられています。中央部に壁も柱もとれないことから地震力は全て外部四隅の壁で処理することになり、これが外観の表情をきめる大きな要素となりました。

オフィスビルと異なって基準階というものの全くない機能をもつこの建物ではこの構造計画が効果的だったようです。トラス階の上部に積み重ねられたクラブ部分においても奥行のある自由なプランニングが可能となりました。空調もゾーニングと使用時間の点から22系統設けていますがトラス階をはさんで上下に8階および地下2階の機械室からサプライされます。

当然のことながら設計の基本はインテリヤのまとまりとそのつながり方にあてられました。その大きなポイントは窓際、すなわち外部とつながる部分のインテリヤのまとまりですが、これはスパン単位が手頃なスケールです。そこでスケールアウトになり易い窓際の柱を袖壁を設けて外部に出し、ガラス面をスパン単位に2階で構成しました。これでインテリヤの各々のまとまりに大きなビスタウインドーが得られ、袖壁は風景を載り取る効果を強めます。深い庇とともにこの窓面の構成は外光量をセーブし、各々のインテリヤに広がりと落着きを与えることを期待しています。この窓面と庇は大きなPCブロックで組立てており外部の表情をきわめるもう一つの要素となっています。（結崎記）

■施工者のことば

共同企業体運営委員長　前田篤美

当工事は、大林組、鹿島建設、鴻池組、清水建設、大成建設、竹中工務店の六社共同企業体によって施工しました。

この企業体は、従来と異なり、六社協議の結果、代表会社（鴻池組）一社の「準特命的運営」という理想的方法で運営しました。

すなわち、代表会社の施工企画案を六社代表の運営委員会で審議決定し、日常業務チエックとしては、各社の特色を十二分に取り入れるため、各社交代の「技術安全パトロール」制度を実施しました。

また、作業所の構成は、所長以下工務、資材、設計、事務、の各主任は代表会社で統轄し、各社1～2名の出向、計15名により編成しました。

前述の未経験の体制を如何に確立、推進させるかの課題として、まず運営委員会、あるいは作業所定時打合せ会を通じ、企画、施工等全面的に互り、各社および各出向職員の意見の疎通を図り、各社の技術と経験を、合理的建設的な方向に活用する万全の備えをとりました。

この「準特命的運営」方法により仮設、軀体、仕上各工事を通じ、六社共同によるマイナス面なく、単独施工と同様あるいはそれ以上の極めて優秀な成果をあげることができたと自負しています。

ここに恙なく完成することができましたのは、大阪銀行協会、日建設計、各位のご指導と、また協力業者各位のご協力をたまわり、工事を担当、施工できました幸運を改めて感謝する次第であります。（鴻池組）

大阪銀行協会詳細図

外装／屋根：アスファルト防水クリンカータイル貼
外壁：磁気タイル貼　開口部：プレキャストコンクリート組立、陽極皮膜処理アルミサッシ、フロートガラス　庇廻：プレキャストコンクリート組立及び磁気タイル貼
内装／1階　一般およびクラブエレベーターホール
床：大理石(トラバーチンロマーノ)　壁：大理石(トラバーチンロマーノ)　天井：プラスオール
2階　手形交換室および補助室／床：ビニラートタイル　巾木：テラゾーブロック(トラバーチン)
壁：ゾラコート　天井：ミネラートン
5階　クラブエレベーターホール、ロビー、理事会室等
床：じゅうたん　壁：練ベニヤ(チーク)　天井：プラスオール
会議室／床：じゅうたん　巾木：大理石(トラバーチンロマーノ)壁：クレモナゾラコート　天井：プラスオール
6階 ロビー、食堂、ラウンヂ、クラブエレベーターホール
床：じゅうたん　壁：練ベニヤ(プビンガ)　天井：プラスオール
宴会場／床：寄木貼(サクラ)　壁：練ベニヤ(プビンガ)　天井：プラスオール
7階　ホール、ロビー、廊下／床：じゅうたん　巾木：大理石(カララベジール)　壁：擬石かきおとし(寒水)およびバリアントタイル　フロントおよび柱大理石(カララベジール)　天井：プラスオール
大会議室／床じゅうたん　壁：練ベニヤ(クインスランドウォルナット)　天井：ゾノライト
各階階段／床：ビニラートタイル　巾木：テラゾブロック(トラバーチン、ささら)　壁：モルタルゾラコート　天井：モルタルVEP

電気設備の概要

1. 受電設備容量
　設備変圧器容量　1440KVA
　3φ6.6KV/210V　250KVA×1 保安動力用
　200KVA×4 一般動力用×3 保安動力用×1
　1φ6.6KV/210V　100KVA×3 一般電灯用
　105V　30KVA×3 保安電灯用
1. 予備発電設備
　ディーゼルエンジン　420HP
　発電機　6KV 350KVA

空気調和設備概要

1.吸収式冷凍機	1,000,000Kcal/Hr(330冷凍トン)	2台
2.マルチパスボイラー	3,600kg/Hr B重油焚	2台
3.セクショナルボイラー	625kg/Hr B重油焚	1台
4.冷温水ポンプ	3,000ℓ/min×37KW	2台
5.コンデンサーポンプ	6,600ℓ/min×55KW	2台
6.冷却器	カウンターフロー型	2台
7.空気調和器	ハンドリングユニット型	22台
8.パッケージエアコン		2台
9.送、排風機	シロッコ型	31台
10.電気集塵器		22台
11.自動装置	電気式、電子管式	22組

衛生設備概要

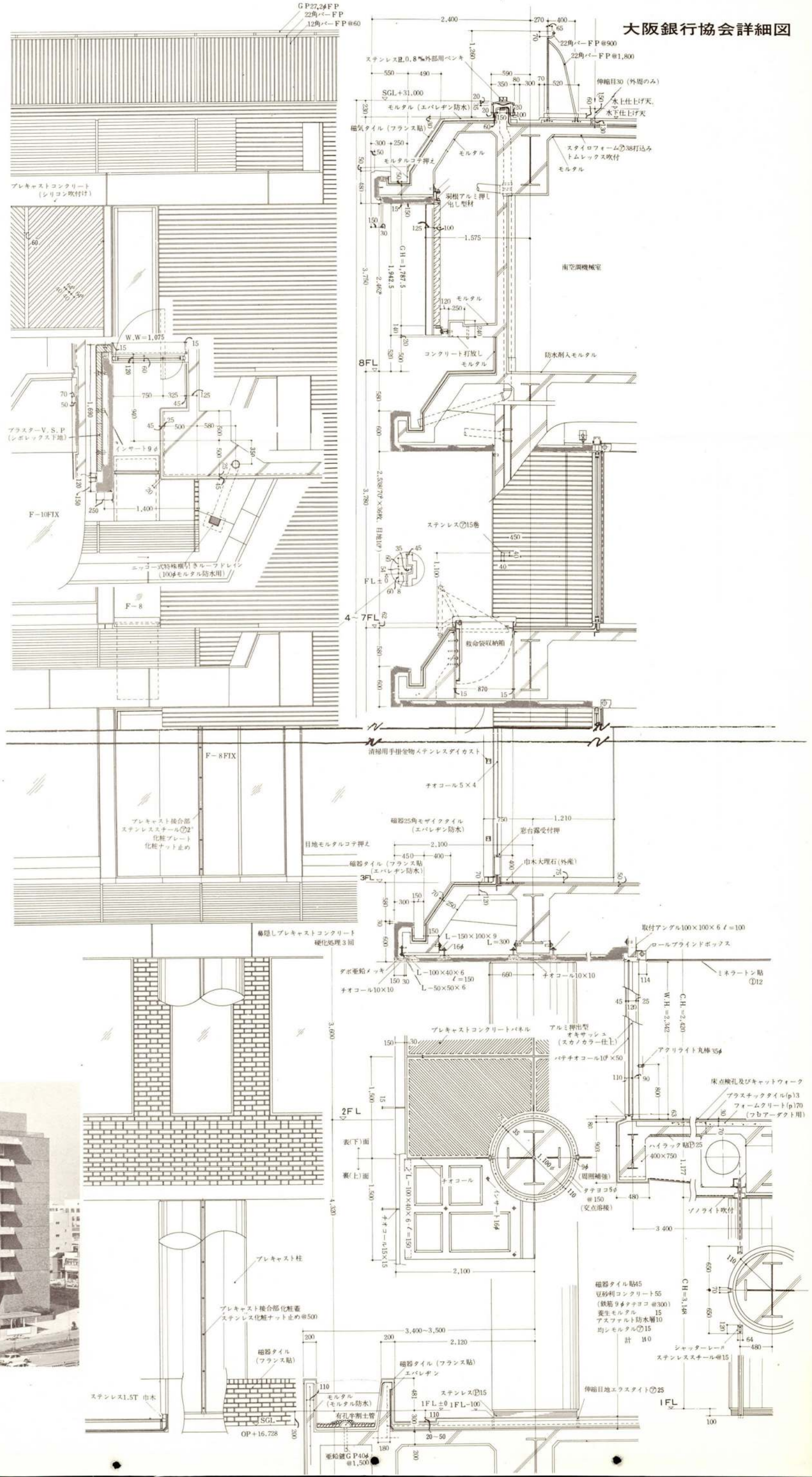
主要機器の仕様

①受水槽	コンクリート製100m³	1ヶ
②屋上水槽	鋼板製ビニールライニング30m³	1台
③揚水ポンプ	1,600ℓ/min30KW	2台
④排水ポンプ		
汚水	1,000ℓ/min 15KW	2台
排水	1,000ℓ/min 11KW	2台
ガレーダ排水	1,000ℓ/min 11KW	4台
⑤消化ポンプ	600ℓ/min 19KW	1台
⑥貯湯槽	1,250φ×2,500L内部ステン貼	1台
⑦塵芥焼却炉	700～1,000kg/Hr 自燃式	1台

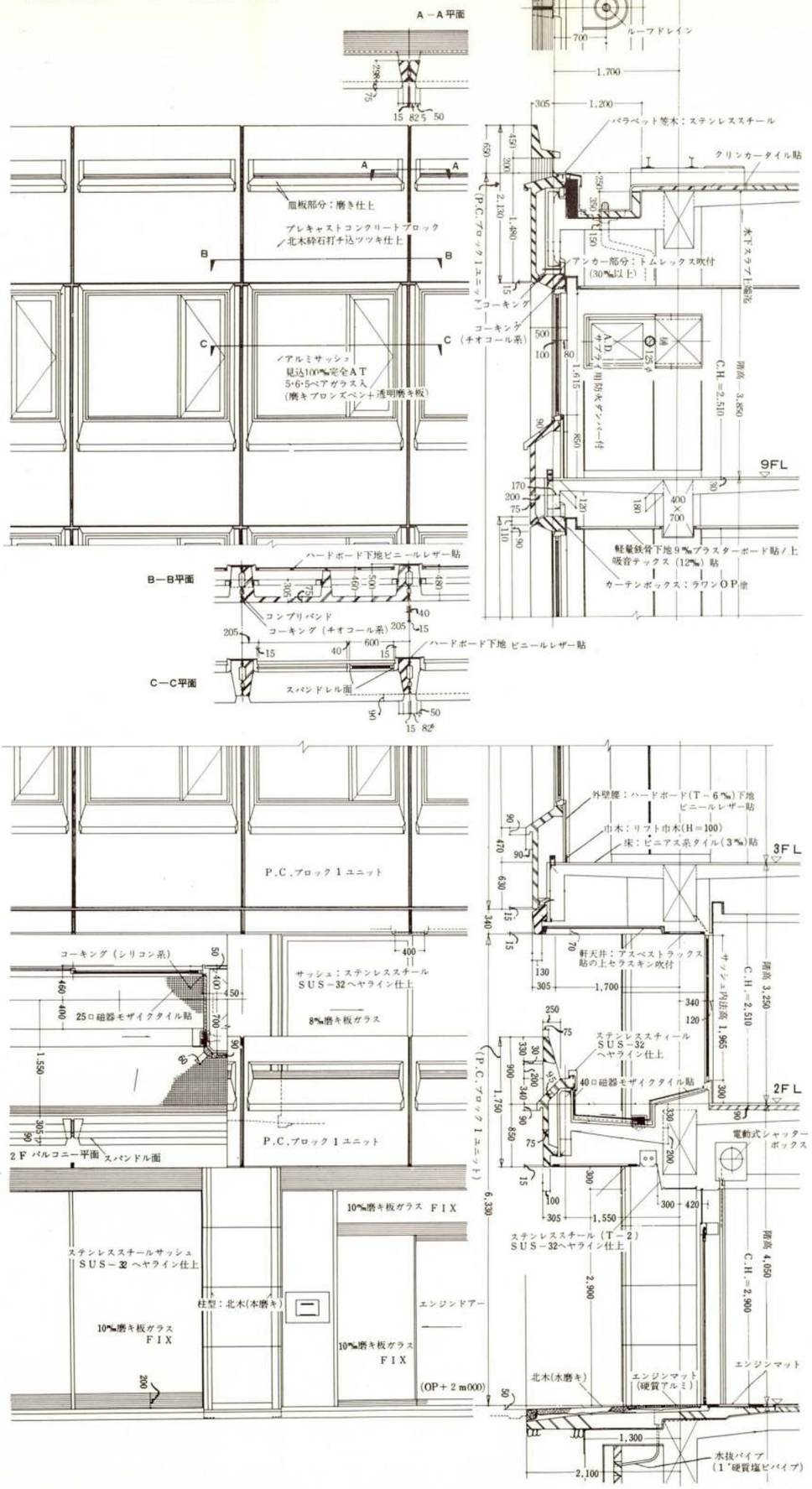
昇降機設備概要

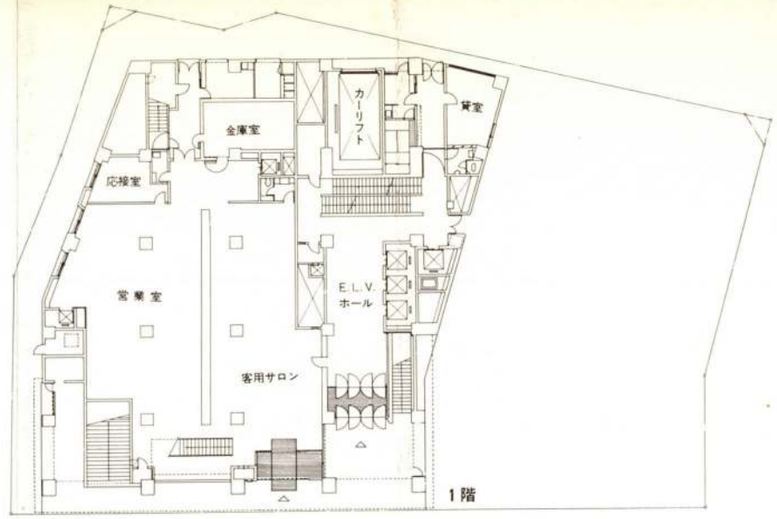
本館には乗用エレベーター4台、人荷用エレベーター1台、エスカレーター1台が設備される。
乗用エレベーター／直流ギヤレス型：デュープレックスフルコレクチブコントロール　積載量：1150kg
速度：150m/min　定員：17名
人荷用エレベーター／直流ギヤード型：シンプレックスフルコレクチブコントロール　積載量：1200kg
速度：90m/min　定員：18名
エスカレーター／輸送能力：8,000人/時　速度：27m/min　設置階：1階～2階

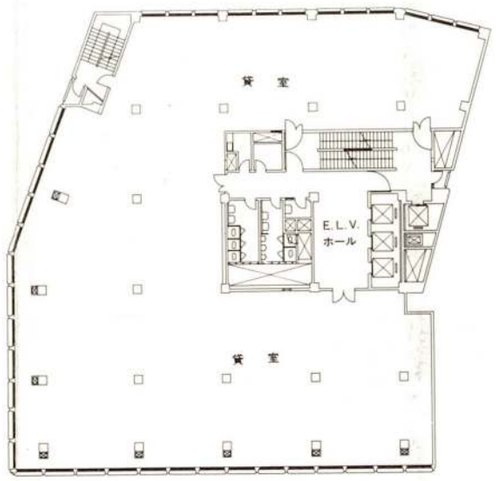


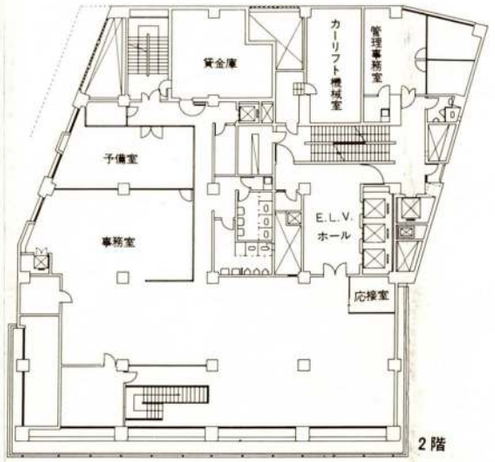


梅田第一ビル詳細図









梅田第一ビル

所在地　大阪市北区曽根崎中１丁目64番地
設計施工　清水建設株式会社
工　期　着工　昭和39年８月 竣工 昭和42年４月
敷地面積　1,329㎡
延床面積　15,066㎡
構造規模　地下ケーソン工法、地上鉄骨鉄筋コンクリート造、地下５階、地上９階、塔屋３階
外　装
１・２階部分＝ステンレス・スチールサッシュ、柱型花崗石張り、北および東壁面有田小口タイル張
３階以上＝花崗石砕石入りプレキャストコンクリートブロック取付け、表面小叩き仕上げ、完全AT式アルミサッシュ、熱線吸収複層ガラス入り
南壁面＝セラスキン吹付け
内　装
一般事務室＝床ビニールアスベストタイル張り、壁モルタルVP、天井吸音テックス張り

■設計者のことば

第一銀行梅田支店の旧店舗をとりこわして、その敷地を中心に周辺の細分化された土地をあわせて再開発する計画は、買収問題で難航した結果、当初の案をおよそ半分に縮小して実現した。計画変更にともない面積がせばまり、敷地の不整形さとあいまって平面上の制約はきびしいものがあった。駐車施設設置のための自己敷地提供、隣地買収などの犠牲もすくなくない。

金融機関が主体になって計画されたビルであるから、それには現代感覚とともに一種の格調がほしい。プレキャストコンクリートブロックをカーテンウォール形式で採用することによって彫りの深い量感のある表現をえて、所期の目的を達しえたと思っている。１ユニットは約1.6トンあるが取付け方法、層間変位に対する処置などはとくに慎重に研究した。

地下はニューマチックケーソンを２個に分割して施工し、地上階の6.8 m角基準スパンには空調ダクトのおさまりを考えて小梁なしの特殊十字スラブを採用した。（特許出願中）

貸室部分では、照度を550ルックス以上と一般水準より高くし、間仕切の変化に即応できるように分電盤は新らしいタイプのユニット形式とした。また各貸室区分にかならず一面の電話端子函をサービスするため、構造設計と共同研究の結果、端子函を柱埋込みとすることができた。空調設備はセントラル方式で７系統に分け地下５階と塔屋の空調機とから送風し、地下店舗ではファンコイルの併用が可能である。　清水建設株式会社　設計部　設計課長　山本俊介

■施工者のことば

当ビルは敷地の東半部に未解決の家屋が残っており、西側は地下鉄２号線山留用の切張を早くうけねばならぬ宿命をもった地下５階のビルであった。

このため着工は地下鉄工事よりも早くなり、竣工は東梅田駅の開通とあわせたので全工期も30ヶ月を要したのである。東側に家屋が残っているので地下工法としては、地下階を東西ふたつのニューマティックケーソンに分割したうえ、まず第一番に沈設しつつあり、かつ移動中の西側ケーソンの上にタワークレーンを設置して、このクレーンで西と東の潜函艤装工事と地上階の鉄骨建方を実施した。

大型車乗入規制をうける御堂筋に面し、しかも四周道路の敷地一杯に建ったビルで、曽根崎警察署の南隣とあっては直接工事に携わった者の労苦は想像に難くないものがあろう。

地上階の外装プレキャストストーンブロックカーテンウォールはH 3.250 m×W 2.250 m 1.6t/個であり、R階に設置したステフレッグデリックによって交通規制のない早朝にR階へ取込み荷解きの後、簡易モノレール式チエーンブロックによって昼間各階の据付作業を行ない、外部は単管足場組の上、二重金網貼によって養生したのであるが、大阪の表玄関に異彩をはなっている白亜のビルを今月恙なく完工することができたのも関係各官公庁の懇切なご指導と、町会長をはじめ近隣各位の深いご理解の賜物と厚く感謝申上げている次第である。　清水建設株式会社大阪支店　工事課長　安井猛

梅田第一ビル



梅田第一ビル



都市と流通空間特集

1 流通機構

最近の流通革命

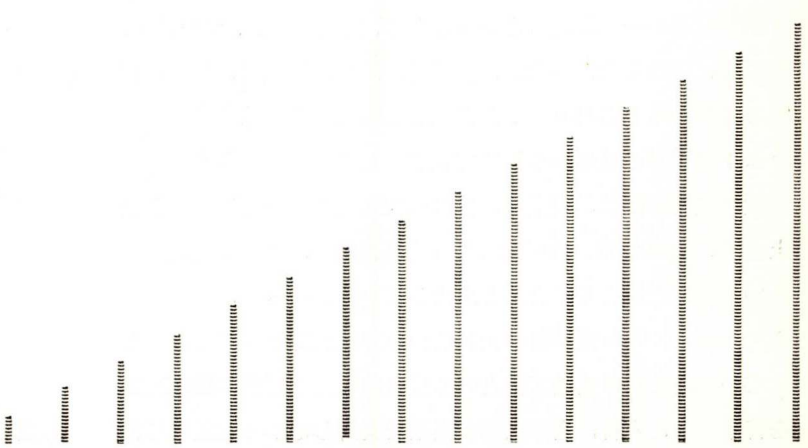
東大阪トラックターミナルの計画

大阪マーチャンダイズ・マートと船場

建材流通と建築生産

2 流動時代への都市計画

流動時代への都市計画——流通コンビナートの提案



最近の流通革命

通商産業省大臣官房企画室長　林　　信太郎

1　流通革命の必要性

わが国においてここ数年来流通革命が問題にされた所以は次のような諸事情によるものと思われる。

第1は，物価対策の見地からによるものである。

わが国の物価の実態をみると昭和35年を起点として小売価格は年々上昇し現在27～8％の上昇率を示している。他方卸売価格をみると一貫して横バイを続けており，時々，銅，木材などの国際商品が海外の高騰の影響で大きく上昇し，これが卸売物価に若干影響を惹起する程度である。いずれにせよ，この卸売価格と小売価格との鋏状状態は，小売物価上昇の原因が流通段階に存在することを示唆するものである。

ではいかなる現象がこの鋏状的小売価格上昇の主たる原因であるかについて検討してみよう。

まず最初に卸売過程が著しく長いことがあげられる。昭和39年における卸取引高のうち卸間取引（いわゆる仲間取引）は，42％の大きなウエイトを占めているのみならず，傾向として年々上昇すらしている。かかる実態は卸取引が第1次卸から第4次取引まで延々と間延びしているのみならず，これに従事する問屋の企業数および従業員の増加をも招来する結果となっている。欧米，あるいは一般に資本主義国では，卸過程をいわゆる中間的過程の節約と称して経済社会の合理化の中の最も基本的な方策としており，かつ，ほとんどの欧米諸国においては，すでに戦前に，また一部の国においては戦後早い期間に，いわゆる中間排除が相当前進している。

問屋段階が一つ増えるということは，問屋の経費，マージン，荷役費，荷作り費，梱包代，倉敷料，運賃，保険料，利益，荷傷み等のもろもろのコストが付加されることを意味する。流通コスト切下げの見地から極めて重視される所似であろう。

次の主要原因は，商業者，特に小売商業において店員の賃金上昇を，当該企業の合理化による生産性向上によって吸収するという意志と能力をほとんど喪失しており，従って，その賃金上昇はほとんど販売価格の上昇という形に転稼されることとなっている。これは士農工商という伝統的な商業軽視の経済政策を背景とし，人材，金融面等で商業を支持しなかった結果であると見られる。

第2の流通革命の必要性として労務の逼迫があげられる。

わが国の商業従業員は8～9百万人といわれるが，最近10カ年間の推移をみると約2百万人の増加となっている。しかも昭和36年度以降，若年労働者を中心として労働需給が逼迫してくる最中において，工業部門より若年労働者の増加テンポが高くなっている。

翻って商業の生産性は，従業員分の売上高で計られるが，これを向上せしめるためには，従業員が少ない方がよい。従って万一，最近10年間において，商業部門での従業員増加が，何らかの事情で実現しなかったという仮定が許されるなら，立ちどころに商業の生産性は2割以上向上するであろう。

またこの場合，工業部門等における労働需給は緩和されることになり，国民経済全体として労働の有効配分がより望ましい姿になるわけである。

第3の必要性は，流通コストが大きいことであろう。

工業製品の場合，小売価格を100とすると生産コストと流通コストは，ほぼ見合うといわれている。この流通コストが大きいということは，同時に個別経営的観点，とくに利潤の源泉という観点からいえば，極めて大きいことを意味すると同時に，国民経済的にも無視できない重要性をもってくるものである。

第4に都市の過密対策との関係で，流通近代化が必要になってくる。

大都市，特に東京，大阪等マンモス都市は，卸および小売の中心をなすとともに，なかんづく，卸機能の集落的存在によって，都市過密化の影響を大きく受けている。卸売は，卸取引という商業的機能の他に集荷，保管，配送という物的機能もあわせ担当しているので，交通難，道路の狭隘等は，当然，輸送コストの上昇を惹起し，薄利で運営されている問屋経営を極度に圧迫する結果となっている。

以上の他にも，マス・プロダクションをより進展させるためには，マス・ディストリビューションを流通段階で進展させなければならないとか，商業者の経営改善を今にして，画期的に進めなければ，商業者は本来，利に聡い存在であるので，資本自由化に併う外資の攻勢に対し，簡単に寝返りする恐れがある

など，その流通革命の必要性は極めて多種多様である。

では，流通革命の基本的原理は何かといえば，要するに，太く，短かく，早くということになろう。換言すれば，取引単位がより大きくなることが第1であり，メーカーから消費者ないしユーザーに届くまでの距離がより短くなることが第2である。さらに取引ないし輸送が，より迅速化されることが第3の要請である。以下，かかる原理が各種の流通形態にどう現われているか検討してみる。

② 小売業の近代化

小売業の近代化の第1は百貨店の動向であろう。わが国の百貨店は，現在300店舗で，年々極めて順調に発展してきている。特に，百貨店法によって店舗の新設や売場面積の新設が厳重に規制されているが，その形態のもつ経済性のため，順調に拡大しつづけている。建築的な面からみれば，ダウンタウン中心からターミナルへという傾向が極めて顕著に現われている。すなわち，6大都市における店舗新設は，ほとんど例外なくターミナルに立地したものである。さらにこの傾向は，百貨店系列，スーパーマーケットの形でサバーバイゼーション(郊外化)が順調に進行している。この傾向は電鉄系に集中的に見られる。すなわち，私鉄はターミナルに百貨店を認められたとしても，せいぜい1～2店であって，現行百貨店法のもとでは，それ以上に許可をうけることが至難なことになっている。たまたま，沿線に土地を所有しており，かつまた，沿線開拓のために大規模住宅建設のこともかねているため，百貨店法の規制をうけない小規模店舗としてのスーパーマーケットを，意欲的に拡充する結果となっている。アメリカにおける百貨店の立地が，ターミナルから郊外へと大きく移動している傾向とほぼ似た動きとみられる。

第2はショッピングセンターの勃興のきざしであろう。

アメリカにおけるショッピングセンターの普及は近年驚くべきものがあり，新しい成長分野として，ビッグビジネスの生まれる可能性すら期待されるほどである。アメリカ式ショッピングセンターは，百貨店，スーパーマーケット，ドラッグストアー，チェンストアー，ボランタリーチェン，SSDDS，各種専門店，メールオーダーのデモンストレーション・ショップなど，あらゆる種類の小売形態の店舗が総合的に一体となって立地し，これに駐車場，遊園地，託児所，飲食店，休憩所，花壇，理髪，美容院，医院，郵便局，銀行，各種リビング・コンサルタントなど関連諸施設があわせて立地されている。

わが国においても，郊外における相当規模の住宅団地の建設を動機として，総合ショッピング・センターの建設が徐々に盛り上っており，住宅団地の勧誘策としても，その価値が見直されつつある。従って，通産省においても，開発銀行の政策融資を挺子にして，これが模範的な形で普及することを支援する体制をとっている。

第3は，スーパーマーケットの普及であろう。

わが国におけるスーパーマーケットは，数年前からアメリカを模範としつつ急速な普及をみせている。その数は現在4,000店近くあるといわれている。この驚異的な普及にもかかわらずわが国スーパーマーケットは，1企業あたり平均1.4店舗になっており，いわゆる単店舗主義となっている。これはアメリカのスーパーマーケットが，A&P（アメリカ第1のスーパーマーケットチェンでその売上は2兆を越す）の約4,500店を頂店として，数百店以上の巨大チェーン組織をとっているものが多い。従って，仕入れ，加工，包装，札つけ，梱包，配送，仕分け，保管等を大規模かつ計画的に実施しているのに対して，わが国のスーパーマーケットの場合，その合理性の水準は極めて低い。この結果，高回転，低マージンというスーパーマーケットの本質は満たされず，一部にはすでに倒産，閉鎖がすでに2，3年前より現われている。こうした単店舗主義のわが国スーパーマーケットに魂を入れる決め手は，任意連鎖化（ボランタリーチェン化）することであり，すでに一部ではかかる傾向が実行に移されつつある。

第4は，ボランタリーチェンであろう。

ボランタリーチェンとは，多数の小売商が，その所有権と経営の責任を店主のもとに留保したまま，商業活動の面で，同志的結合をはかってゆくやり方であり，これには，当然中核体としての本部が必須条件となってくる。ボランタリーチェンとし

て行なう経済事業は，販売促進，仕入れの合理化，およびメンバー小売商の経営改善事業である。具体的には，販売促進事業として，店舗改造，陳列，フロアレイアウト，市場調査，品揃え，広告，宣伝などを行ない，仕入合理化事業として，商品開発，流行商品のデザイン，共同発註，計画配送，共同仕入れなどを行なう。またその他参加小売商の経営改善策としては，店員の集団募集や，集団的訓練，小売店経理の本部集中，法律的紛争の集中的解決，労務関係など関連法規の集中的処理，消耗品の集中仕入れ等が主なものである。現在かかるチェンは，問屋中心のものと小売商のみによってその本部を形成するものと各々同数であって，全部で120位といわれている。ただ参加小売店の数は，前者は平均200店，後者は平均50店程度であり，前者は全国単位，もしくは数府県にまたがって分布しているのに対し，後者は同一府県内に配置しておる場合が多い。

建築の立場からみれば，本部の機能を円滑かつ合理的に推行するため，商品の性質，チェンの規模，取扱い品目の多寡，配送の便宜をも考慮した特殊設計の倉庫が必須の要件となる。

ボランタリーチェンを保進する政策手段として，かかる倉庫，施設を建設する場合には，大規模のものには日本開発銀行から，また中小規模の場合には，中小企業庁と府県庁との共同による「高度化資金」によりそれぞれ低利もしくは無利子で，15年ないし，7年の長期にわたる政策的金融措置が講ぜられている。

このボランタリーチェン方式は，地価の高騰が激しく，かつ新しい進歩的な小売形態の導入を徹底的に排除するという，過去のわが国小売商の特異な行動様式等を考慮し，かつ，消費者の便益と，現存小売商への摩擦の回避を合わせ考慮すれば，最も典型的進歩的な小売形態として，わが国の土壌に開花することが大きく期待されている。したがって，通産省の流通近代化政策の最重要項目にあげられているとともに，今回新しく設立の内定した中小企業振興事業団においても，最重要業務の1つにあげられている所以である。

第5はレギュラーチェンの伸長であろう。

レギュラーチェンは，アメリカではチェンストアー，ヨーロッパではマルティプル・ショップといわれ，一応，形式的定義としは，10店舗以上の支店をもつ小売企業ということになっている。アメリカにおいては，今世紀初期の30年間に異常な繁栄を招来し，前述のA&Pなど巨大小売資本が1930年前後に多数成立している。これらが1930年に考案されたスーパーマーケット方式を画期的に大規模な形で実現する母体となったものである。

わが国においては，地価の高騰，チェンオペレーションのメリットに対する認識不足等のため，百貨店系や私鉄系の大資本によるレギュラーチェンといえども，せいぜい20店程度にすぎず，他方自然発生的な形で5～6店のものが地方都市を中心として圧倒的に多い。今後の予想としては，その普及如何は土地の取得の難易に大きく影響されるものと思われる。従って，私鉄系のスーパー・マーケットのレギュラーチェンは，かなり期待がもてよう。

第6はコールドチェンの普及如何であろう。

コールドチェンとは，生鮮食品を多種多様な方法で冷凍し，これをチェン化された小売店を通じて，消費者に提供する仕組である。これは第1に冷凍化の技術が重要な研究課題であり，さらに冷凍のまま生産者，卸業者，仲介業者，小売店および消費者等各取引段階間における輸送施設および保管方法がなお未解決の重要課題である。

さらにこれを現実に普及させるためには，アメリカで経験されたごとく，レギュラーチェンなり，あるいはボランタリーチェン方式によって，卸機能と小売店とが強固に，かつ合理的に組織化されていることが大前提である。かかる意味において，実際のコールドチェンの普及は，小売商店自体のチェン化が実現する将来の課題といえよう。

第7は，SSDDSの萌芽であろう。

このSSDDS（セルフサービス・ディスカウント・デパートメント・ストアー）は戦後アメリカにおいて，コーベットが始めたものといわれ，全く彗星的な普及をみたものののみならず，ヨーロッパおよび日本にも押し寄せてきた小売商のやり方である。定価販売が普及していること，正札を尊重すること等の諸事情を前提にして，普及したという経緯からみて，このSSDDS方式は，わが国には，さほど重要なウエイトを持ち得な

いであろう。特に百貨店における特売，慢性的過剰生産を背景とするダンピングの盛行等の事情からもこのことが主張されよう。

第8は，消費生活共同組合の普及如何であろう。

西欧なかんづく北欧においては，小売販売高の15%ないし45%に及ぶ大きな比率を占めるこの方式も，わが国には今までのところ成長する地盤が極めてうすかった。今後は多数知識層の停年退職者の増加や，住宅団地の普及等を社会的な素地として発展する素因も考えられよう。

③ 卸業の近代化

卸業の近代化の第1は，卸取引の合理化であろう。この筆頭は約半世紀の歴史をもつ中央卸売市場法の運用改善ないしは法改正であるが，諸事情のため，せいぜいその数の実質的増加が最も現実的な前進となろう。卸業の取引の合理化として合理的なマーク・アップ・レート方式の確立およびその普及，迅速な取極め，仕入の共同化，および販売の自動化等があげられる。特に，卸業におけるセルフサービス化は，小売店におけるセルフサービス化と同様に，一般零細小売商を顧客として極めて効率的な形態であり，大阪，東京等に大規模なものが逐次でき上がり成果を順調に上げている。

第2は，卸の持つ物的流通機能の合理化問題である。シカゴに戦前建設されたマーチャンダイズ・マートは卸総合センターともいうべきもので，わが国のように大都市の都心部に一点集中的にかつ平面的に多数問屋が蝟集している問屋集落形態を近代化するのに有力な一方法であろう。すなわち卸総合センターを都市内部に多数多点的にかつ分散的に立地したり，あるいは，都市の周辺に設置することにより，前述の問屋の悩みは著るしく緩和，解消されることになる。

現在，通産省においては，開発銀行を通じる政策金融により卸総合センターの設置を促進するとともに，中小企業庁の高度化資金を通じて，単品の専門商品ごとに卸団地を設置することを推進している。この結果前者の例としては，大阪市，天満橋（京阪電車駅跡地）および東京五反田（星製薬所在地）に具体的な建設計画が進んでおり，後者の問屋団地も，すでに10カ所を超えている。

さらに問屋総合センターを中核として，これにトラック・ターミナル，倉庫集団等を一体的に配置して，いわゆる総合的な流通センターの計画も着々進行している。

特にこうした構想を都市計画との総合的観点から計画的に進めるため，前国会では流通市街地整備法の設定をみ，通産省，農林省，運輸省，建設省および経済企画庁が一体となって，これが推進および指導に当っている。東大阪流通センター，京浜第2地区埋立地における流通センターの建設などはこの方針に則り進められているものである。

卸機能の物的流通面の合理化の一態様として，バルキイ・カーゴー（嵩高商品）の輸送の合理化があげられる。例えばセメントおよび穀物サイロの建設，石油のパイプライン輸送，鉄鋼のストックヤード等は，今後とも具体化するプロジェクトであろう。

④ 結　　び

流通革命の具体的内容としては，以上の他に，ユニット，ロートシステムの具体化としての一貫パレチゼイションの普及，パレットプール制の実現，コンテナー輸送の普及およびこれが関連諸施設の整備等も通産省，運輸省および関係業界等の協力によって進められているが，詳細は省略する。

以上わが国の流通革命は欧米に比し著しく立遅れており，これが改善促進は，国民経済的視野からも，また個別企業的な視点からも極めて重要かつ火急の課題となっている。これを円滑かつ急速に推進するためには，商業取引等社会的な側面と同時に，輸送，建築等，技術的な面からの接近も不可欠であることを強調したい。

東大阪トラックターミナルの計画について

大阪府都市開発株式会社
梶　原　明

1. トラックターミナルの必要性とその効用

トラック輸送は最近になってとくに飛躍的な発展をとげ，長距離輸送の分野への進出がめざましい。この傾向は都市間高速道路の整備にともなってますます重要視されている。

このようにトラック輸送が質的に変化してくると，大型の路線トラックによる都心部の貨物の集荷配送が非能率となり，都市の人口，産業の過度の集中にともなう，自動車交通の激増等，都市内交通の渋滞を増大させることとなるため，集配はそれを専門とする小型車によって効率よく迅速に行なわれるのが妥当で，これにより都市間の長距離輸送と都市間集配輸送とは明確に分離されることとなり，路線輸送と集配輸送とが機能的に接続させる貨物の中継場所が必要となる。これがトラックターミナルである。

また，最近の都市内交通は混雑が激化するに従い交通規制が強化され，東京，大阪のように大型車両の都心部通行が禁止されると，路線トラックが荷主からの直接に荷受，配達が不可能となり，都市の周辺部にトラックターミナルを設け，小型車による集配専用業務が行なわれている。故に各運送事業者は独自の資金でその建設が進められているところである。

この現象は貨物輸送力の増強，道路交通緩和，荷主に対するサービス向上等が図られることとなり，路線網の合理的な連絡調整が可能となり，積載効率の向上，中継作業と集配運送の合理化，荷役の機械化等トラック輸送の合理化が促進し併せて産業基盤の強化が図られるものである。

なお高速道路網の整備にともない路線トラックの超大型化される傾向にあり，車両構造の改正が近く行なわれようとしているところである。

2. トラックターミナルの現状

トラックターミナルには専用ターミナルと一般ターミナルに区分され，前者は運送事業者が自社で設置しているものをいい，後者は公共的ターミナルを指すものである。現在全国に点在するターミナルの数は，専用ターミナルでは1,173カ所，一般ターミナルでは5カ所である。また大阪におけるターミナルの数は87カ所（昭和40年4月現在）となっている。その大半は都心部に集中し，取扱貨物量に対する敷地面積は1トン当り10㎡前後と非常に狭少なものでターミナル構内において駐車スペースが皆無のものが多く，貨物輸送の効率も低下の一途をたどっている現状である。現在一般トラックターミナルの主要なものは上表のようなものとなっている。

表2－1　一般トラックターミナルの現況（昭和38.1現在）

名　称	規　模	敷地面積	建物面積	1日の発着回数	利用会社数
福岡トラックターミナル	14バース	7,450㎡	2,443㎡	発 25 着 25	6社
下関トラックセンター	28　〃	1,466〃	1,426〃	発 36 着 36	9社
蒲郡合同運送ターミナル	5　〃	441〃	209〃	発 32 着 26	5社
仙台トラックターミナル	65　〃	42,029〃	6,414〃	発 97 着 97	9社
小倉トラックターミナル	48　〃	16,879〃	9,076〃	発 45 着 45	6社

表2－2　大阪府下の専用トラックターミナルの現況(昭和40.4.1現在)

市区別	個所数	延バース数	敷地面積	市区別	個所数	延バース数	敷地面積
			㎡				㎡
大阪市	72	588	170,946.90	城東区	10	137	31,706.23
都島区	3	33	14,604.00	東住吉区	2	7	3,986.00
福島区	6	59	11,008.00	西成区	2	17	5,106.00
東区	2	9	2,772.00	吹田市	2	35	25,743.00
西区	12	61	19,280.00	守口市	1	10	5,092.00
南区	6	61	10,766.00	茨木市	3	23	13,700.00
浪速区	5	37	7,384.00	門真市	4	34	27,106.53
大淀区	3	21	4,426.40	泉大津市	2	8	1,623.00
西淀川区	7	42	16,944.37	寝屋川市	1	5	2,059.00
東淀川区	3	30	22,144.00	堺市	1	5	3,564.00
東成区	8	48	15,885.00	枚方市	1	6	4,448.00
生野区	1	19	1,478.00				
旭区	2	7	3,457.00	合計	87	714	254,282.49

3. 輸送事業の種別とその関係法規

輸送事業とは国が定めるそれぞれの事業法にもとずき，免許あるいは許可を受けて一定の輸送を行なうもので，その種類は経営様式や適用法規によって細分化されているもので，その関係法規と輸送事業の種別は次表のとおりである。

表3－1

輸送事業	法　律	営　業	運　賃	料　金
国　鉄	日本国有鉄道法	―	法　定	定　額
	鉄道営業法運賃法	―	認　可	
私　鉄	地方鉄道法	免　許	認　可	定　額
	軌　道　法	特　許	認　可	
陸　運	通運事業法	免　許	認　可	定　額
	道路運送法	免　許	認　可	定額（最高，最低）
水　上	港湾運送事業法	免　許	認　可	―
	海上運送法（貨物運送のみ）	届　出	届　出	―
空　中	航　空　法	免　許	認　可	―
保　管	倉　庫　業　法	許　可	届　出	―

4.　トラック輸送事業の種別

トラック事業についてはその種類は次のように区別されている。

1）　一般路線運送事業

一定路線を定期ダイヤで運行する自動車に小口貨物を積合せして輸送するもので，一般には定期便とか，自動車便とか呼ばれている。

2）　一般区域貨物自動車運送事業

定められた事業区域内，またはその区域を発着する貨物の輸送，つまり一定荷主の一車貸切り輸送するもので，例えば引越荷物の運送等はこれに該当する。

3）　特定貨物自動車運送事業

特定荷主の特定貨物の輸送をするもので，例えば郵便輸送のようなものをさす。

また，区域輸送には一般の他に限定と小型輸送に区別されていて，限定とは輸送品目の限定を設けて輸送するものを指すので，つまりセメント，化学肥料等一つの品目を定めて輸送することであり，小型とは2トン以下のトラックによる区域輸送をするものである。

以上の他に自分で営業免許路線を持たないで貨物を集めて路線トラック業者にあっせんする運送取扱事業（水屋または便利屋という）というものがある。なお通運事業について少し記述すると，通運事業は鉄道の両端輸送およびその貨物の取扱いを行なうことをいうもので，一般のトラックによる輸送事業とは性質が異っているもので鉄道輸送の補助的役割を果しているものである（流通百科より）。

5.　東大阪トラックターミナル計画

1）　計画の経緯

現在大阪の都心部は人口，産業の過度の集中，自動車交通の激増，各種施設の混在などにより極度に過密化されている現状で，一部の問屋企業は都心部より周辺部へ移転を余儀なくされている。これは流通機能の集中化による弊害によるものでこれが対策として，昭和39年大阪府が既成市街地周辺の交通の要衝地に新流通市街地を開発し都市機能の分散をはかり，交通関係施設，流通施設および業務施設を中心とする都市運営施設の計画的な整備計画を樹立され，中央環状線の公共投資効果の向上と沿道開発の一拠点とする計画が進められていたところで，流通市街地の基幹施設として当面都市交通の緩和を図るため，都市から8kmの地点に中央環状線と築港枚岡線との交差点とな

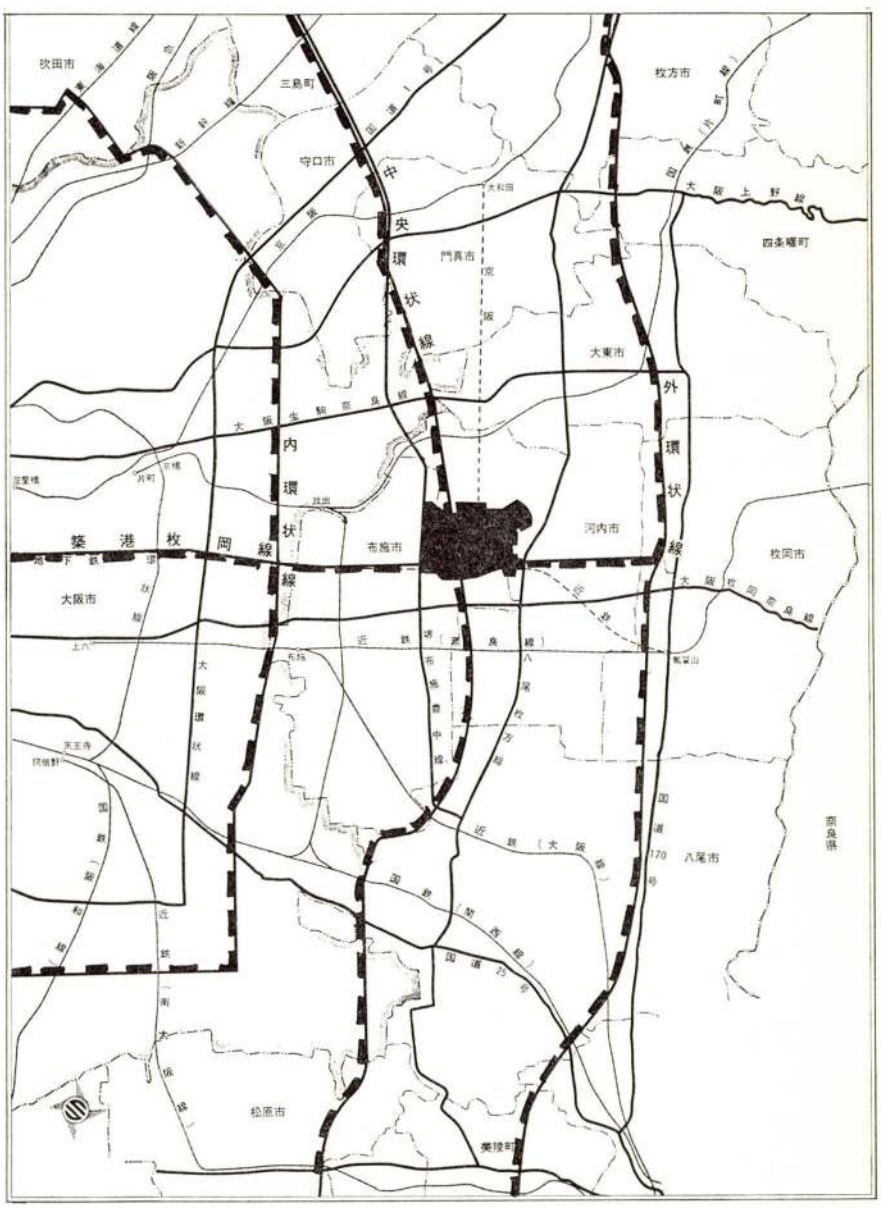


図5－1　東大阪交通施設図

る東大阪地区に東大阪開発事業の一環として，一般トラックターミナルを計画されたものである。

東大阪トラックターミナルで取扱う貨物は一般路線運送事業者により，取扱われる貨物を対象とするもので，都心部より東部における貨物の流動に対応せしめることを目的とし，立地的にみて輸送網の中心として最適の位置であることは衆目の認めるところである。

表5－2－1　主要道路別路線トラック1日運行回数

（昭和38.8.13大阪陸運局調査）

路線名	176号	171号	1　号	2号43号	25号	26号	計
発	24	123	837	512	42	114	1,652
着	13	160	842	525	41	118	1,699
計	37	283	1,679	1,037	83	232	3,351

表5－2－2　路線トラック方向別1日発着貨物数

大阪におけるトラックターミナルの実態調査（昭和39.3大阪府商工経済研究所資料）より推定

（単位トン）

方向別	関東以遠	中部	北陸	京滋	奈良三重	和歌山	兵庫	中国，四国，九州	計
発	2,808	2,894	677	972	563	503	1,080	3,436	12,933
着	2,318	2,511	362	602	402	237	611	1,982	9,025
計	5,126	5,405	1,039	1,574	965	740	1,691	5,418	21,958

2）　トラックターミナルの規模と輸送量

トラックターミナルの規模は敷地面積178,000㎡，荷扱場（ホーム）面積20,750㎡，停留場所（バース）274バースで取扱予定貨物量は昭和50年を目標におき6,100ｔ/日と推定したものである。取扱貨物量の推定表5－2－1から表5－2－6を参照。

表5－2－3　主要道路別方向別1日発着貨物量

（単位トン）

道路名	方向別	発	着	計
1　号　線	関東以遠	2,449	1,947	4,396
	中　部	2,524	2,109	4,633
	北　陸	590	304	894
	京　滋	679	449	1,128
	奈良，三重	197	162	359
	小　計	6,439	4,971	11,410
25号線	奈良，三重	337	209	546
176号線	京　滋	193	67	260
171号線	関東以遠	359	371	730
	中　部	370	402	772
	北　陸	87	58	145
	京　滋	100	86	186
	奈良，三重	29	31	60
	小　計	945	948	1,893
2号線，43号線	兵庫山陽以遠	4,516	2,593	7,109
26号線	和歌山	503	237	740
計		12,933	9,025	21,958

表5－2－4　昭和50年推定主要道路方向別1日発着貨物量

（単位トン）

道路名，方向別		転換路線	総数 発	総数 着	総数 計	高速道路転換予想 発	高速道路転換予想 着	高速道路転換予想 計	平面道路 発	平面道路 着	平面道路 計
一号線	関東以遠	名神	7,910	6,288	14,198	7,119	5,659	12,778	791	629	1,420
	中　部	名阪	8,155	6,812	14,967	7,335	6,130	13,465	820	682	1,502
	北　陸	名神	1,905	981	2,886	1,714	882	2,596	191	99	290
	京　滋	〃	2,193	1,450	3,643	1,973	1,305	3,278	220	145	365
	奈良，三重	名阪	636	523	1,159	572	470	1,042	64	53	117
小　計			20,799	16,054	36,853	18,713	14,446	33,159	2,086	1,608	3,694
一七一号線	関東以遠	名神	1,159	1,198	2,357	1,043	1,078	2,121	116	120	236
	中　部	名阪	1,195	1,298	2,493	1,075	1,168	2,243	120	130	250
	北　陸	名神	281	187	468	252	168	420	29	19	48
	京　滋	〃	323	277	600	290	249	539	33	28	61
	奈良，三重	名阪	93	100	193	83	90	173	10	10	20
小　計			3,051	3,060	6,111	2,743	2,753	5,497	308	307	615
2号線，43号線			14,586	8,375	22,961	—	—	—	14,586	8,375	22,961
26号線			1,624	765	2,389	—	—	—	1,624	765	2,389
25号線		名阪	1,088	675	1,763	979	607	1,596	109	58	167
176号線			623	216	839	—	—	—	623	216	839
小　計			17,921	10,031	27,952	979	607	1,596	16,942	9,414	26,356
合　計			41,771	29,145	70,916	22,435	17,816	40,251	19,336	11,329	30,665
		名神				12,391	9,341	21,732			
		名阪				10,044	8,475	18,519			

注　1.　昭和50年の貨物量の伸び率は企画庁「全国総合開発計画－機関別輸送量の伸び率」のトラック45年/35年＝3.83，60年/35年＝7.66を利用して，50年/38年＝3.23とした。
2.　高速道路への転換率は90%とした。

表5－2－5　主要道路別発着貨物量の現況および将来推定

（単位トン/日）

路線名	38年 発	38年 着	38年 計	50年 発	50年 着	50年 計	備考（対応地域）
名神高速	—	—	—	12,391	9,341	21,732	淀川右岸
171　号	945	948	1,893	308	307	615	
1　号	6,439	4,971	11,410	2,086	1,608	3,694	淀川左岸
2号，43号	4,516	2,593	7,103	14,586	8,375	22,961	北西部
176　号	193	57	260	623	216	839	
名阪高速	—	—	—	10,044	8,475	18,519	大和川左岸
25　号	337	209	549	109	58	167	
26　号	503	237	740	1,624	765	2,389	南部
計	12,933	9,025	21,958	41,771	29,145	70,916	

表5－2－6　東大阪地区集配予定取扱貨物量

（昭和50年度）

路線名	推定貨物量	取扱比率	取扱予定貨物量
名神高速道路	21,732トン	33%	7,171トン
国道1号線	3,694	100	3,694
名阪高速道路	18,519	80	14,815
国道25号線	167	100	167
計	44,112		25,847

≒26,000トン

注　1.　既設専用ターミナル取扱量は，昭和38年調査時点における現状面積236.326㎡から1トン当り23㎡を除して10,300トンと算定した。
2.　増設予定計画専用ターミナル計画予定面積80.532㎡1トン当り23㎡として3,500トンと算定した。

（昭和39年3月大阪府商工経済研究所のトラックターミナルの実態調査より，大阪市の中心4区とその以東の各区並びに東大阪地区全域を対象としたものである。）

3) 停留場所の算定

取扱輸送量に対して，施設の規模の標準は一般には敷地面積においては取扱貨物量1トン当り23.1㎡，荷扱場（ホーム）は1トン当り3.3㎡が適正なものとされている(運輸省指導基準)，6,100トンの発着貨物取扱を昭和40年2月の路線運行車の大阪における出入路線別調査による発着別波動傾向(図5—3—1)と高速道路の整備にともなう輸送時間の短縮による修正図（図5—3—2）によって発着別貨物量を算定すると表5—3—1のとおりとなる。停留場所（バース）の決定については表5—3—2から自動車の滞留最大値すなわち236バースが必要とされたもので，これに運営上余裕を見込み274バースが必要とされたものである。

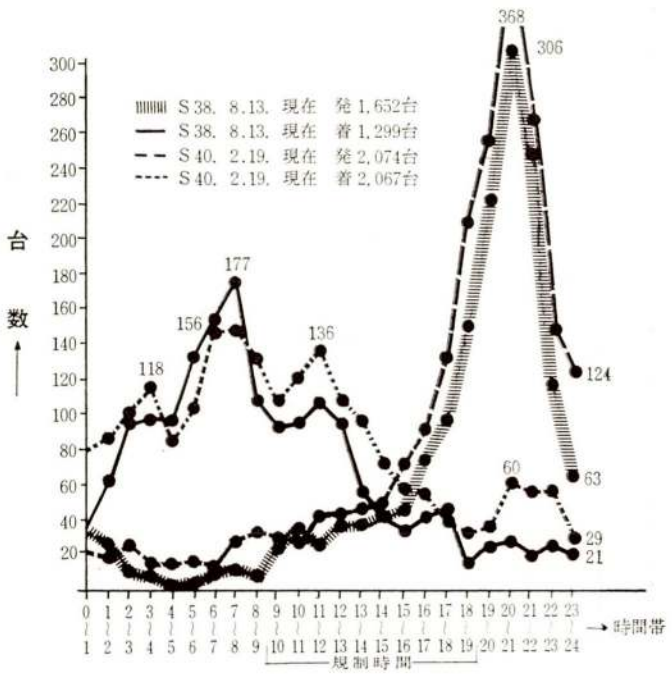


図5—3—1 府下における路線トラック発着台数

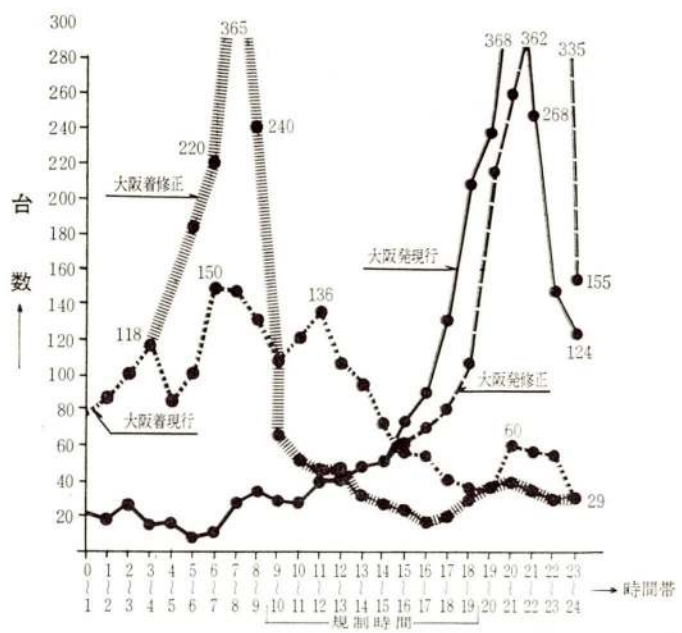


図5—3—2 府下における路線トラックの修正発着台数

表5—3—1 時間帯による貨物の出入トン数

時刻別	到着 数量 到着	中継	計	時刻別	発送 数量 発送	中継	計
	トン	トン	トン		トン	トン	トン
0—1	61	44	105	0—1	23	11	34
1—2	65	47	112	1—2	21	10	31
2—3	77	55	132	2—3	28	14	42
3—4	90	65	155	3—4	18	9	27
4—5	106	77	183	4—5	19	9	28
5—6	140	101	241	5—6	9	4	13
6—7	167	120	287	6—7	12	6	18
7—8	278	200	478	7—8	28	14	42
8—9	183	131	314	8—9	36	18	54
9—10	48	34	82	9—10	30	15	45
10—11	40	29	69	10—11	30	15	45
11—12	36	26	62	11—12	45	22	67
12—13	33	24	57	12—13	45	22	67
13—14	25	18	43	13—14	50	25	75
14—15	21	15	36	14—15	54	27	81
15—16	18	13	31	15—16	66	33	99
16—17	14	10	24	16—17	77	38	115
17—18	15	11	26	17—18	88	44	132
18—19	24	17	41	18—19	118	59	177
19—20	28	20	48	19—20	238	118	356
20—21	30	22	52	20—21	306	152	458
21—22	28	20	48	21—22	396	198	594
22—23	23	16	39	22—23	367	183	550
23—24	20	15	35	23—24	166	84	250
計	1,570	1,130	2,700	計	2,270	1,130	3,400

表5—3—2 運行車構内滞留台数およびホーム堆積量

時間帯	到着パターン	到着台数	到着累計(A)	発車パターン	発車台数	発車累計(B)	滞留台数(A)−(B)	1車9.36t平均* 積卸合算率	車上積載量(D)	ホーム集積量(C)−(D)
0—1	80	13	13	21	3	3	10	100	94	415
1—2	86	14	27	19	3	6	21	〃	197	393
2—3	101	17	44	26	4	10	34	〃	318	362
3—4	118	19	63	16	3	13	50	〃	468	340
4—5	140	23	86	17	3	16	70	〃	656	307
5—6	184	30	116	8	1	17	99	〃	928	263
6—7	220	36	157	11	2	19	138	〃	1,290	170
7—8	365	60	212	26	4	23	189	80	1,415	481
8—9	240	40	252	23	4	27	225	60	1,260	896
9—10	63	10	262	27	4	31	231	40	868	1,251
10—11	53	9	271	27	5	36	235	20	440	1,383
11—12	48	8	279	41	7	43	**236**	0	0	1,422
12—13	43	7	286	41	7	50	**236**	10	220	983
13—14	33	5	291	46	8	58	233	20	435	614
14—15	28	5	296	49	8	66	230	30	645	374
15—16	23	4	300	60	10	76	224	40	840	417
16—17	18	3	303	70	12	88	215	50	1,010	699
17—18	20	3	306	80	13	101	205	60	1,152	1,036
18—19	31	5	311	108	18	119	192	70	1,258	1,153
19—20	37	6	317	217	36	155	162	80	1,210	906
20—21	40	7	324	279	46	201	123	90	1,032	678
21—22	37	6	330	362	59	260	70	100	655	509
22—23	30	5	335	335	55	315	20	〃	187	466
23—24	9	5	340	155	25	340	0	〃	0	438
合計	2,067	340	／	2,074	340	／	／	／	／	／

＊注：(9t×0.8×0.55+15t×0.8×0.45)÷1.0=9.36t

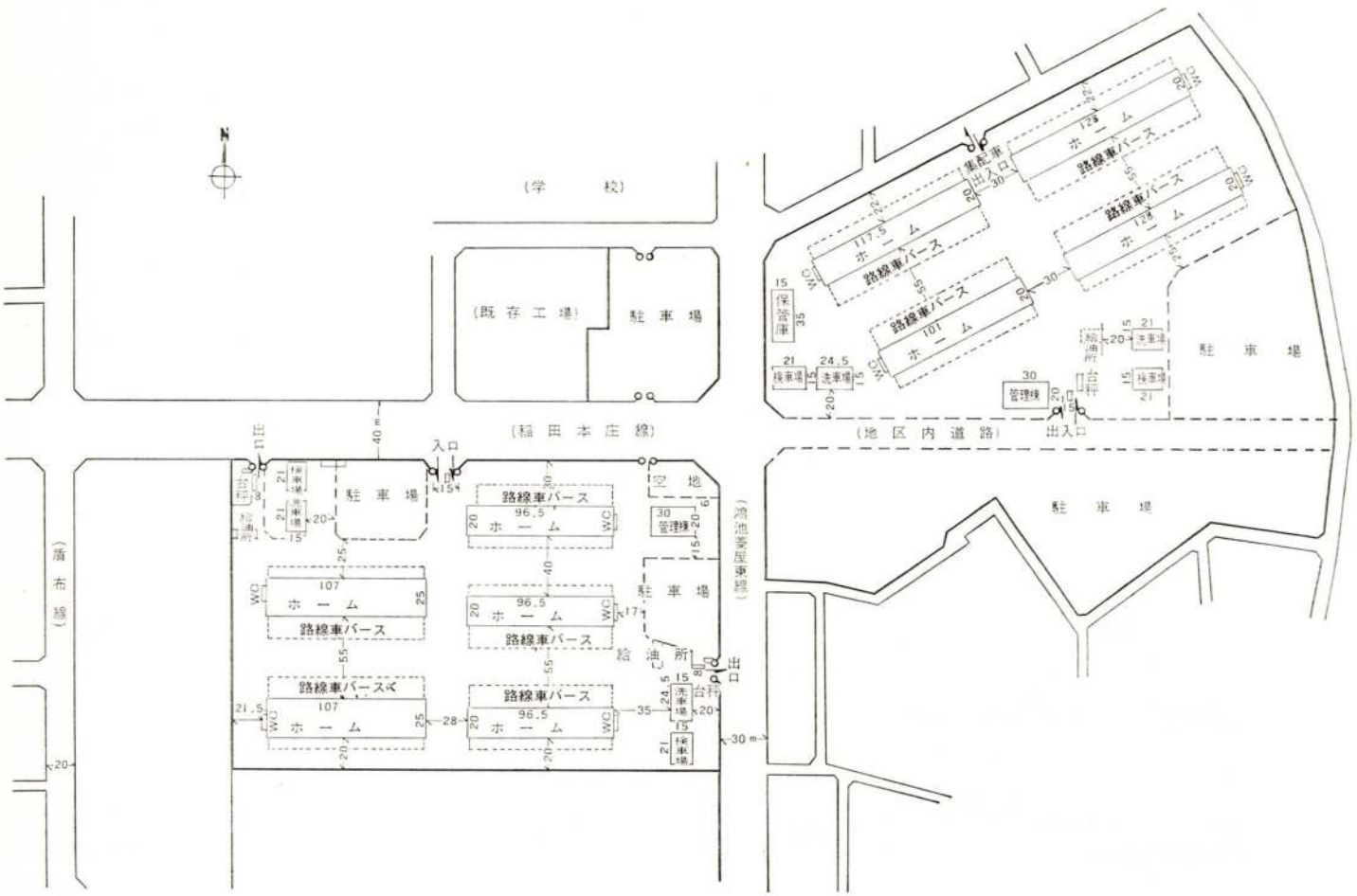


図5－4－1　東大阪トラックターミナル配置図

4）必要な付属施設

トラックターミナルには荷役場および停留場所の他に必要とされるものは，路線運行車乗務員のための仮眠室，休憩室，集配車乗務員，構内作業員の更衣および休憩室，発送配達伝票事務のための事務室，ならびに駐車場，洗車場，自動車の始業点検のための軽整備場，給油所，タイヤ修理場，および福利厚生施設の食堂，日用品売店，浴場，理髪室，医務室等が必要であるが，運送事業者の労務状況がまちまちで施設の利用の予測が判然としないので，最少限度の施設配置をし，公共ターミナルの指標の一助としているものである。

6. あ と が き

以上，東大阪トラックターミナルの計画の一端を散文にまとめたが，ターミナルの経営にあたり，貨物運賃内におけるターミナルの使用料の負担の限界，ならびに運輸行政の指導にもとづく使用料金の認可等，今後に幾多の問題があり，設備投資も使用料金を極度に低料金を要求されるので投資額をより節減を図り，技術開発，工法の研究進め低廉にして有効なものとすることに努めなければならないところである。

読者諸氏のご意見，ご批評を賜りますれば幸と存ずる次第である。

大阪マーチャンダイズ・マートと船場

大阪市経済局庶務課長
大　槻　四　郎

流通過程の立ち遅れが意識され，「流通革命」の必要性がやかましくいわれだしたのは60年頃であったろうか。大きな反響を呼んだ林周二氏の「流通革命」が出版されたのが62年11月であった。問屋街はむきになって反撃し，折しも物価の上昇が著しく，あたかも物価騰貴の原因が問屋だけにあるかのような錯覚を起こさせるような論争が多く，話題を呼んだものである。ただ，今から思えば，流通コストの低減の問題が直ちに問屋無用論と直結し勝ちな当時の多くの議論の中には，考察の底の浅さがなかった訳ではないと思われる。流通革命の必要性と必然性が論議され強く叫ばれるに至った理由には，物価問題からの理由と労働問題からの理由を挙げる人もあり，また他の人は，生産面の変化と生産企業からの要請であるとし，あるいはまた，消費者側の生活様式の変化をいう。他にもまだ多くの理由が考えられよう。しかし，いずれにしても，戦後のわが国経済の成長の過程で多くのひずみが生じ，特にそれが商業機能，流通過程の中に顕著に現われ，そうでなくてさえ他の経済部門の中で遅れの甚だしいのが一層目立ってきたのは事実であり，流通機構の変革が必然的なものとして受取られたのであろう。

高度成長過程における流通部門を取りまく経済的諸条件の変化を考えるには，独占段階における特有の現象といわれる商業排除の傾向や，あるいは，わが国の商業構造が著しく二極集中型であること等，どうしても触れなければならない重要な諸問題があることはいうまでもないが，この小稿では，現在大阪市が中心になって強力に推進し，その建設を急いでいる繊維卸売業のセンター，大阪マーチャンダイズ・マートについてその概況を述べることにしたい。

昭和39年の商業統計調査によると，大阪市の卸売商業は，商店数22,459，従業者数393,468人，年間販売額10兆4,870億円で，これを前回の37年の調査に比べると2年間に商店数で2.3%，従業者数で22.9%，年間販売額では実に39.6%の増加を示している。そのうち繊維品衣服身廻品の繊維関係は，商店数4,949（全卸中21.9%）従業者数115,234人（同29.3%）年間販売額5兆2,315億円（同49.9%）である。昭和33年の数字を見ると繊維の年間販売額は2兆2,093億円で全卸中54.3%を占めている。構成比は低下している。

その繊維卸売業者の47.1%，年間販売額の83.4%は東区，なかでも船場地区を中心とした繊維問屋街に集中している。他の業種でもそうであるが，業種別に集団化された問屋形態をもっているのが大阪市の特徴である。宮本又次教授の「船場」は，「東は東横堀の西岸，南は長堀の北岸，西は西横堀の東岸，北は大川および土佐堀川に沿える一区劃，これを船場といった。大阪市の中枢地帯である」という書き出しではじまっている。その中に，大阪経済の変化とともに船場の「のれん」の誇りも意味が大きく変貌してきていることが次のように描かれている。「関西財界というところは，戦前独自の力をもって，東京に対抗する勢力として存在していた。それは資力に支えられていたし，その資力は自主独立の精神に支えられていた。つまり江戸時代に培かわれた町人精神が，よい意味で強くはぐくまれて，バックボーンとなっていたのである。しかし現在の関西財界は時勢の変化によって著しく変貌してきている。明治維新の大阪の近代化を第一次とすれば，現在は第二次の脱皮期である」と。

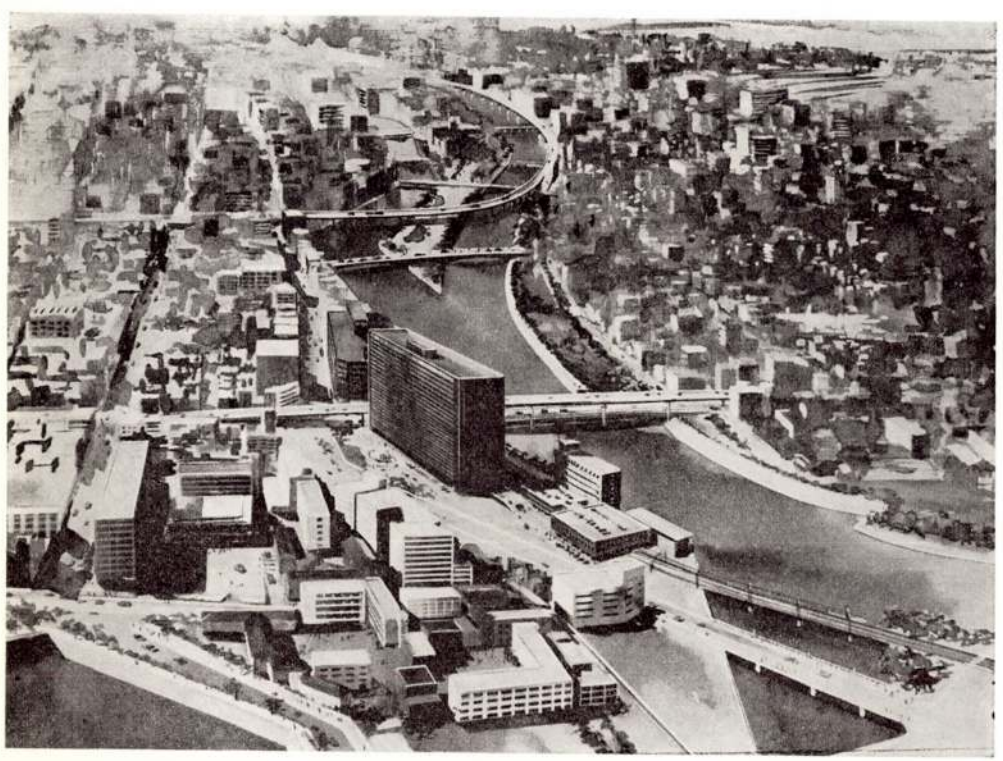
大阪市においても，昭和36年3月には久宝寺問屋連盟の業界診断を行ない，39年3月には衣服身廻品セルフ卸業界を診断したが，久宝寺問屋連盟診断の際すでに問屋の環境と機能の変化の自覚をうながし，量産量販時代の出現と流通機構の変貌について指摘し，問屋経営の近代化が緊急であることを勧告している。しかし考えてみれば，歴史的にみてこれら卸売商業はかって都市繁栄の育ての親でさえあったのではなかったか。それが，都市の過密化，狭隘化，交通難等の立地条件の悪化がとみに目立つにつれて，都心部に立地することがだんだん困難になるとともに，卸売機能を十分に果せなくなってきたことは明白である。ところが，工業と異り，分散化の効果がはかり難い商業は，幾多の不便を忍んでも都心部の集積の利益にしがみつこ

うとする傾向がまだ依然として強いのである。この傾向が集中に拍車をかけ，年々の急テンポな取引量の増大と相俟って，集積の利益といわれた外部経済を破壊し，機能の低下と流通コストの増嵩を招くという循環を繰り返えしつつ過密の弊害を再生産してきたのであって，ここに，機能の分化と問屋街の物理的再編成が強く要請されるにいたったことはもとより当然であろう。

大阪市の卸売商業対策の母体ともいうべき，市内卸売商業を一丸とした大阪卸商連盟が呱呱の声をあげたのは昭和40年6月，すでにこの時，船場地区再開発の契機として築港深江線の貫通が急がれ，これを高架にして船場の土地利用効率をたかめる計画が進められていたが，同じような考え方に基き天満における卸センター建設の構想が芽ばえていたといってよいであろう。この構想の基調は，後に大阪市が行なった船場地区の繊維卸売商業の実態調査の結果が端的に語っているように，船場問屋の船場地区に対する愛着が極めて強く，一部，移転の計画があるとしてもその希望地はほとんどが大阪市内に集中し，さらに移転後のあと地の売却はほとんど望めない実情からみて，いわば副船場を天満に立体的に構築して，船場の能力を超えて増大する取扱量の処理と，保管，集配，計算，商品開発など多くの共同事業を推進することによって，卸売商業の生産性の向上，流通コストの低減，商品市場の開拓等を目指し，併せて船場地区の混乱の緩和に役立てようとするものである。

株式会社大阪マーチャンダイズ・マートは昭和41年9月5日設立。資本金は5億円（授権資本20億円）。主たる株主は，大阪市，京阪電気鉄道株式会社，株式会社竹中工務店，関西電力株式会社，大阪瓦斯株式会社である。建設の趣旨として，「流通市街地でしかも交通至便の中枢地に卸センタービルを建設し，卸商を収容し増大する商取引に対応するとともに併せて協業化による時代の要請する流通機構の合理化を推進し，流通コストの低減を図る一方，卸商の繁栄を図らんとするものである」とうたっている。

建設地	大阪市東区京橋　京阪電鉄旧天満橋駅跡	
建物の概要		
(1) 構造	鉄骨鉄筋コンクリート	
(2) 階数	地下4階　地上20階	
(3) 高さ	地上71米	
(4) 深さ	地下20米	
(5) 敷地面積	19,500平方米	
(6) 延面積	128,168平方米	
(7) 工期	昭和42年4月～44年7月	
施設の概要		
レストラン	20階	1,926平方米
大ホール	20階	1,494 〃
会議室	19階	2,654 〃
卸商店舗	3～18階	44,079 〃
ショー・ルーム	2階	770 〃
大展示場	2階	3,763 〃
貸店舗	地下2～地下1階	14,429 〃
倉庫	地下3～地下4階	8,889 〃
公共スペース		50,164 〃
合計		128,168平方米
駐車台数	400台	



現在までの入居申し出では，(1)製造卸，信用取引卸業者等の内中堅クラス以上で知名度の高いもの，(2)一次卸よりも二次卸業者，(3)当ビル内の店舗を支店または卸の貿易部門として利用したい業者が多い。

以上のよう入居希望の多い状況からとりあえず第一次募集は昭和42年6月より行ない，7月信用調査，8月には予約契約の締結を行なう予定である。

建材流通と建築生産

建設省建築研究所
城　谷　　豊

まえがき

物価問題は，去る1月の衆議院選挙ではもとより，先ほど闘われた東京都知事を含む地方首長および議員の選挙戦でも，大きな政策論争の一つになっている。人民一般にとっての，それはいまや最大の関心事である。この物価高の根本の原因は、人民の労働と生活を犠牲にして強行された「高度成長」の経済政策，ならびに「アンバラ是正」と称して進められてきた各種公共料金の値上げや，公債発行その他のインフレ政策自体にあると思われるが，これらの政策はそのままにして，糊塗的な，ある場合には欺瞞的な対策さえもがいくつも提案されている。流通機構の「近代化」とか「改善」とかいわれるものもその一つに数えられる。

すなわち，ライスセンター・コールドチェーン・流通センター・ボランタリーチェーンなど一連の政策が示されているが，流通機構を改変して流通費用を節減すれば，その分だけ物価を下げることができる，という表向きの説明とは別に，その本質は，独占的大企業による流通過程の支配にあると思われる。別言すれば，独占的大企業にとって，その管理価格をヨリ容易に支える機構を作り上げることであり，したがってまた物価の値下げどころか，ある場合には，その高水準の維持を貫徹する方向にむしろ作用する。これが〝欺瞞的〟であるというゆえんである。

具体例を示せば，コールドチェーンは，生鮮食品大資本が生産農漁民に対する圧迫を強めながら，中央卸売市場を排除し，しかも冷凍施設を設備できない末端の小零細小売店を駆逐し，スーパーマーケットに直結して，そのヨリ大きな利潤を追求しようとするものであるといわれる。さらに消費者は，冷凍による味覚の低下だけでなく，台所に特別の冷蔵庫を備えるよう強制され，おそらく価格も安くなるわけではないだろう。これが流通対策一般の姿であるといってよい。

建材の流通機構をめぐる動き

建築材料の流通についても，以上のことは例外ではない。ただ建材という商品がもつ消費に関する特性のために，その流通問題が特殊の面をもっている，ということはいえる。食品や衣料や家庭用電化製品その他の日用消費財は，個々の世帯が需要しそして使用し消費する。ところが建材は，すべての世帯がともかく住宅に住んでいるという意味では，その構成材料として，個々の世帯によって使用され消費されるといえないことではないが，個々の世帯に必ずしも需要されるわけではない。非居住用の建物についてはなおのことである。いうなれば建材の本来的な需要者は建築工事の施主であり，しかも建材メーカーをはじめとする建材供給業者にとっての直接的な需要者は，大工その他の工事業者・請負業者であることの方がむしろ一般である。細部の論議は抜きにして，いわゆる建材が建築物・工作物・構築物の構成材料であること，したがってまた，最初に工事業者の手で消費されることに注目したい。そして以上のことは，建材の流通問題が，メーカーから工事業者にいたる間の問題であると同時に，またそれだけでは完結しないことを示している。

ここで，さきに〝例外ではない〟と述べた狭い範囲での建材流通の機構について触れるならば，といっても，その業種・品種が多岐にわたる個々の建材についてはいちいち事情が異なり，一概に論じられない向きもあるが，しかもなお主要な部分に関しては〝例外ではない〟といってよいであろう。昭和30年以降の顕著な技術導入によって，軽量形鋼・二次加工合板・プラスチック・人工軽量骨材など，いわゆる新建材がつぎつぎに生み出され，建築の現場施工技術に大きな変革を与えただけでなく，建材の流通機構自体にも一定の変化をもたらした。建材の流通経路は，従前から木材・ベニヤ・建具・ガラス・セメント・金物など，いくつかの販売ルートとして比較的截然と分かれているが，新建材のあるものはこれら既存のルートにそのまま乗り，またあるものは試行錯誤していずれかのルートへ落着き，またあるものは新しいルートを開拓しようとして失敗した。ルートが入り乱れ，チャネラーは異質の材種を多く取扱うようになった。こうした中で「流通革命論」そのままに，問屋を排したり小売店を除いたりの企業行動もみられるようになった。これらの新材料が，その量産態勢に見合った流通機構として，効率的な「太く短いパイプ」を要請したからである。また新材料とその取付けの新技術は，プレハブ建築やカーテンウォール工法にみるように，それら技術の担い手として，かれらを

単なる材料供給業者の位置に止めておくことを許さず，工事業者の舞台に引き出してさえいる。もとより，それが今後とも継続する新しい変化なのか，施工業者が技術を修得するまでの過渡的・一時的な現象なのかは，いま直ちに結論できないとしても，建材をヨリ多く販売しヨリ速く流通させるためのメーカーやチャネラーの避けられない行動であることは事実である。

以上の変化は新分野にだけ起きていることではない。もともと建材供給業者の多くは，メーカーも含めて，建材需要の地域性や零細性と関連して，小規模経営でも一定の安泰を保ちえてきたが，高度成長経済のもとでの企業格差の拡大，建材界への総合商社の進出とそのメーカーおよびチャネラーに対する支配，さらに交通手段の発展による二次問屋の没落と地域的シェアの再編成など，全面的な変化が進行しており，今後の企業「合理化」の強化とともに，ますます競争は激しくなっていくものと思われる。こうした意味では，建材の流通問題も日用消費財におけるそれと同様のものであり，特に異質の問題はないということができる。

しかし前にたち戻って，建材が建築物の構成部品として消費されるものであることを考えると，建材の生産・流通の問題はそれ自体独立したものとして存在しながら，しかも建築生産の問題と切り離しては考えられないことが，指摘されよう。建材流通機構は建築生産組織の一環として理解されるべきものであり，また流通の改善が販路の拡大をも目標の一つとしている以上，建材流通の問題は単に流通経路の問題としてはなく，同時に建築需要の問題としても扱われねばなるまい。

建材流通と建築生産との関連

住宅であれビルであれ，建物をつくるという仕事が単一の主体によって行なわれることはない。まず建設を発議し企画する主体としての施主が存在しなければ，建設そのものが問題にならない。具体的な建物空間と物的条件の設計計画を担当するのが建築家である。その企画や設計に当っては，技術上・経済上の助言者としてのエンジニアやコンサルタントが必要になる場合もある。建築家の設計に基づいて，建物を構成する材料を集めこれを施工する下請けの専門工事業者および労働者を組織し，その工事を管理するのが元請業者である。材料は建材メーカーが製造し，チャネラーによって需要者のもとへ届けられる。下請工事業者は各職別に必要である。大きな工事であれば，設計図書どおり施工されることをチェックする工事監理者を定めなければならない。このほか関連する主体として，金融業者・不動産業者などもあげられる。これらの主体が各業務を分担し共同して，一つの建築がつくり出されるのである。これが建築チームというものである。

この建築チームの中で，建材供給業者はどんな役割を果たすのであろうか。建築全体からみれば建材は部品にすぎず，ゼネコンを中心にみれば建材メーカーは部品の製造者であり，チャネラーは部品の運搬者にすぎない。しかし鉄鋼業・化学工業のめざましい技術革新による新しい建材の出現が，建築の施工技術を大きく変えてきたことも事実であり，軽量形鋼やH形鋼がプレハブ工法を発展させ，またカーテンウォール工法を導き，二次加工合板の普及が左官その他の内外装工事を変化させ，アルミサッシが建具工事を変容させ，人工軽量骨材の開発がRC造に代わる新しい建築への飛躍を期待させる等々，材料面の技術が建築技術全般をリードしているといういい方も可能なほどである。

このような材料技術の発展は，技術それ自体の自立性にもよるとはいえ，推進主体としての建材メーカーの熱烈な企業動機に支えられていることを無視できない。その企業動機とは，個々の建築における自社製品の比重を高め，さらには自社製品を使用する建築需要を拡大することである。そこには，部品・部材を越えて建築そのものをとらえ，施工業者を越えて施主自体をとらえる態度がある。この観点からは，メーカーから施工業者にいたる建材流通機構の問題などは，むしろ小さなものであろう。さきに〝それだけでは完結しない〟といったのはこのことである。

ところでプレハブ化は，部材であれ完成品であれ，建築生産の側からはその工業化を進めるものといわれ，現場施工における熟練的重労働を工場生産における単能的軽労働に変え，全体としてその労働生産性を高めるものとして理解されている。これを建材製造の例からみれば，従来のように，流通経路に流したあとそれがどこにどう使われたのか皆目見当がつかないというのではなく，すでに建材製造の段階で建築設計に一定の関与をして自社製材料の販売を確実にし，また従来のように，流通業者まかせで建築需要者とはほとんど無縁であったのと異なり，施主への距離をある程度縮めることによって自社製材料の販売を拡大するものとして，理解されるのではないであろうか。もちろん，前段のことはプレハブ建築として売れての話であり，後段のことは施主をつかむための新たな機構を要し，いずれも簡単なことではない。さらに，建築として売るためには何らかの形で施工業務に関与しなければならず，いわばゼネコンへ一歩を踏み入れることであり，プレハブ出現の当初からこれら企業にとっての最大の懸案であったのである。すでに明確にゼネコンを指向したメーカーもあれば，一定の条件のもとでは部材メーカーとして貫徹していけると考えている企業もある。いずれにせよ，建材を建築部門からの要求に応ずるだけという受動的な売り方にとどまるかぎり，せいぜい流通機構の改善などが中心課題になるわけであるが，積極的に売り込もうとするとき，その部材化・プレハブ化は一つの必然であり，さらには施工部門の設置も余儀ない方向なのであろうか。













流動時代への都市計画

—流通コンビナートの提案—

京都大学上田研究室

上田一篤・高口恭行・宮地謙一・田端修・藤原昭・坂本一夫（PHOTO：松尾弘子）

Ⅰ．序―― 流動時代

かって平野を流れる水路のごとくゆるやかであったわれわれ人間社会の文明の流れは今世紀に入って世界中が一つの流れに合流し，今やうずまく激流と化した感がある。渦の一つ一つが激しく回転し，あたかも独自の動きをもっているかのごとく，われわれの目前に展開する，社会全体の政治，経済，科学技術の問題はその全体としての動きを明確にしない。がしかし、われわれのもつ文明・文化の全体は明らかに一つの方向へ流れているのである。現在，あらゆる基本的問題のうちで，現代を将来への展望の中でどう認識するかということが最も重要な課題である。

都市の問題，それはあらゆる側面において，ここ10年の大きな社会問題としてとり上げられてきた。だがしかし，これらの全体を一体どう認識すればよいのか，公害と称している不明朗な多くの現象，土地問題と称する政治的空間的現象，そして交通地獄と称する絶対的存在　これらを快，不快，あるいは善悪といった感覚としてつかみ得ないことは無論であるが，これら相互に関連する諸問題をどう認識し，それゆえいかなる対策が基本的となり得るのか，この点が最も重要である。都市計画学における哲学の貧困，そして具体的に誰のための都市計画か，と叫ばれねばならぬ理由は，一にこの認識の困難さによるものとみるのはまちがいであろうか。

私達はここで流動時代ということばを使用する。新らしい言葉のもつ不完全さと瞬昧さを伴ないつつも，現代の社会を流動時代としておおづかみにすることが必要であると考えている。人間がその文化全体を通して発展し，より良き生活を指向するなかで，経なければならない大きな変革，革命によって追加され再編成された社会，それが流動時代であると考えるのである。

きわめておおざっぱにみると，人間の第一発展は，飢餓や闘争をまぬがれ生命の安全を保証され得る生活を築くことであったろう。結果としてそこにつくり出されたものは封建制という身分制度，主従関係，生産関係といった，あらゆる人間関係であった。いうなれば，集団革命によってつくり出された社会制度の時代であったといえる。第二の発展はより豊かな物資を生活の中に獲得することであったろう。それは蒸気機関の発明という一つの現象から出発し，今や消費の時代と呼ばれるに至る物資増大のプロセスとなった。いうなれば、産業革命による物資（増産）の時代であったろう。現在の問題は何か，次の人間の発展としてわれわれが当然求めざるを得なかったものは人間の住む場所，環境を整備することであった。だがしかし人間の文化の原則はその集積性である。

いうまでもなく，過去の文化がまったく消え去り，次の新らしい文化がすべてを占めるのではなく，こうした革命によって得られたものは人間の文化としてすべて定着し，蓄積されていく。封建時代にあった，そこでつくり出された人間関係は，現代においても基本的には定着し続けていると考えるのは少し乱暴だろうか。産業革命によって得られた技術と共に，それ以前の手織りはたの技術も現在存続しているということである。産業革命は都市といわれる地域に人口の多くを集中せしめたのであるが，集中して居住し，その形式によって生産活動が発展したということは，今後の社会においてもやはり重要な基本条件とならざるを得ない。こうした大都市の存在，生産活動のための集中形式を存続させつつ新たな生活環境，生活空間を切り開こうとするところに，現在われわれが直面する諸問題があるのではなかろうか。国土の中に産業（主として工業）立地という条件で成立した既存の大都市群を，そしてその中で生産活動に従事する生活を人間が持つという条件を蓄積させたうえで，この生活空間をより発展させるということはいかなる意味をもち，いかなる※形式をとらざるを得ないか，そこにわれわれの定義する流動時代という概念が成立するのである。

現在多くの問題，都市問題を総称される諸々の問題を展開させつつ動いているわれわれの文化の発展方向は，流動の時代への歩みであり，これを決定づける一つの現象，それは空間革命とでも呼ばれ得るものであろう。

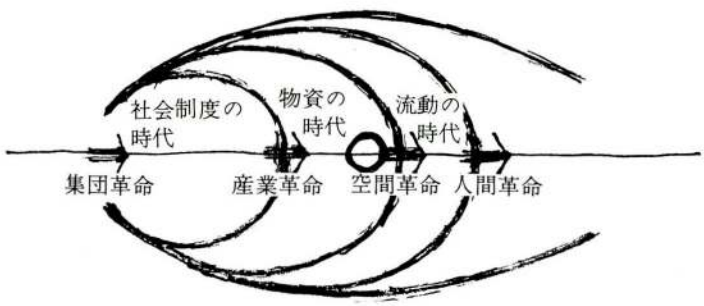


図１－１

昭和41年流通業務市街地の整備に関する法律の成立はにわかに，従来副都心，業務センターといわれていた都市計画事業の一つの機能，「流通」を独立した計画対象として存在させるに至った。流通業務市街地とは，一般には流通センターとして呼ばれるトラックターミナル，バスターミナル，卸売市場，問屋団地，倉庫，取引所，展示場などの綜合されたものであるが，この法案のねらいはこうした機能を一カ所にまとめ一つの組織体的空間を建設するということより，むしろ都市内部にあっては立地が困難になってきた個々の企業を郊外へ移し，都市内部空間を従来都心を構成していた大企業によって再編成してゆこうとするところにあるとみてよい。都心部の企業，銀行商社を頭とする取引部門の企業の成立し得る空間は都心には不足し，その間をぬって走る物資輸送の車はとみに都心部の機能麻痺を招くからである。この法案の成立以来，注目をあび発表された建設計画はＯＭＭ（大阪マーチャンダイズマート）京浜２区卸綜合センター，五反田卸綜合センター，東大阪流通センター等のほか公，私含めると数えればかなりの数にのぼるとみられる。ＯＭＭのような一つの建物の建設計画，倉庫の建設計画の類は別にしても現在計画を進行している「流通センター」の数はかなりのものであろう。

これらの流通センターなるものは現在のところ主としてトラックターミナルと卸売業務であると考えてよいが，先述するように，現在われわれの直面する基本的問題が流動時代形成への空間革命であると仮説すると，必ずしも結構な計画としてそれらを見る訳にはいかない。流通センターの成立はその背後により大きなスケールの条件として放射環状型の都市道路交通パターンがあるからである。流動時代への移行ということが必然の動きであるとするならば，このパターンはかなり基本的な点で問題があると考えられる。

人・物の動きは、現在加速度的にその量を増しつつある。日常生活において都市生活者は，鉄道，高速鉄道，市電バス，タクシーも含めて10年間のあいだに平均利用回数を２倍に増加しているし，国鉄による長距離交通の回数も，約 1.7倍にはねあがった。これらの人間の定常的流動に加えて，いわゆる盆暮れの帰郷時における全国※的流動はかってのゲルマン大移動を一挙に行なうに等しい。

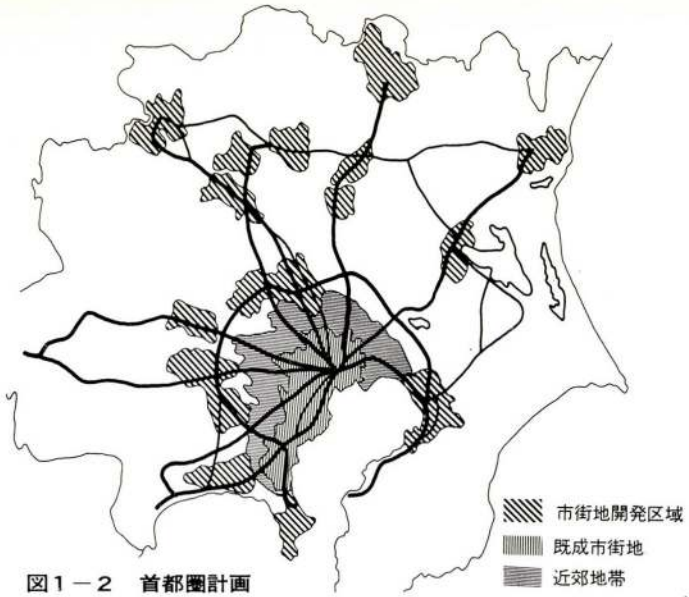


図１－２　首都圏計画

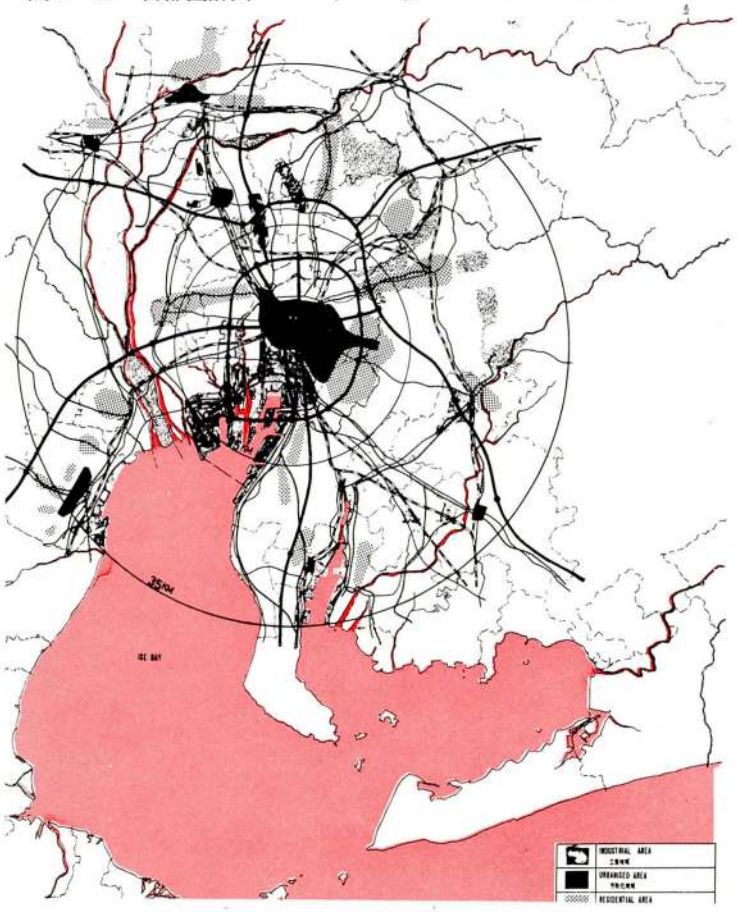


図１－３　名古屋都市計画



図１－５　大阪地方計画

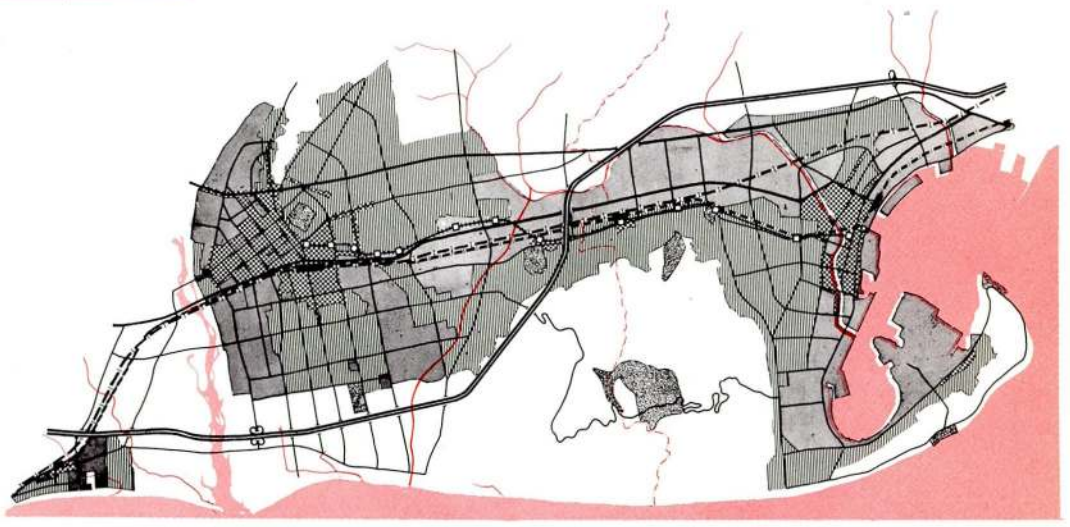
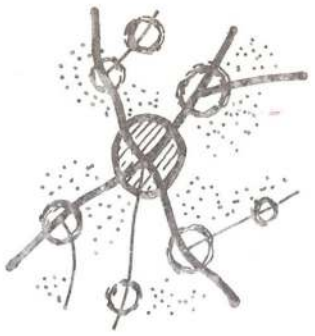


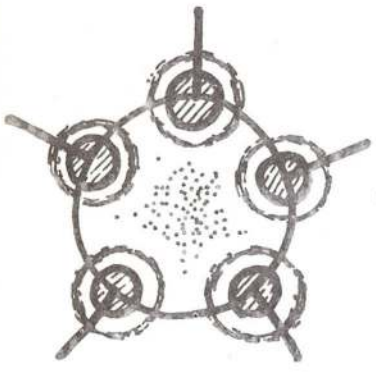
図１－４　静岡・清水地域計画



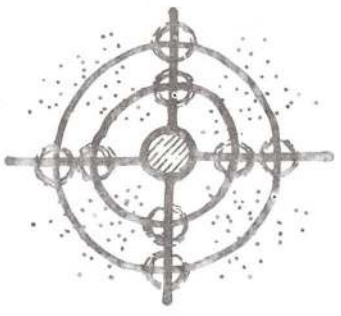
ニュータウン型(LONDON)



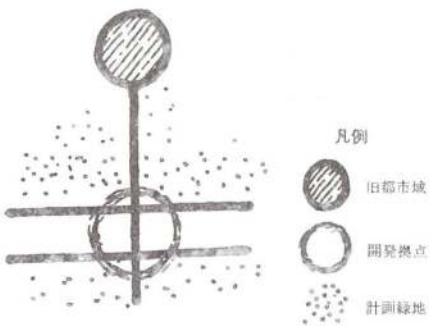
計画スプロール型(PARIS)



環状都市型(HOLLAND)



放射環状型(WASHINGTON. 2000)



第2都市建設型(PARIS未来像)

図1－6　都市発展のパターン

こうした流動は大都市の存在と，そこで生活する者が年々増加していることにその原因の大部をよせるのであるが，一方こうした都市における人間の生産活動が，フェイス・トウ・フェイスの三次産業的性格を基礎にして成立していることと同時に，ここでの生活環境というものが，時に山へ海へ移動せねば人間の本来的欲求を満してくれぬものであるため，さらに生活を発展させるということが，先述する空間革命という言のごとく，人間のもつ空間概念の発展ないしは変革によって成立するということがいえるからである。

人間はより多くの空間に関係し，そこで行動し，憩息したいと願うものであるということは，何の具体的データもなく肯定し得るのではなかろうか。

いずれにせよ，レジャーブーム，観光ブームの示すように，そして高速鉄道幹線や高速道路の建設が着々と進行し，自家用車が将来は2.0人に1台と予測され得るように，人間の流動量は急激に増加しつつある。一つには現在の大都市の存在，そこで生産活動することそのものが絶対であることのため，一つには外辺部へ逃げ出す以外新鮮な空気と太陽を求め得ぬというネガティブな面，と同時に，より広大な空間に接しその中を動きまわるということが人間の本来的欲求の一つであるというアクティブな面のため，そうした理由のため，人間の流動は現在急激な増加をみ，流動時代とも称すべき一つの新しい生活パターンの時代を構成しつつあると考えられる。

物資の流動についてはより顕著である。都市と農村という対比はむしろ工業と農業という二つの生産形式の異なる空間を示すばかりとなるであろうが，この生産品目のまったく異る地域の間をたがいに補うための物資流動は従来増加してきている。もう一つわれわれの使用あるいは消費する物資の種類の増加とにもかかわらず，旧来の品目が，やはり生産地を限定しつつ共存するということが，これら流通物資の量をさらに増大させるであろう。ある程度限られた国際港，空港へ到着し，そこから全国へ分散すべく流動する物資量も今後増加の傾向とみてよい。

これらの人・物の流動が人間の占有する新らしい空間形式を決定するであろうと考えられる。それは従来考えられてきたスタティクな意味での環境ということと本質的に異なるであろう。

特に日本という地形的に線型パターンをもつ国土において，流動がスムーズに行ない得るためには，きわめてプリミティブなところで国土構造というものが決らざるを得ないであろう。さらに，都市を一つのまとまった産業活動スペースとして成立させつつ人間が本来的に求める自然の環境を生活環境として構成し組みこんでいくためには，国土全域における自然環境整備が考えられねばなるまい。また，歴史の中で人間が生み出した多くの文化を蓄積し，生きた姿でわれわれの住む空間内に保存しようとするとき，都市の開発，整備は現在進行中の環状放射というホモジニアスなパターンでは適切であるといい難い。

われわれはいまの流動の時代を迎えるべく空間を整備しようとする。だがしかし，ここで原則として忘れてはならぬことは，既存大都市が相変らず生産活動の場として存在し続けること，そしてこれを成立させさらに発展させるために国土全域での保全対策が考えられねばならぬこと，さらに都市における文化の蓄積が可能となり得ること……。

それらを踏まえたうえで，現在われわれが直面する空間革命の計画，それを流動時代への新しい都市計画とでも称するならば，その内容は，国土計画から地区計画にまで至る一連の空間系列計画論という茫大なものとならざるを得ないであろう。現在においてそれらのすべてを予測し理論構成を完成することは不可能であるし，また全体の姿そのものにはあまり意味がない。先に述べたように現在における最も重要な課題は現在発生しつつある諸々の現象をいかに把握し認識するかということ，いいかえるならば，われわれは何に向って建設を進めねばならないかを明確にすることである。

流動時代とは，そうした認識のための第一の足がかりである。そして現在進められている流通センターはその時代への第一の具体的変革であろう。だがこの流通センターの内容は現在のところ適切なものであるとはいい難い。

都市域の流動システム全体の再編成のために位置づけられ，都市の生活環境という点からチェックされ，高度の文化蓄積を可能とすべく再検討を要するであろう。それらの点からすれば，後述するように，規模，メカニズムにおいて，むしろ流通コンビナート都市といった概念が生まれざるを得ない。

この作業は，日本の高い文化を集積させつつ新らしい時代の中で生き続けようとしている京都における都市計画と，これが東海道と地理的にクロスする京都南部，巨椋地域の開発計画を背景として考察を進めたものである。

Ⅱ 流動時代への解析

都市と国土の将来の計画の中で，「流通」がそのマスター・キーを握ると考えられたところで，視点を現代に据えてみる必要があるだろう。すなわち「流通の合理化」と昨今いわれている事柄は具体的にいかなることなのか，さらにそれらの解決を空間の中で計画するに当って何が現在問題とされるのか，流動時代の到来の現時点における解析を試みたい。

(1) 流通問題発生の背景

現在「流通とは何か」という問に対しては，いくつかの非常に抽象的な解答が用意され得るにせよ，「流通の合理化とは」という問に対して，充分な答を得ることは稀であろう。なぜなら，「流通」という一つの概念の守備範囲の広さとともに，流通の問題が，流通を支え，支えられているさまざまなジャンルから，しかもさまざまな段階で出されているものの総称であるため，〝群盲，象をなでる〟の事態が生じていると見られるからである。

そこで今日「流通問題」という言葉で表現される，一見たがいに無関係ないくつかの問題の背景をまず大まかに把んでみたい。

遠因的背景の一つとして，戦後の日本の産業政策が財の生産へ偏重したことがあげられる。すなわち商業に対する施策がおろそかにされたために，商業就労者の過度増加・企業の零細化およびそれらに伴なった商品流通の効率低下が野放しの状態で進行していたことである。もう一つは，従来の都市計画，特に道路や施設配置に関しての姿勢が現状打解的であったため，大きな変化あるいは急速な変化に対してそれを受け入れる柔軟性や積極的な可能性に乏しかったことがある。

そしてこれらの状況のもとに，近年流通に影響をおよぼしたいくつかの条件が生じてきたのである。

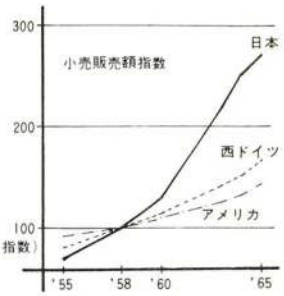


図2－1

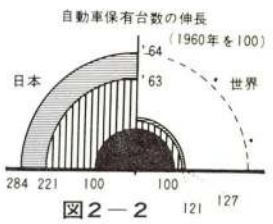


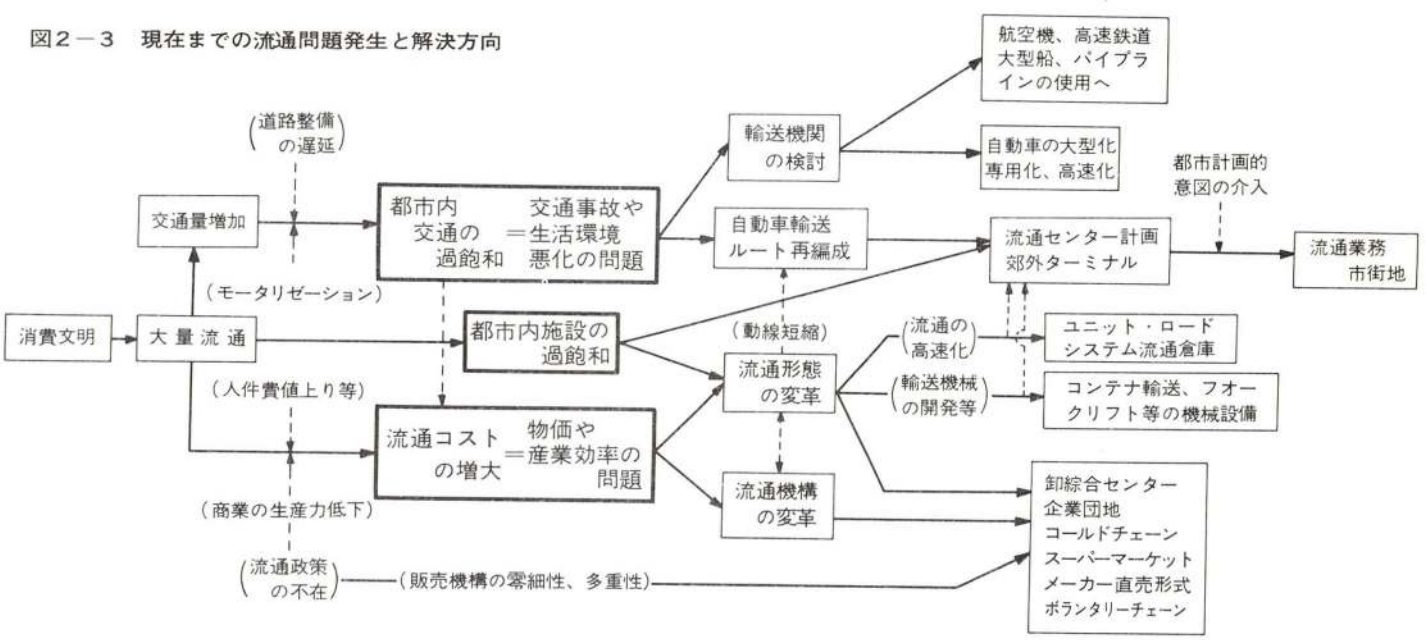
図2－2

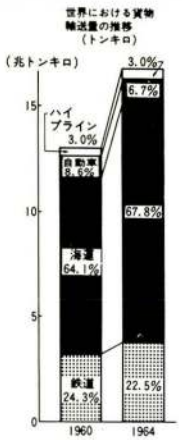
て，日本の都市の雑然たる稠密性や土地所得の困難から，零細経営の多い流通企業にとって拡張が不可能に近かったということがある。同時に著しいモータリゼーションがあって(図2－2)，道路の過飽和，特に都市内においてはそれが交通事故や生活環境の悪化という運転効率以上に人々の生活に密着した問題として表われたことなどもある。さらに自動車の機能分化，すなわち，専用化，高速化，大型自動車の普及も従来の道路体系においては，充分に機能を果たし得ていない。建設省による幹線自動車道路網の計画は道路の機能化という意味では，それら機能分化に応じた一策であるが，それとて将来の都市や国土の構造の予測と結びついたルートとして認識され，これからの計画と結びついて始めて効力を生ずる存在であろう。輸送機械の開発，流通物資の変化，たとえば食品における冷凍・加工食品のシェア増大などについても，流通機構自身がまだ充分に対応する体勢が整っていない。

この様に「流通問題」に関する種々の外的，内的要因が考えられるが，現在にいたるまでの問題発生から解決までを模式的に簡略化すると，およそ次の表の様に考えられるであろう。

「新しい酒は新しい皮袋に」入れねばならない。そして流通における新しい酒とは，むしろ酒の量の増加であり，酒の飲まれ方の変化を指すのである。そこでまずこれらの変り方を現在のデータの中で眺めてみたい。勿論現在表われたトレンドをそのまま延長して将来を予測することは危険であるし，特に変化や付加条件の多い現代文明の転回の中においては不可能なことでさえある。しかし一方，流通はすべての人間の生活に深く結びつき，また多くの人間の生活を支える術として今日も機能しなければならないのである。一つのビジョンに向って今在る現実をどう変えていくか，そこに払われる努力と時間をより有効なものにするために現在を解析する。

図2－3　現在までの流通問題発生と解決方向





注（1） 世界統計年鑑および Monthly Bullitin of Statistics, United Nationsに
（2） %は，輸送機関別シエア。

図2－4

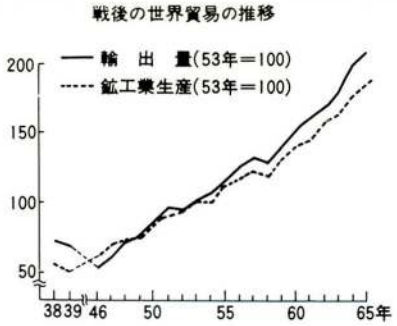


図2－5

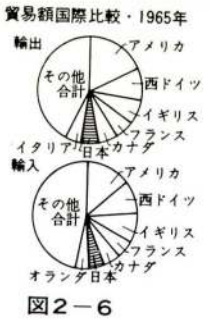


図2－6

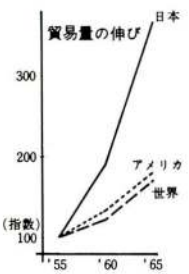


図2－7

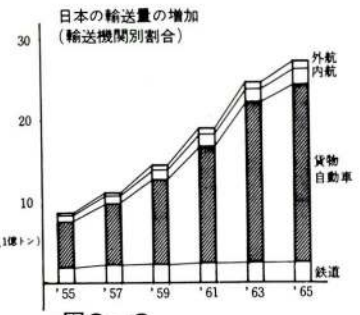


図2－8

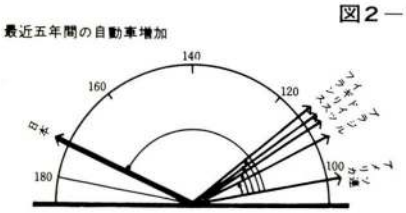


図2－9

数字は $\frac{'64年の自動車保有台数}{'60年の自動車保有台数} \times 100$

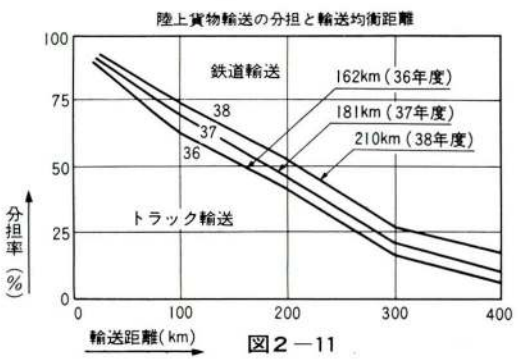


図2－11

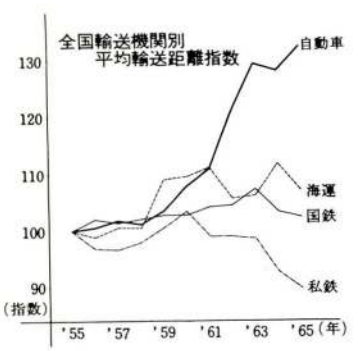


図2－10

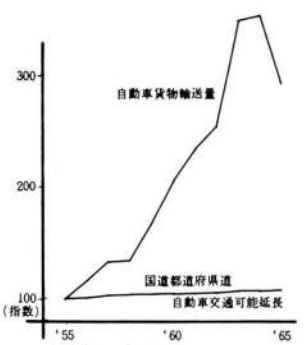
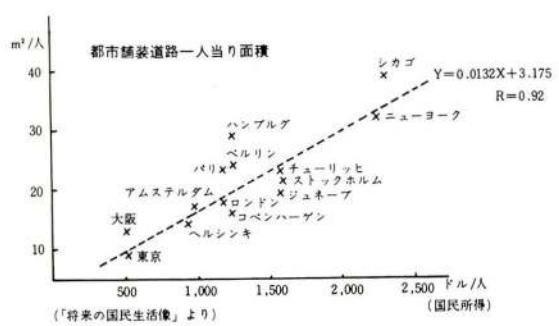


図2－12



(「将来の国民生活像」より)

図2－13

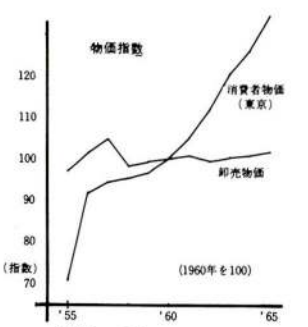


図2－15

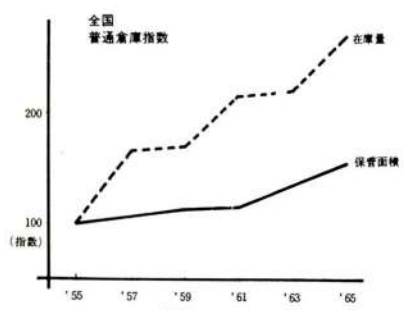


図2－14

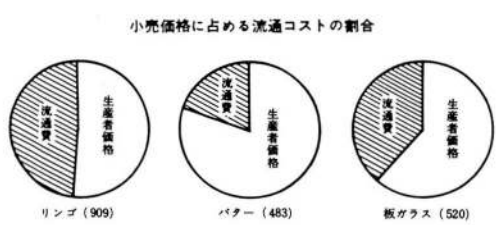


図2－16 （ ） 内は輸送距離：KM)

(注) 図表は建設，運輸白書等のデータをもとに作成した。

(2) 現在の流通の解析

現在の流通を把握するに，まず流動の時代の到来を輸送量において把えてみたい。（図2－4）は世界的な物動量の増加を示す。これは西欧諸国始めいわゆる先進諸国における生産競争，低開発諸国での工業化，また自由貿易や経済友好関係の進展などに負うところが多いとともに，是非はともかくアメリカ式消費文明が世界に広く浸透して来た結果であろう。この傾向は国際間の貿易輸送（図2－5）にも表われているが，この中で日本は輸出・入ともに第六位を占めており，アジアの先進国として世界の物動に関与するところが大きい(図2－6)。さらに日本の戦後の，というより明治維新以降の文明が一貫して物質文明に終始しているといわれるごとく，現在の日本文明が文明論的立場からは歪んだ一面を持つことは指適されなければならないにせよ，今後も物質流動の活化が予想される世界の中で，日本がそれにも増した過速度を伴って流動の時代を迎えようとしていることは予想に難くない(図2－7)。事実近年の国内物資輸送量は各年の経済景気に多少左右されることはあっても，着実に増加を示している(図2－8)。同時にこの図表で流通問題発生の直接的原因の一つの系譜を形造る自動車輸送の増加という特徴が顕著である。すなわち輸送機関に関して，中世の船舶の時代，昭和までの鉄道のネットワークによる時代に続いて，近年の自動車主体の時代への移行という現象が明かなのである。日本にあって自動車が輸送機関として適しているのか，あるいは何故急激な増大を示したかについての議論はここでは避けるにしても，世界の中でも類をみないこの急増ぶりが計画上の大きなFactorとなることは事実である(図2－9)。量的増大とともに，自動車輸送の質的変化，例えば15ｔ積トラックの普及，専用化，長距離化(図2－10)，高速化といったこと，およびそれに関連して鉄道との分担領域の拡大(図2－11)，海陸を結ぶユニットロードシステムの普及などの現象をも正しく踏まえておく必要があるだろう。

一方，それに対する現在の道路整備の進行は遅々たるものであり(図2－12)，舗装率も各国に比べてまだまだ低い(図2－13)。未来における生活や社会の構造はあるいは自動車万能ではないかも知れないし，現在でも極度に自動車の介入を許してしまった大都市については，むしろ自動車からの脱皮，大量輸送機関への転換を企っている所も少なくない。がいずれにせよ「自動車をいかに具合よく走らすか」は現在すべての都市のかかえる最大課題であり，これからの流通を都市さらに国土の構造の中で把えていかなければ，本来的な解決の得られない問題ではある。

また流動量の増加に対する流通施設の整備も，はなはだ遅れているといえる。卸綜合センターやコールドチェーン，ボランタリチェーンなどは販売機構の合理化や機能分離によるある解決方向ではあるにせよ，施設の絶対量においてその整備が追いつかないのが現況である(図２－14)。そしてこれらの整備が行なわれる場合，それはフィジカルな意味において特に，輸送道路や鉄道などと一体化された計画のもとに行なわれるべきことは，いまさら言及するにおよばないことであろう。

直接的原因のもう一つの系譜は，流通コストの増加ということに代表される。すなわち(図２－15)においてほぼ横ばいの卸売物価に対し，消費者物価の上昇の激しさは，その間に付加される中間マージンたる流通コストの増大を示しているのである。たとえば（図２－16）はポピュラーな消費財に占める流通経費の割合であるが，我我の日常の食卓にのぼる魚や野菜についてはさらに多くの流通コストが含まれているといわれる。これは企業の零細性，販売機構の多重形態(図２－17)が新しい変化に対応しきれなくなったためであるが，ここで留意すべきは，これらの問題はいま行なわれている様な，その次元的な解決では処しきれないものであり，販売機構だけのわくから出て広く流通全体の中で輸送や情報管理などと結びつけて考え，そこからのフィードバックを通じて解決を方向づけていかなくてはならないということである。

流通の機能は加工，品質保持，保管，輸送，検査，情報，金融などに分けて考えられるが，そのおのおのの機能，またそれに伴なう機構上の問題は一度流通の全体の機能系の中にもち返り検討される必要がある。すなわち，現在出されている多くの流通上の問題も流通全体の中で解決されねばならぬという意味において，ただ一つの全体的な解決ビジョンを求めているといえるであろう。

(3) 問題の解決に当って

流通問題の解決は空間計画の上で考えられねばならない。それは現在でている最もシビアな問題が空間の中における量の取り扱いや

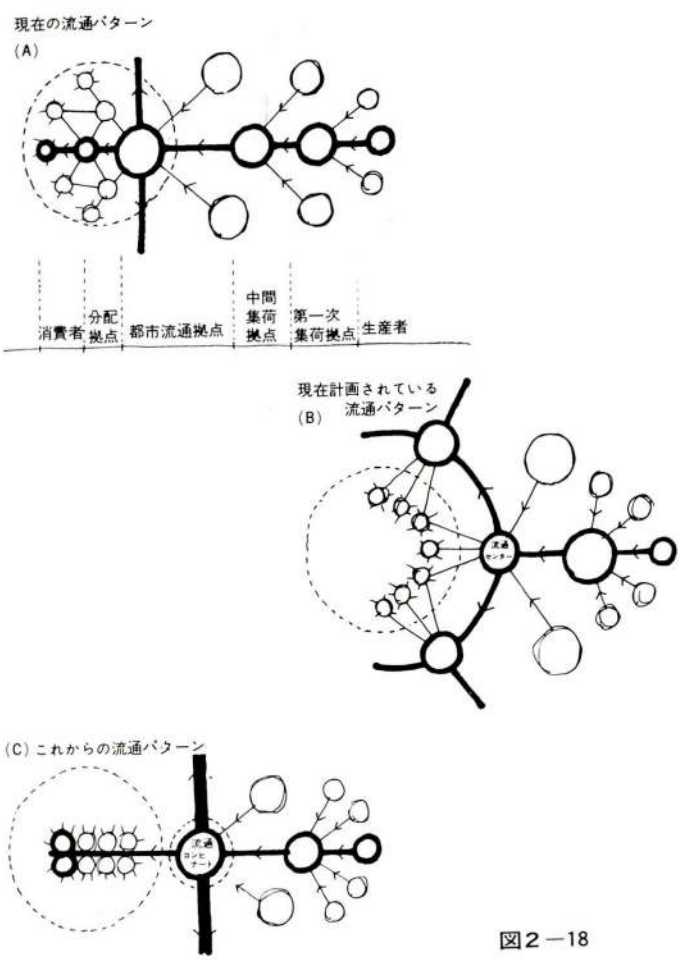


図２－18

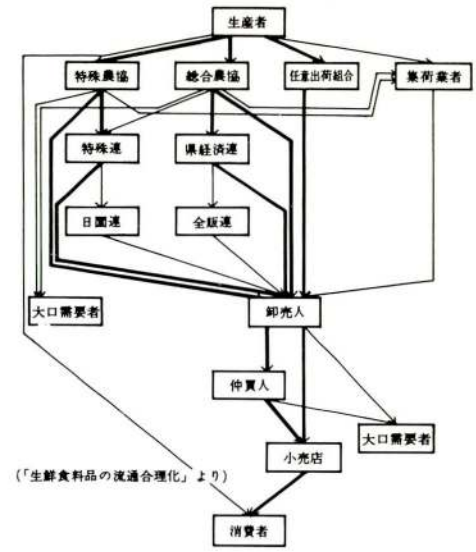


図２－17　青果物の流通パターン図

配置の問題であるだけでなく，本来流通とは「物を流れさせる事」という当りまえの理由による。昨今の流通の合理化が，販売機構の問題，あるいは産業構造のみの問題に置きかえられていることに対しては反省する必要があるだろう。

そこで空間の中で考えていくについて，生活領域が拡大し広域流通が可能になった現在，また空間の高密度利用が要求される中で，流通も国土構造からその流路と拠点について考えられねばならない。特に拠点については，従来非常に分散的に非能率的に行なわれてきた流通機能を集約化，高能率化する場として新しい内容を伴なって与えられねばならないだろう。

史的に見ると，流通に対応する施設といえば，古来「市」の概念にしぼられ，その小型である「みせ」と合わせて持続してき，初期にあっては原始的な形での明解な流通のメカニズムを形成していた。ところがその後，時々の社会的背景のもとに「市」はいくつかの機能を併せ持つようになったのである。それは古代においてはコミュニティ・センターとして，祭の場，処刑の場，交歓の場となったり，中世におけるごとく下層民の街区形成の核となったりしたが，次第に「市」のもつ機能が複雑となり，同時に機能分理ならぬ機構分散が併行したため，今日みる様な散慢な流通体系が定着してしまっていたのである。

すなわち，都市機能と呼ばれるものが融合し合える時代から，各機能のスケールにおいてもその内容の拡がりについてもおのおのが明確にされ，かつたがいに有機的に作用するように要求される時代へ変化するにつれて，当然対応する空間についてもそれに応じた空間の利用，あるいは新しい空間構成のシステムが求められているのである。その意味において，出遅れた感のある流通拠点（勿論拠点を結ぶ流路についても一体として）について早急にそこで果たされる機能と内容についての新しいビジョンが要求されている。大都市において今はやりの流通センター計画は，それに呼応した一つの動きとして把えることができるが，流動時代を迎えるに当っての空間のスケールの上でも，また国土構造のインフラとしての認識の上でもまだまだ不充分である。特に前に記したごとき流通の諸問題について，側面的なあるいはあまりに現実的な仮設が多いという不満がある。

現在計画の趨勢はパターン化すると（図２－18－Ｂ）の様なものとなるだろう。都市のポテンシャルの分散核としての役割を付加され，放射環状型の都市計画のイニシャティブをとっている現在の流通センター計画は，第一章に述べた意味からも再検討されねばならない。

そこでわれわれは一つの流通パターン(C)を準備して考えを進めていきたい。

Ⅲ　流動時代への都市計画

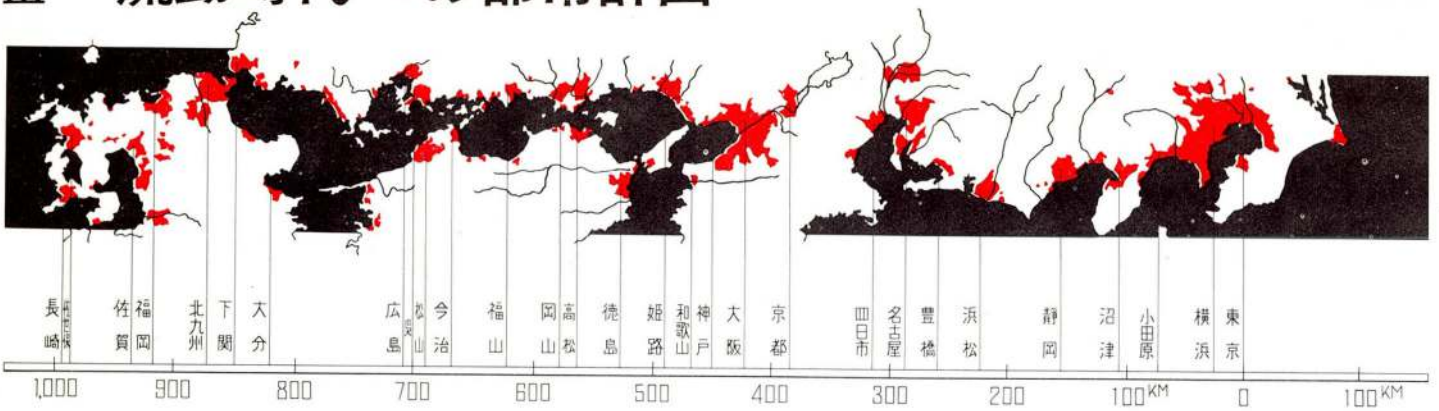


図３－１　太平洋海岸沿図

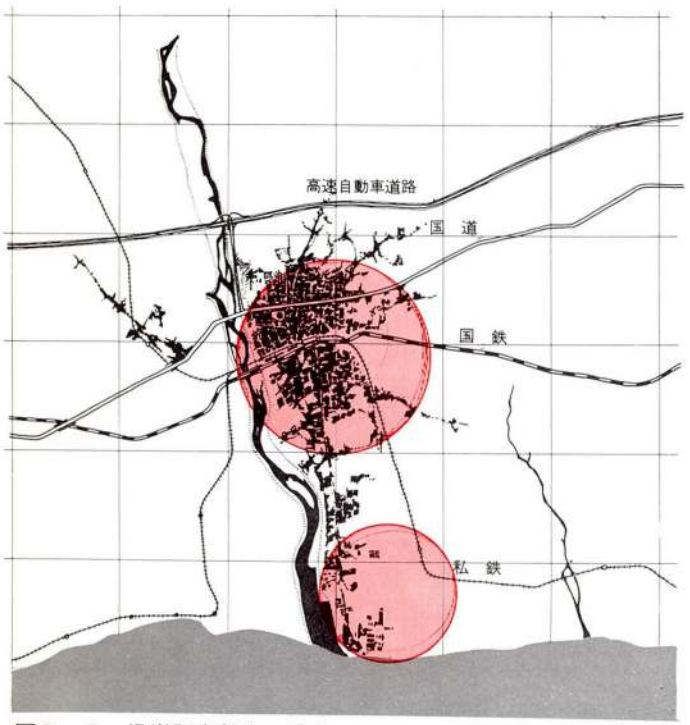


図３－２　沿岸既存都市の構成

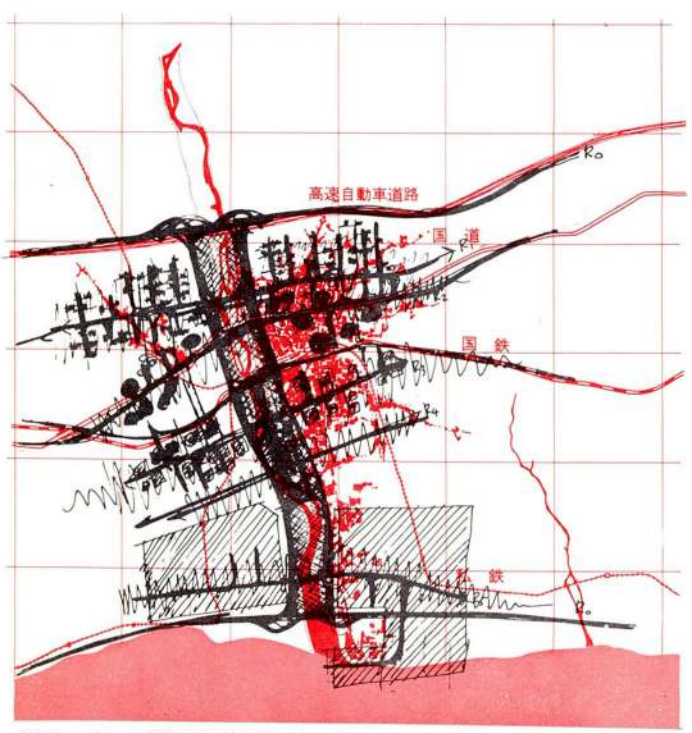


図３－３　沿岸都市計画パターン

国土における流動のネットワークは歴史的にみて大きく変遷してきた。明治以前の国土流動は街道による陸路そして国土の周囲をとりまく海路によって構成されていた。だが陸路はいくつかの関所によって流動の内容がチェックし得た程度のきわめて粗なものでありこの時代の主役はむしろ菱垣，樽などの回船であったろう。明治以来鉄道の発展は全国に網状のルートをしき一応あらゆる地域に鉄道でサービスする形態が整えられた。しかしホモジニアスなこの鉄道網もその後次第に東海道，山陽を幹線に，その他を地方の枝線と変容させざるを得なかった。居住に適した土地がこの地域に集中すること，外国貿易が欧米を中心に発展したこともあって今や東海道メガロポリスという都市地域を現出し，この線内のあらゆる地点にサービスし得る自動車が鉄道に代って主役となりだしたことは前項に記すとうりである。

東海道メガロポリスとも国土幹線とも呼ばれるこの地域は，日本における古くからの交通要路であり沿道の都市は，主として宿場町として栄えてきたものであった。従ってマクロにみればこの地域全体は一種のリニヤパターンでできており，街道を現代の高速道路，高速鉄道におきかえることによって巨大な都市群，メガロポリスを構成するものと考えられたのである。

しかしながら，これらの都市空間そのものにあっては，必ずしもリニヤパターン構成というわけではない。城下町的構成をもって発展してきた場合には一種の放射状パターンであったし，その後，臨海工業あるいは内陸工業が立地し工業都市となった場合においても異ったパターンをとらざるを得ない。さらに現在，これらの都市群中の一つ一つがもつ都市計画道路などの基本方針はいわば環状放射パターンである。ただその中で都市の発展を常に規制し方向づけてきた条件として，河川と海があげられるのではなかろうか。高速道路，高速鉄道などが拡張されメガロポリスと称する一体的空間にま

図３－４

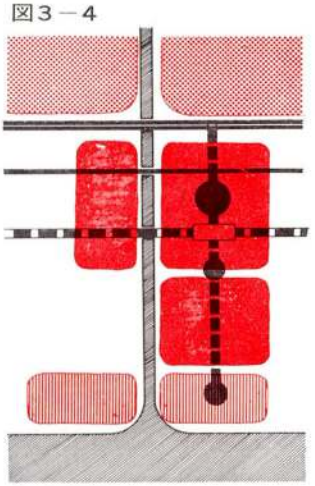
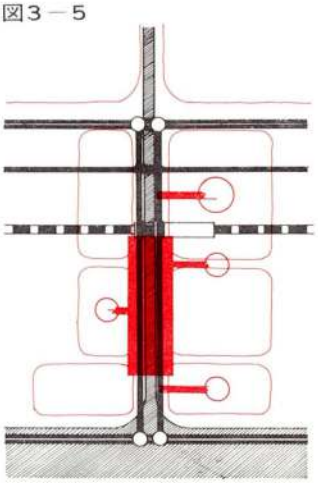


図３－５



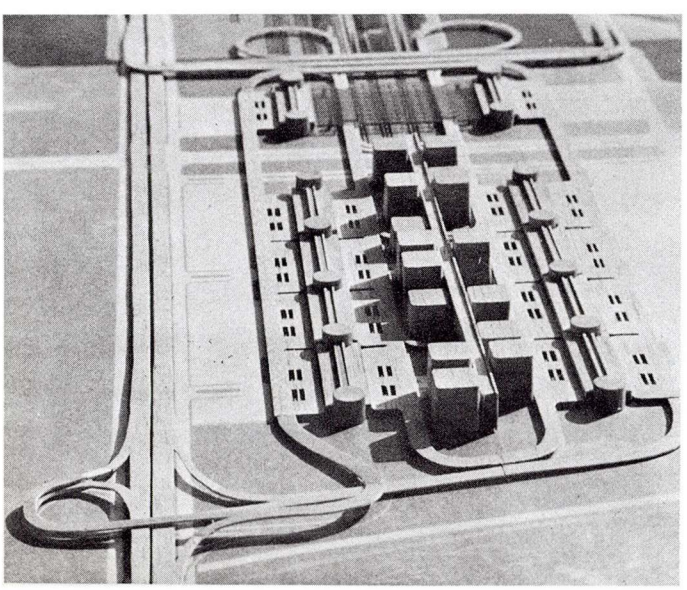
で都市が成長していこうとするとき，現在の都市のもつ特色をいかに把握するかということは極めて重要な問題である。前述するように，人，物の動きは将来，急速に増大するであろう。この時代を想定するならば，各都市毎に放射環状型の道路パターンをとることは決して望ましいこととはいえない。

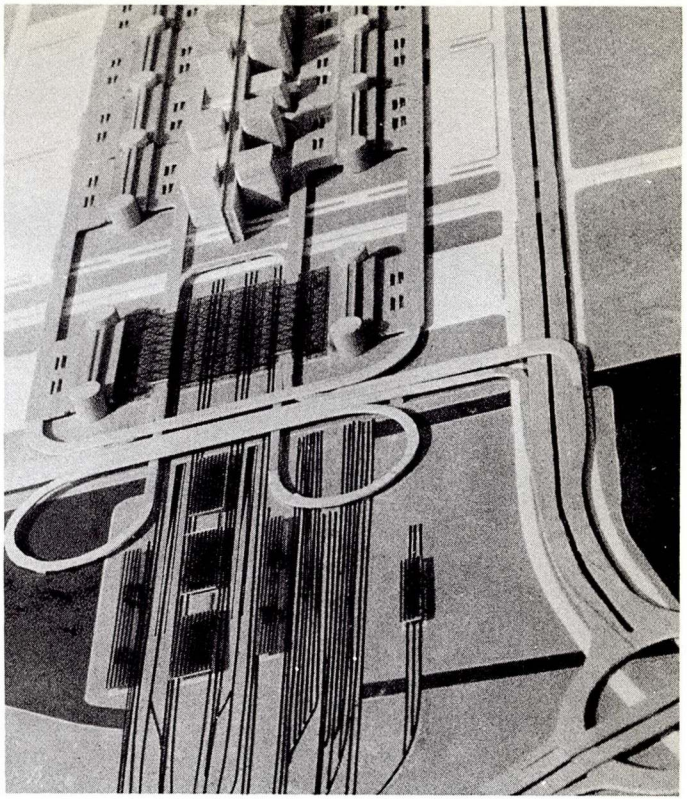
むしろリニヤパターンへ，という大前提が成立する。この場合，既存の都市をどう改造していくかということが問題であろう。日本のそれらの都市には，市民センター，繁華街，住宅地が，いわば用途地域的にグループされてあり，これとリニヤパターンとは本来的に無縁である。リニヤパターンの一つの結節点として，さらには，古い保存すべき文化の街と，国土空間の結びとして，変転の激しい文明の空間的受入れ場所として都市軸，リニヤパターンと直交する交通とビジネスの幹線空間が提案されたのはこうした理由による。第Ⅱ章で述べたように流動時代のフィジカルな形態は自動車であるといってよい。自動車を用いてドア・ツウ・ドアで移動する人，物の関係はさらにスピーディにという要件によってより一層その特質を明らかにしつつある。

従来，自動車交通，特に都市内におけるそれを明解に停滞なく進行させるためにあらゆる手段が考えられてきた。だがしかし，本来的に都市とは人間が極めて高密に集まり，活発に動こうとする空間であってみれば，自動車交通の停滞なき空間密度をもつ場所は，もはや人間の空間ではなくなる。メガロポリスという広がりは実は自動車の都市として出現したものである。こうした傾向の是非はさておき，現在そうした自動車による行動を基本とする都市地域の建設が進行しているとみえる一方，それをより意図的に行なっていく都市計画が，まだ本来的な意味での自動車時代のものとなっていない点が指摘し得るであろう。ここにいくつかの問題がある。

まず，現在メガロポリスという都市地域の幹線として考えられているものは，いうまでもなく高速道路である。ところが一方既存の単位都市では，従来ヒューマンな都市構成をもっており，単に高速道路とインターチェンジで連結しても，都市そのものにおいては，すでに大スケールの高速道路が入りこむ余地を残していない。わずかに残されている空間，河川と海をこれに使えないだろうか。思い返せば，主なる都市中央には必ず一，二の河川が海へと横切っている。海岸および海上を走る高速道路と，河川上に築造される都市軸という組み合わせが，現在の土地所有からみても，また古来その都市が発展してきた歴史，そして内陸他地域との連結という点からもリアリティがあると考え得よう。

水質，水量，水利用システム，河川改修，河原の利用それに運河，港等，水に関する当面する問題はきわめて多い。が一方，従来，河川があまり手をふれたくない存在として未利用であるがために，かえってこうした多くの問題をとめていることもまた事実である。





都市の中央という位置を占め，国土幹線となる横方向の高速道路と直交し，しかも機能的にも運輸交通の有利な条件をもつ河川の利用が，今後の都市計画の一つのポイントとなるであろう。

都市軸についての提案は従来多いが，この機能は単にビジネス，文化の中心軸として把握されるべきでない。現在の最も都市軸に要求される機能は流通である。現在計画中の環状放射都市幹線の交点に副都心として流通センターをもうけようとする計画は，従来のトラック業者の営業空間を整理・拡大することにはなろうが，決して都市を流動の時代に備え自動車の都市へ生れかわらせることはないであろう。より短距離で，より均等に都市全域にサービスする形態が望ましい。この意味から都市軸とはビジネス，文化施設に限らず，人，物，すべての交換駅，いわばディストリビューターとでも称すべきものとなるべきであろう。それらは相互に緊結し，一体となってコンビナートを形成する必要がある。ベルトコンベアに乗って物は都市の入口から加工場へ，市場へ，そしてトラックターミナルへと流れてゆくような，計画の概念が現在特に必要である。それも，都市軸という形式をとって都市の中央で行なわれることが重要である。

このような国土幹線，都市軸といったものによって助けられながらメガロポリスの内容，密度はさらにさらに高まるであろう。国土の80％がこの地域に住むことすら実現するであろう。がしかし，それらの拡大，整備が進展するためには現在の用途地域制というスタティクな計画技法にては功がうすい。基本パターンであるリニヤな形とどう関連し，車に乗って家を出て他地域へ至るプロセスが，きわめて快適でスムーズであるためには，新たなる都市計画技法が必要である。

用途線別規制とでもいう形式，すなわち，工業線，準工業線，住宅線，商業線etcといった形式でそのおのおのの幹線と枝線で構成していくような手法，容易に延長し，立地条件が変らず，何よりも隣接地域と明快に連結することのために，ミクロな意味でのリニヤパターンが検討されねばならないであろう。

現在進行中の計画は，スタティクな意味での都市環境をよくし美くしくするが，今や都市の機能は他地域との一体化が進みそして自動車の空間へと移行しつつある。すなわち，流動の時代のフィジカルな側面において，都市計画の基本手法は大いに検討を要するところにきているといえるであろう。

Ⅳ. 流通コンビナートの計画

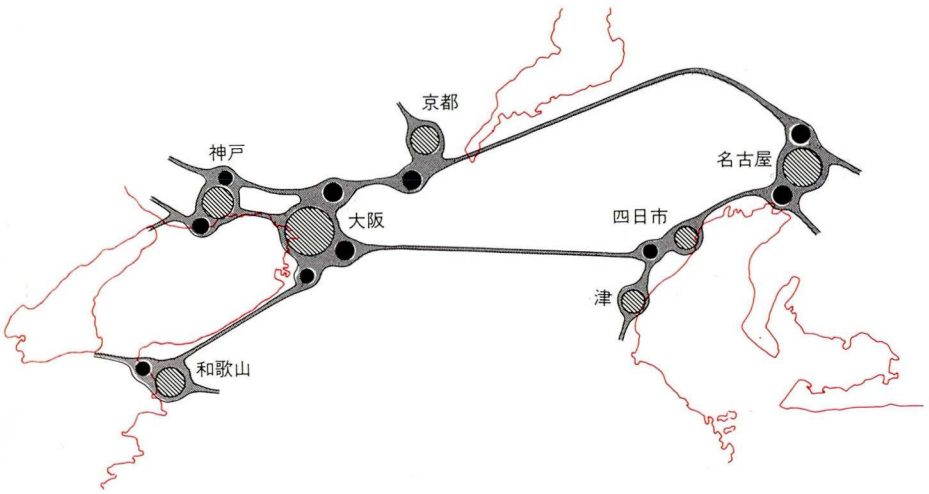
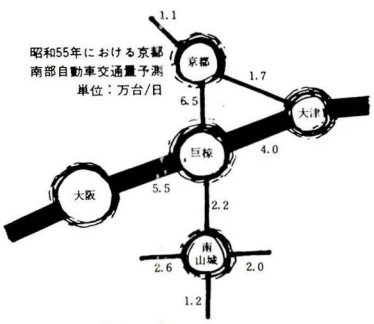


図4－1　近畿主要部の流動パターン

図4－2　昭和55年における京都南部自動車交通量予測単位 万台/日



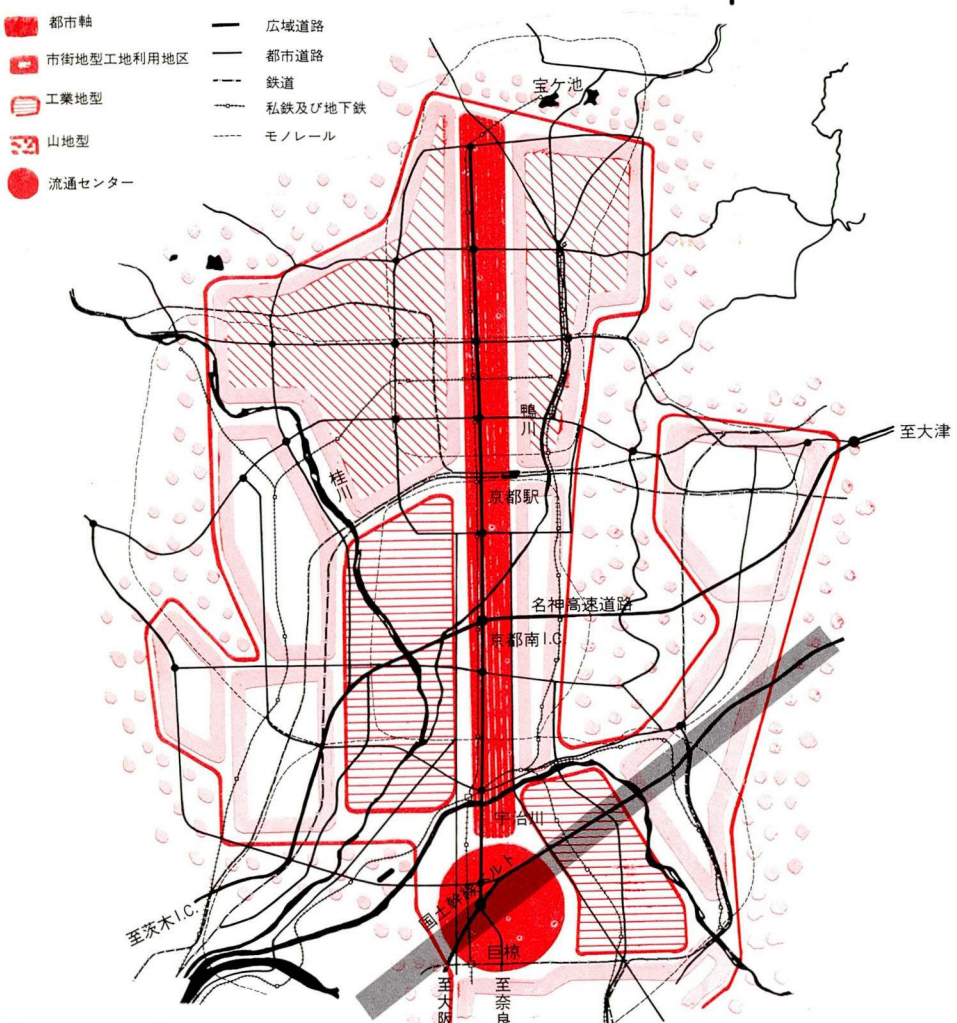


図4－3　京都の基本構想

京都駅より南へ7km，宇治川の川向うに広大な水田地区がある。区画整理然とした農道と水路が走りその広がりは約 3,000ha に及ぶ。この地域は通称巨椋（おぐら）と呼ばれており，昭和10年より干拓が進み昭和16年完成した巨椋干拓の地域である。

山城の都，京都の南面における天然の防塞であった宇治川はここ巨椋で大きく腕曲し，木津川，桂川と合流として淀川となる。現在あるこの三河川合流の姿は決して古来のものではなく，河川の多くがそうであるように氾濫によって流路が変り，築堤によって修正され今日の姿を造ったものであった。特に流路の複雑な巨椋のあたりは，旧来大規模な遊水池の役目を果す沼地であったとみてよい。この利用のため，古くは秀吉の宇治川付替工事があり，その後ぼつぼつ改修，埋立てを続け明治に至り，富国強兵の策と相まって昭和10～16年の大事業となったのである。現在は広大な水田地帯であり，沼の面影はわずかここを縦横にはしる用水路にみるのみであろう。

沼から一転して水田となったこの地ではあったが，時代はこの地をさらに次の変化へと導きつつある。

母都市である京都市の工業生産額 4,380億（昭和40年）と称されているが，推計によれば，人口集中，企業合理化などの方策により，55年には現在の工場敷地面積の倍の量が必要とみこまれている。これらの工場敷地は単に面積的な増加ではなく，古い京都の市街の中で運般，貯蔵そして生産のすべての面で，これ以上の発展を期し難くなった京都の古い産業の近代化という課題と結びついている。一方，より広域的な場においても，従来京都市内を貫いていた国道一号線が，バイパス，さらに計画中のバイパスも含めて京都市街から約10km南の地，すなわち巨椋付近に道路交通の軸が移りつつある。いうまでもなく東海道も本線，新幹線，名神ハイウェイ，他のバイパスなどの全体をいわるゆ国土幹線としてみるのであるが，これらの新らしい開発は主として面積的にゆとりのある南部，古くは河川，沼地であった巨椋地区方面の開発となって現われてきた。

古い都市に現代の新らしい科学技術をアプライすることは，文化の立場からきわめて複雑な問題を含んでいる。今後こうした文化を保存しつつも，新しい技術の導入を継続して行なわんとするならば,正に人,物の流動の時代を迎えるにあたって，旧来のヒューマンなスタティクな都市構造を基本的に変革してゆく必要に迫られているといえよう。京大・西山研究室では，昭和39年 ※

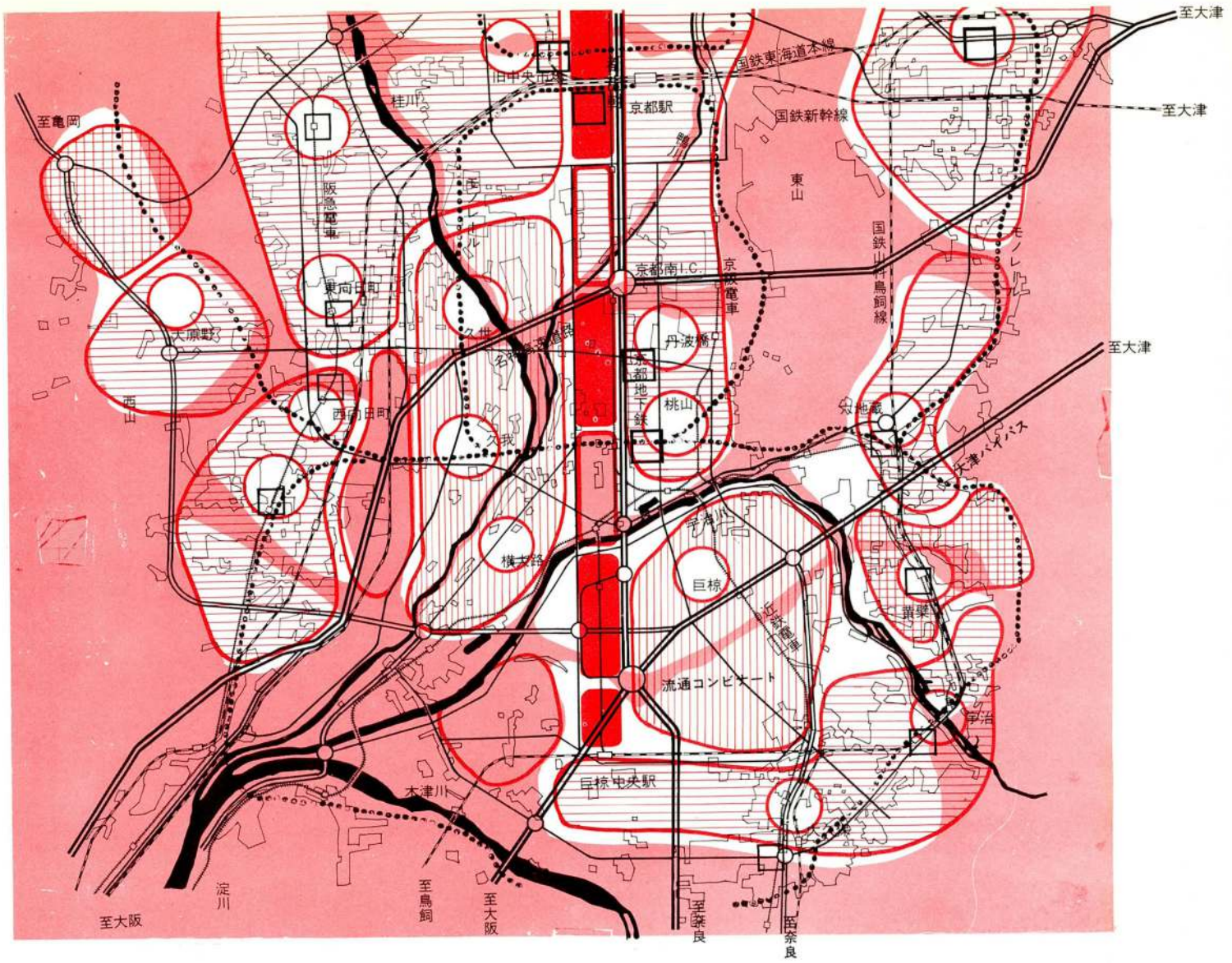


図4－4　京都南部長期計画

京都計画を発表したが，この構想は京都市の長期計画に組みこまれ都市軸の具体的計画が進まんとしている。

しかし，先述するように都市軸の基本は流通機能である。京都市の計画としてみれば，南部新開発，北部保存といったパターンとなるが，最も重要なことは，南部工業開発が旧来通りのスタティクなものをつくり出すのでなく，この地域の一つのメカニズム，開発と変化が継続し得るシステムを導入することであろう。

近畿圏においても最近，そのようなところから発想された計画，流通センターの計画がある。神戸港の流通センター，大阪の布施，堺東，荒本，万国博跡地（千里）そして亀山，名古屋においても計画がある。それらは一つには環状放射の都市基本パターンにおける環状路と放射路の交点，一つは広域的にみた都市の入口として計画されているが，新しい都市軸計画，メガロポリスへの移行，そして新らしい流動の時代を考えると，都市軸の一部として，そして都市の入口として把握されねばならないであろう。

都市の入口として，都市軸の一部として京都南，巨椋地区の開発を考えるとき，次の諸点が問題となる。

第一は交通である。旧の国土幹線は現在この地へ移行しつつあることは前述の通りであるが，将来のこの地における交通量は試算によれば，京都方向6.5万台/日，大阪方向5,5万台/日，奈良，和歌山方向2.2万台/日，滋賀方向4.0万台/日におよぶとみられる。現在の常識においては，警笛と走塵の巷と化し，莫大な道路が準備されねばならない京都南であるが，そこには新らしく道路交通をさばく新しいメカニズムが要求されると同時に，それを利用すべき拠点が設置される可能性に満ちているとも言える。よほど大きな道路工学上の開発でもない限り，京都のみならず近畿全体の東に対する窓口としても，巨椋は自動車運行に対し地形的に重要な位置を占めている。そ



図4－5　巨椋流通コンビナート計画

こで，巨椋を入口として認識した時，都市方向と国土方向の交通をいかに結ぶか，またそこでの都市と国土の受け渡しをいかに行なうか，形の上での追求が必要となるだろう。

第二には，現在の京都近郊において珍しい位の広大な水田を開発するについて，農業対策をいかに考えていくか，また開発した場合そこに残される多くの水路と旧来の遊水池としての役割をどうするかが問題となろう。農地としては，木津川流域へと続いて拡がる南山域一帯を，一大近郊農地として残すべきとの意見も確かに一方には理のある意見として存在しうるであろう。

しかし，マクロな土地利用の立場に立つ時，京都という歴史的文化の高度に蓄積された市街地の新規開発がすでに一つの限界に達している現在，交通の要衝となると予想される巨椋一帯を一元的土地利用形態たる農地として残しておくべき重大な理由は当らない。むしろ近郊農地としてはさらに南下した奈良との境界地や丹後地方などが考えられるべきであろう。そして巨椋付近に農業を考える場合にも，もっと集約化された形での農業経営への道を切り開くべきである。

また，水に関して広大な流域面積（約 4,800ha）を有する巨椋の遊水機能を一挙に取り払うことが困難であるとすれば，ここに残される多くの排水路が何らかの形で有効に新しい土地利用の計画とデザインの中に組み込まれねばならない。マクロな視野から巨椋が交通の結節点として認識されたと同様，広域の中で巨椋に与えられる遊水池としての役割は，一つのノルマとして有機的に取り入れる態度で臨むべきものである。たとえば緑地系統との統合によるヒューマンな空間としての使用，景観上の調整帯，あるいは輸送路としての利用も可能であろう。昭和28年の13号台風により巨椋はほぼ全域が水没した歴史を持つが，以来河川築提にも力が注がれており，再び冠水する危険はほぼ無くなったといわれる。大阪，東京周辺の在

来の流通センター計画の多くが従来の低湿地に計画されているような，何かジクジクしたイメージでではなく，爽かに流れる水，豊かにたまった水面として巨椋の水利用のイメージを考うることが可能であろう。

第三には，京都の産業の動向をいかに結びつけ得るかという問題である。15年先には，かなりの工場敷地面積がさらに必要とされるという予測のもとに，京都府などで，工場適地の指定が広くなされているが，南部周辺区域にもかなりの色が塗られており，久我羽束師にあっては，すでに計画が作成されている。京都市の長期計画でも南部開発の線に従って，南部に多く計画される工業地域を，相互に結びつけサービスする道路として京都外環状，外々環状道路などが考えられている。先の理由から，巨椋を物動の大拠点として把える場合，それらのサービス道路をこの地に直結させる考慮が要求される。

特に，加工製造業始め梱包・貯蔵などの流通に対して機能的にも空間的にもダイレクトなコネクションが必要とされる産業分野の進出や新しい業種の登場が認められるべきである。

自給自足の社会の中で成立した時代から，第二次産業の出現による技術的分業の結果，特産的な物資を除いて多くが地区間でイーチ，アザーに流通が成立した時代を経て，第三次的な一つの産業へと独立した現代，逆に第一次，第二次産業との絆を重視する必要がある。

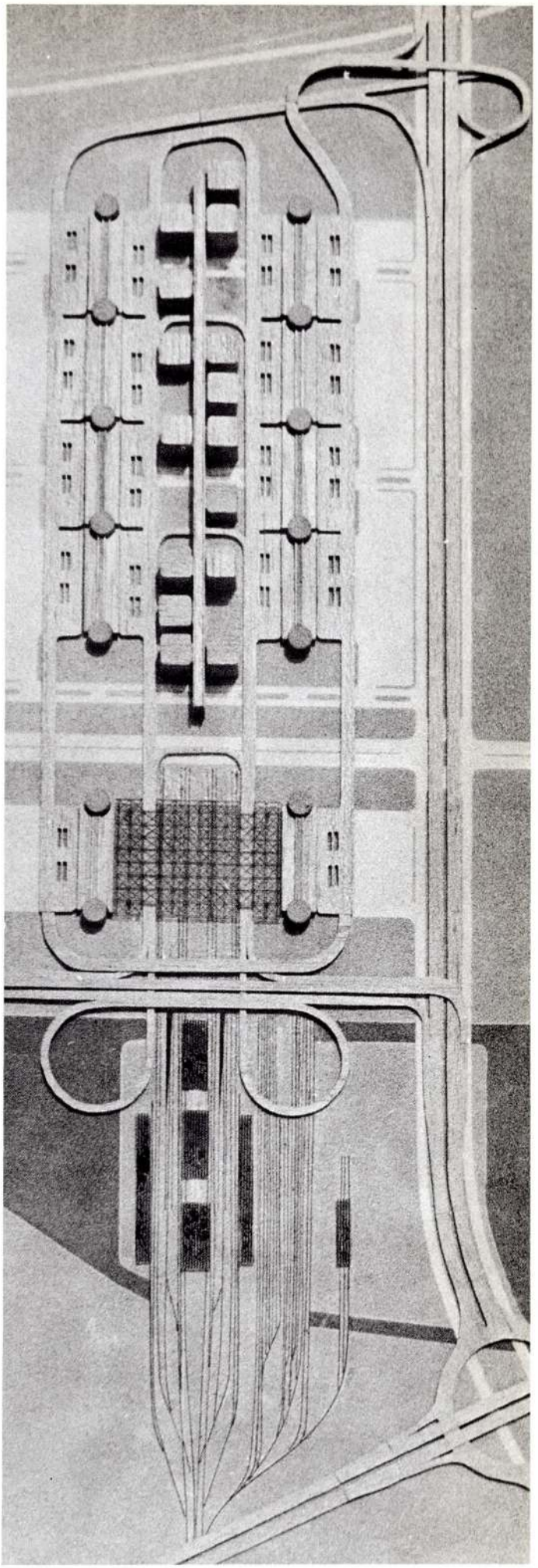
すなわち流動時代の都市計画においては，マクロな意味での国土利用からの流通投与点の位置づけと空間的役割が与えられると同時に，個々の都市における土地利用を相互に有機的に働かしめるごとき物動の管理中枢として，流通拠点は国土と都市，あるいは都市内どうしをコントロールするように介在させられねばならないということであろう。

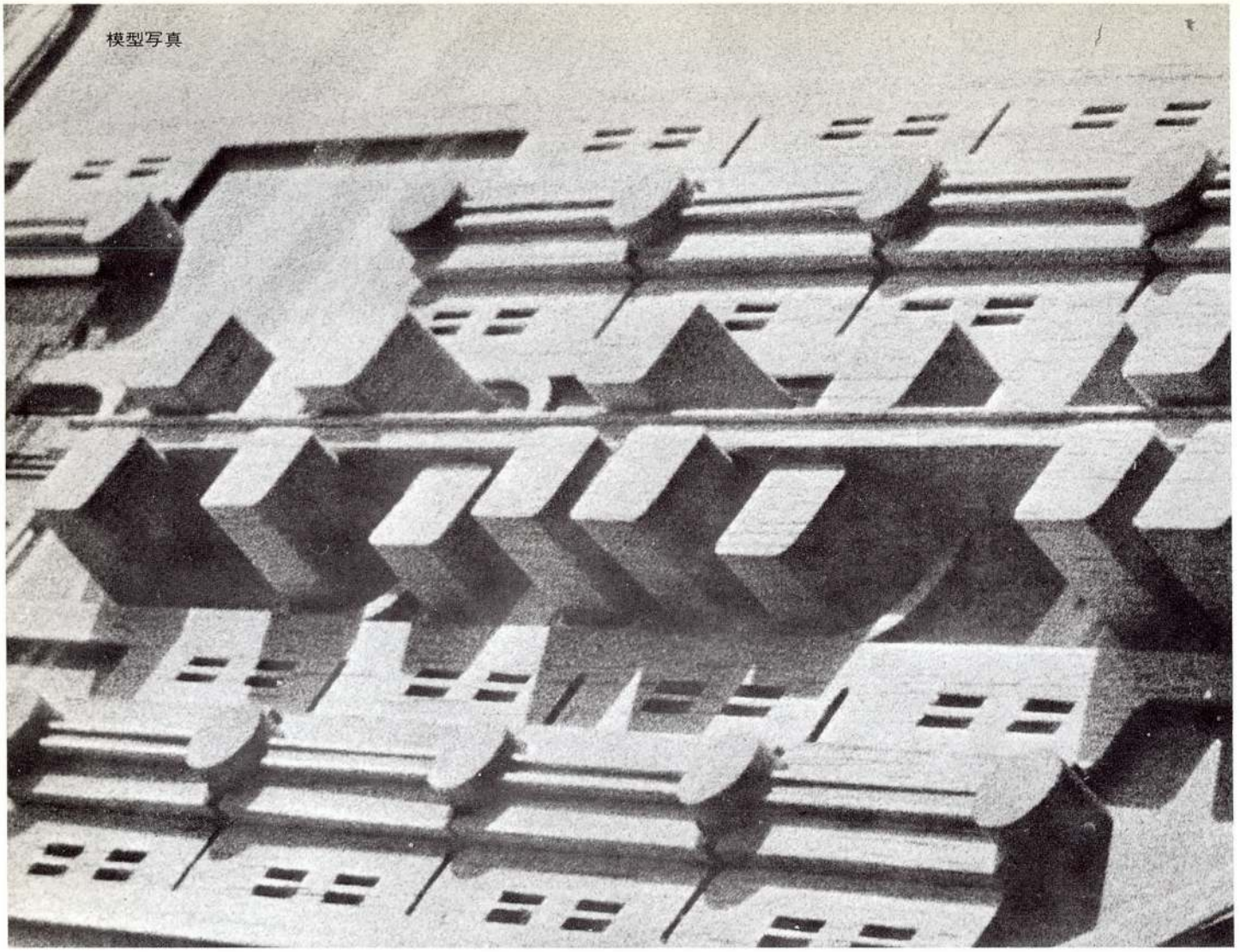
従って，巨椋に流通コンビナートを計画するに際して，その内容として，トラックターミナル（40ha）鉄道貨物駅（33ha），倉庫（26ha），中央卸売市場（35km），卸売り業務地区（30ha）などのいわゆる流通関連施設の他に関連工業部門，従業員用住居，自動車サービスのほか，これからの流通を支配する情報処理のため。機関のためのスペイスなどが用意されねばならないであろう。但し（ ）内は京都市などの統計から，将来，55年位をとりあえずの目標として，周辺地域へのサービスなども考慮して推計した必需面積である。また同時，に巨椋を明快な京都と国土とのファンクショナル・ジョイントとして存続させるためには，流通の将来における変化，および都市構造自体のダイナミズムに対応し得る，空間的余裕と計画上のフレキシビリティが必要である。その意味において 3,000haという広がりは決して広すぎるものではないかもしれないし，いわんや単なる都市のポテンシャル分散核として無撰択に都市内の市街地を誘引すべきものではない。

コントラスト開発とは，新旧の文明のコントラスト，自然と人為的空間のコントラスト，あるいは二次元的な土地利用のコントラストのみではなく，都市機能・空間機能のコントラストある開発をも意味するからである。

人間の日常の生活における行動圏の拡大，週とか期間をサイクルとするレジャーの増加，第二住宅の普及，さらに物資のような起終点をフィットされた形での流動量の増加，流動時代に向って空間はますます熱を帯びてくる。先述のごとく，そこでは従来のスタティックな空間利用はもはや成立し得ない。「流動」を空間の次元に受けとめた時，それを可能ならしめるもの，そういったものとして流通コンビナートを考える。

都市毎の条件と，時々の条件により，内部のフォーメーションは当然いくつかのバリエーションを示すであろう。巨椋において現在および予測しうる限りにおいての将来の条件を考えて，一つのプロジェクトを描いてみた。





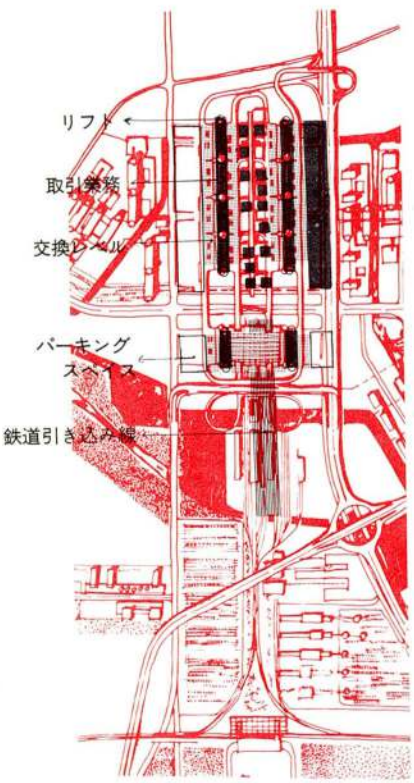


図4－6　土地利用



図4－7　交通

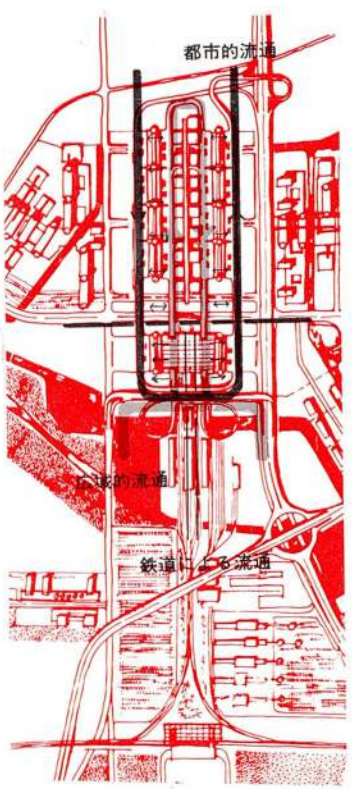


図4－8　成長

Vまとめ

巨椋は古都京都の一方に，今後開発可能な土地として空いている唯一の平地である。ここより南下すれば，奈良，西方大阪，東は山科を経て東京方面へ向い北は京都である。戦国の世，筒井筒が戦の利にさとく二軍を天秤にかけた洞ケ峠はこの巨椋の南丘陵にあたる。交通の便はきわめて良いが，ただ土地が低湿で居住に適しなかったことが，これまでこの地を沼たり湿地のまま来たらしめた由来であったろう。

ところが現代において，都市がその容量以上の人間とその文化を受け入れようとしながらも，遂に空間的に限界となり秩序を整え，再編成するにはきわめて大掛りな建設以外にないというとき，こうした従来見捨られてきた土地は一躍脚光をあびるに至ったのである。

第Ⅲ章で述べるように日本の都市，それも東海，山陽沿いのほとんどの都市は海に面し，同時に河川にまたがっている。それはいずれにせよそれらの都市が農業に依って成立していたためではあるが，またそうしたところにしか平地がなかったわが国独自の理由にもよる。この河川を田に利し濠に引いて城と町ができたとはいえ，川の合流点また川口の低湿部分は氾濫の恐れのため現代に至るまで放置の状態であった。従って東海，山陽の諸都市を一つの類型としてみるならば，それは一方を山，一方を海に面し，その間の平地に旧市街，田畑，低湿の未利用地が交錯し配されたパターンとしてみることができる。旧市街は明治以来，市民センターとして都市化し，住宅の密度も増し，さらに不燃化して現代都市化したのであるが，一方海浜の農地は工場，旧市街周辺農地は新住宅という形でスプロールが進行し，ついに旧市街地はこれらにとりまかれて身動きならぬ状況に陥ったのである。ところがこれを再開発する場合，古くから構成され続けてきた環境あるいは文化というものは，一朝に再編成の対象とすることが難しい。ここでとられている方策は都市中央，旧市街の機能を周辺部へ移すということであった。この土地をどこに確保するかということが，現在これら類型の都市いずれにおいても，大きな問題であるといえる。まとまった土地，まとまった広がりを持ち交通の便もよい新しい開発対象地として低湿の河川沿いの土地がクローズアップされねばならない理由がここにある。

ともあれ，前に記すように古来交通の軸であった河川は，その堤，河原，周辺，を現在未利用で残しているばかりではなく，改修，築堤，ダム，処理場など，現在施さねばならぬ多くの課題をもつ空間である。これを積極的に利用し，都市軸を構築し，国土幹線と結び旧市街再開発のテコにする考えは，決して無謀なものではない。道路といい，パーキングといい，そして流通施設，倉庫，ビジネスなど新らしい時代の文化を受け入れるための都市装備は，単に旧空間の手なおしというところでは納まりきらないのである。道路一つにしても，ヒューマンなものとしてあった場合は幅10m もあれば往来できた2点間の連絡が，現在であれば4車線30m 幅に，側道，歩道橋，インターチェンジを含めて約5倍の面積を必要とする。人間の諸機能によって成立していた都市は今や上位の決定的機能として車のスピード，大きさ，収容量……が存在する，いわば自動車型の都市へと変貌しつつある。これに対応するだけの空間的大きさを従来の都市に与え，かつ旧機能を再編成しようというところに，流動時代の発想，流通コンビナートの計画がなければならぬと考える次第である。

河川はこのようにしてここ数年のうちに都市における基本的機能を集中させる空間へと変貌するとみられるが，またそれによって再び有効となり得る交通，運輸の手段がある。運河の利用がそれである。巨椋の場合は既に設置されている排水路，ポンプ場の関係上どうしてもそうした水対策が必要であったが，これは単に巨椋の場合にとどまるものではない。前述するごとき低湿の地へ新開発が集約されるとすれば，必然的にそれらの都市における内部輸送の基本となるであろうが，この検討はいずれ後稿を待たねばならない。

現段階においては，現在の一般的傾向を単一指標をもってのみ把え，時代として把えることが少ない。それはきわめて困難である。流動の時代という考え方は一つの前提であり仮設でもあるが，あえてこうした暴説を必要とするのが，現代の都市の姿であることをまず認めねばならぬのではなかろうか。

国民の生活は一方にレジャー産業が一方に家庭電化産業が喰いこみ，毎日機械のごとき4帖半のアパートに住み，週末には温泉へ，バーへ，ゴルフへと出向く姿をとっている。きわめて個人的段階で生活の環境を動くことによって構成してゆく姿は，一つには国策としての環境整備の遅れを物語るものではあるが，一方では，動くことによって環境を構成し得る新らしい文化にも大いに注目する必要がある。このような基本的な問題に対して今後の対策は，いかに充実する整備の仮定をおくにせよ，それが従来通りの用途地域指定であったり，従来の風致地区制の延長であってはならないはずである。人間は動きだしている。きわめて大きなスピードと時間を有して動き出している現実を無視した計画対策は，いかに大規模であろうとも実効うすいものといわねばなるまい。環状放射と流通センターのパターンは成程，大陸の拠点都市においてはポイントと周辺という形で成立し得るであろうが，わが国のごとく，発展の方向，連帯の方向がリニヤである場合は，独自のパターンをもたねばならない。将来わが国の構成が，東海道，山陽の都市群とそれ以外の農山地というパターンをとるであろうという予想，構想は西山研究室にて既に発表した「生活空間の未来像」に述べるところであるが，その内部的構成，行政的方策としては，むしろ地道な研究と，行政へのアプライの努力が必要である。われわれはここに一つの提案として，用途線制，すなわち，都市群全域においてジョイントし，延長することの可能な用途地域制に代る行政的手法を考えるに至ったのであるが，これもまた後稿にゆずらねばならない。

流動ということを前提とし，人，物のおびただしい流通を仮定するとき，都市の構成は基本的なところで大きな変革を必要とするが，まずそうした時代にわれわれがたっており，そういう形への変革が諸々の努力の中で収れんせねばならぬことを知ることが重要である。

男山より巨椋池を眺む



2
建設業界史話

花　山　院

宮　村　次　郎

平安朝も中ばを過ぎると穏やかな山河に抱かれた平安の都は東山に添って左京の白河当りから鳥羽・宇治にかけ美しい寺院や邸宅が樹々の間に姿を見せて，源氏物語や栄華物語などに書残された華やかな貴族生活がかりそめの大平も知らぬ気にまことに「唯春の夢のごとく」に展開されていった。浮華な彼等の生活には批判もあろうが，われわれの建築の側から見れば彼等のおかげでその時代までに輸入された数々の大陸の文化がほとんど完全に近く日本的なものに消化吸収されて，わが国独自の文化が咲き栄え，社寺に邸宅に庭園に後の世の亀鑑となるような美しい遺構や遺跡を遺して貰ったことは忘れてはなるまい。

しかも彼等はやがて「天下のみだれむ事をさとらずして民間の愁る所をしらざりしかば久からずして亡しじ者」と平家物語の冒頭の言をかるような次第となった。そして藤原氏の後には源平の武家時代となり続いて鎌倉・室町時代と実質的に政権の下部への移動が初まり，庶民抬頭のきっかけとなって，文化の地方分散は必至となり，建築の面でも漸く全国的に発展すべき機を得て，京に於て国としては身分不相応なまでに洗練された当時の建築技術がタイミングもよく地方分散の秋に巡り合わすようになったことは歴史の面白さであり，わが建築界にとっても，まことに幸であった。特にこの時代から建築も職別ではあるが，漸く一部は業としての成立を明かに認め得るように発展し前途の開けたらしいことは，われわれこの業に従うものとして忘れられないことである。

源氏物語や栄華物語には当時の貴族の華やかな情緒たっぷりな日常が叙せられていて彼等の生活の模様を窺い知ることもでき，建築や庭園に関してもわれわれにさまざまの重要な資料を提供している。

しかし残念ながら施工とか，職業とかの面ではお色気もないせいか，文献にもまことにご縁が薄いのはなさけない。しかしこれ等の物語にはお施主さんである主人たちの建築や造園等に対する趣味や造詣の深かった様子が随所に見られ，日本趣味の建築の根元は彼等によって大成される途が開かれたかの感を深くするのである。

ここではむづかしい歴史的な事情は措いて，大鏡にある彼等の妄心ともいうべきほどの信仰による寺院の造営や豪華な住宅建築への盛んな意欲をのぞいて見て，当時の彼等施主のあり方の一半をのぞいて見よう。

大鏡の大政大臣藤原実頼の条に小野の宮実資のことが出ている。（雄山閣文庫本　大　鏡）

「この小野の宮をあけくれつくらせ給ふ事，日にたくみの七，八人たゆる時なし。世の中にて斧のおとする所は東大寺とこの小野の宮とこそは侍るなれ。」とある。主人藤原の実資（1021，右大臣1046まで）の普請好きが世間にも有名であった説話であろうが，七，八人とあるのは恐らく常傭のお気に入りの職人たちであったと思うが，天下第一人者級ともいうべき実力者の普請道楽にしては一寸淋し過ぎる感じがする。しかし，その少し前の文に邸内の建物の様子が書いてある。それには「殿づくりせられたるさま，いとめでたしや。対，寝殿，渡殿は例の事なり。辰巳の方に，三間四間の御堂たてられて，廻廊はみな供僧の房にせられたり。湯屋に大きなるかなへ二つ，ぬりすえられて煙絶えぬる日なし。御堂には，金色の仏おほくおはします。供米三十石，定器におかれてたゆる事なし。世の中に御堂にまゐる道には，御まへの池よりあなたをはるばると野につくらせたまいて，（註：野辺の景を庭園に採用したのが野筋。源氏物語，鈴虫の巻に，秋頃西の渡殿の前の中の塀の東きわおしなべて野につくらせ給えり，などあるもの）時々の花もみぢをうえさせたまへり。または船に乗りて池よりこぎてもまいる。これより外に道なし。」とある所を見ると，当時の主人の生活の程度や態度などがほのぼのと判るような気がせんでもなく，一面また文化の低い時代とはいえ，これだけの邸内の「湯屋に大なるかなへ二つ云々」の処に至ると綜合した文化の発達がない貧しい建築文化の姿をまざまざと見せられるような気がして，現代のわれわれの幸せを思わずにはいられぬだろう。

そう思って前の匠の数が気になって調べて見ると，前記の約十年位の差かと思う天喜4年（1056）の東大寺造寺所の技術員を調査したものが見付かった。大工2人（1人は権大工か）長4人，連19人以上と見られる。この数は工事日数で延人員を割ったものであるから，もし，工匠たちが番をつくっていたとすればこれ以上のこともあると思われるが，最大の工事日数22日のときでも13人，連の人数がそれ以上のは1日の工事であるから連は12，3人と見た方がよいかもしれない（太田博太郎日本建築史序説参照）。これは東大寺の創建以来永年に渉る新営工事も一応終りをつげ造東大寺司も大分前に廃されて保守営繕の段階に入った時分のことである。東大寺は奈良の他に末寺

も多く，当時の日本では恐らく未だ寺としては最大の技術陣を持っていたのだろう。仮りに最大でなくとも大きさの比較では第一の対照となる位の大きさは持っていたと見てよい。とすると前の7，8人の工匠はあながち嘘でもなさそうでもある。洵に心細い人数のようなものではある。

しかしそれ等の規模は今とは較べものにならなくとも主人連の造庭や造家の意欲は旺盛そのもので興味のあるのは政府の範図の広くなったこともあって，構想も雄大となり有名な左大臣源融公の六条河原院の庭の如く陸奥の塩釜浮島の風物を写したものがあり，その苑池に島嶼を数多く築き塩釜に准へて煙を挙げこれを塩焼く煙に見立てて楽しんだといい，あるいは源高明の西宮池亭には（本朝文粋）

買巌為山浸塩成海　夫海非人力之所成　白塩尽兮　流岸遺体
山是地勢之自得　碧巌高兮。（下略）

とあり高明が富にまかせて庭を海に准え白塩を浸したという。この新らしくも無謀な試みにはさすがに時の人も目を瞠ったに相違ないが，われわれとしても今更その阿房らしさに呆れるとともに夢まで桁はずれのした当時の彼等を羨しくも思える。このような造庭の計画は今昔物語にある飛騨匠と絵師がそれぞれ匠は四面の堂で，絵師は絵でともに腕くらべした説話で有名な絵師百済川成のような名のある絵師や天台僧尊意（北野天神縁起絵巻に尊意僧房の庭あり）のような当時の美術に堪能な文化人が主人たちの相談役となって，えらばれた環境のよい敷地で構想をたて「池堀之定令引縄」し。あるいは「池岸作石事，引縄所定」（長社記）（長承年間1130年頃）などと地割りをし石を据ることにまで親しく縄張りをして作庭していたようであるが，その時代もある程度後期になると主人たちの内には自分の造園に対する見聞や経験によってその見識も高まり，何回かの実施などをして行く内に斯道の奥義に達する腕前の人が現われて来るに至った。すなわち藤原頼通，橘俊綱の類で前記の実資もその一人である。そういえば前述の庭も何気なく読むとつまらぬ庭とも思えるが，当代第一流の造園師右大臣藤原実資造る処と考えて見ると，変化のある趣の深い庭に思えて来るのも古典の面白味といえそうである。

序だが頼通は宇治の平等院（1053）の主でありまた当時京都随一の名園と称われた高陽院の庭園を造っている。「高陽院殿修造の時石を立る人みなうせて，たまたまさもやとてめしつけられたりしものもいと御心にかなはすとて，それをはさる事にて宇治殿御みづから御沙汰ありき」と自ら石組に手を下して造園しているのである。その時代にはすでに専門の造園家として延円とか蓮仲法印とかが立派に健在であったのである。この有力者が専門家を使わなかったのは頼通にはこの人たちのものはすでに気に入らぬ位にまで自分の方の腕が上である自信があったからでないかと森蘊氏はいっておられる。

次に橘俊綱は頼通の実子であり当時すでに「水石風骨を得たる人也」と謂われて居る位で自邸伏見山荘を設計造庭している。このような優れた文化人たる施主のあったことは建築の面にも同様に非常によい影響を与えたに相違ない。

大鏡の中巻藤原伊尹の条の末段に花山院（花山天皇）の事が出ている。これを見ると建築屋顔負けである。すなわち「この花山院は，風流者にさへおはしましけるこそ。御所つくらせたまへりしさまなどよ。

寝殿，対，渡殿などに造りあひ桧皮ふきあはする事もこの院のしいでさせ給えるなり。昔は別々にて，あはひに樋をかけてぞ侍りし。内裏は今にこそは侍るめれ。

御車やどりにはいたじきを奥は高く，はしはさがりて，大いなる妻戸をせさせたまへるゆえは御車の装束を（飾付）さながら立てさせたまひて，おのづからとみの事のをりに，とりあへず戸おしひらかば，からからと人の手ふれぬさきに，さしいだされむが料と，面白く思召したる事ぞかし。」とある。桧皮葺の屋根の取合の納りを天皇さんがし初められたのであり車庫に装備した車を入れるようにしすぐにでも曳出せるように工夫する等建築屋の尻をたたいている。花山院在位の前後の時代に内裏は20数回も火災の厄に会いそのつど里内裏を利用される等何回となく居をかえ，建築の見聞や経験も多かったと想像される。試みに大日本年表から拾い出して見ても天皇の10才位から22才の退位頃までの間だけでも3回も内裏は焼けている。その上藤原氏の持仏堂や邸宅建設ブームの最中に41才まで御存命であり，趣味が豊かであった方である。自分の家を建てたこともない建築屋などとはまた違った立派な建築の指導者のお一人であったのだろう。また院は造園にも造詣が深かったらしく，同書に「木だちつくらせ給ひしをりは花山『桜の花は優なるに，枝ざしのこはごはしくて，幹(モト)のようなどもにくし。梢ばかりを見るなむをかしき。』とて中門より外にうえさせ給へる。なによりもいみじくおぼしたりと，人は感じ申しき。また撫子の種を築地にうへにまかせ給へりければ，おもひかけず四方に色々に唐飾をひきかけたるやうに，咲きたりしなどを見給へしはいかにめでたく侍りしかは。」とあり，また花の木ともあまたうえさせ給ふとて

「木立をは，つくろはずして桜花
　かさかくれにそ，うふべかりける」

との造園家の作のような御製まである。

藤原の末期になって寝殿造も段々変化を来して来，庭造りも自由に深みを増して来た。このような時代に当時の最高の指導者層の内に秀いでたこれらの文化人たちの存在したことはわが建築界のために誠に幸福であった。当時の古典をのぞいて見てこの時代の次にやがて来る鎌倉，室町時代の住宅建築の大きな変化。それがやがては現在のわれわれの見る住宅に大きく連なっていることを思って，古い昔も肌近く感じる私である。

テント建築

太陽工業株式会社社長室　磯野義人

はじめに

テントが，建築の一分野として，認められはじめたのは，つい最近のことである。近代建築の構造形式が，シェルを経て吊り屋根（ハンギング・ルーフ，あるいは，サスペンション・ルーフ）へと移るにしたがって，引張材として用いられる建築材料が，にわかにクローズアップされてきた。

引張材としては，鉄筋コンクリートの中の鋼棒および，ワイヤー・ロープとしての鋼線等が，その代表的なものであるが，新しい引張材としてキャンバス（重布ともいい，厚手で強度がある織物をいう）が注目されてきた。高分子合成化学の急速な発展による軽くて強じんな合成繊維の開発，その合成繊維キャンバスを膜面材料とした吊り屋根構造が，「テント建築」に他ならない。

また，構造的にもう一方からのテント建築の開発も行なわれている。いわゆる，エヤー・テント（エヤー・ドーム）がそれで，空気動力等によって理論づけられている。この構造のテントは，米空軍によって最も深く研究されており，宇宙（月も含めて）に建設される人類の最初の住居は，エヤー・テントであるともいわれている。

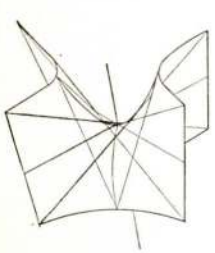


図-1

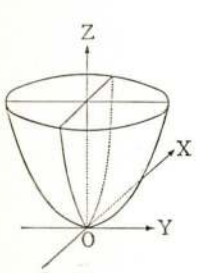


図-2

そのどちらも，2次曲面の膜面を主体としたテンション構造であるが，造形的には全く異ったものとなる。吊り屋根構造においては，双曲放物面（HP曲面）のように2曲面が互に逆方向へプリテンションされているのに反し，空気支持構造においては，球や楕円放物面のように2曲面が互に同方向へプリテンションされているのが特徴である。すなわち，前者において，ガウス曲率は負，後者においては，ガウス曲率は正の値をとる。（図—1，2を参照）

1. テント建築の開発

テントの用途は，従来より軍用の他に，サーカスや運動会，そしてキャンプ用とかなりの需要をもってはいる。しかし，建築物として研究されたことは非常にまれで，そのためか，旧態依然としたものが，テントのイメージの宿命的なものとなって，まだ万人の心に存在しているのが現状である。

ドイツにおいては，オットー博士が，かなり以前より研究をしており，1964年のスイス博でのテント建築群を経て，今年のモントリオール万国博での，西独パビリオンにその成果を見ることができる。約10,000㎡の面積を，ザイル・ネットで補強した，テトロンキャンバス（表面を塩ビ樹脂で，防炎・防水処理）で覆ったもので，この万国博最大の呼びものの一つとなっている。（写真1）

日本においても，現在意欲的な幾人かの建築家がテント建築と取組んでおられ，近々にその作品が建築誌上をにぎわしてくれるものと期待している。アカデミックな研究機関としては，昨年4月発足した「テント構造研究会」＊があり，テント構造の材料，構造，工法について，それぞれ専門の諸先生が研究を進めておられる。その成果は，学界その他研究誌上で発表されることと思う。

＊ 委員長・東大教授星野昌一ほか委員6名

2. テントの用途

新しい建築概念によって設計されたテントは，従来の仮小屋的なイメージを一新し，テントでなければ満されない新しい用途を切り拓いた。キャンバスの難然性の問題がいまだ未解決のため，都市の防火および準防火地域での長期使用には規制があるものの，建設・撤収が容易である故，博覧会，展示会，季節的な競技場等には最適であるといえる。用途の幾つかをスケッチ図で示す。（図—3〜図—7）

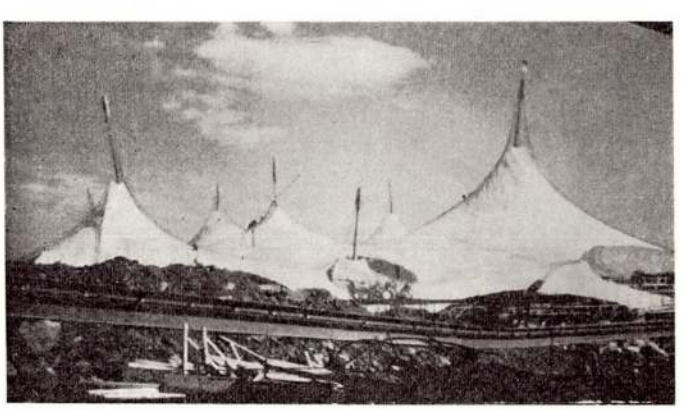


写真-1　モントリオール万国博・西独パビリオン（建設中の写真）

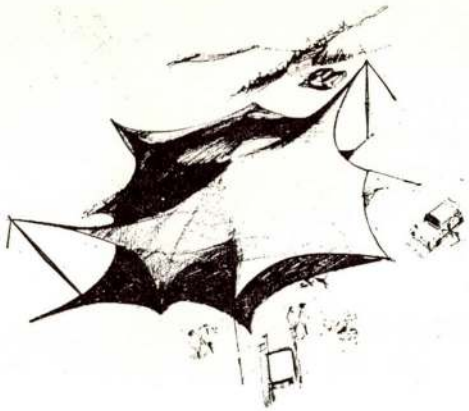


図-3 集 会 場

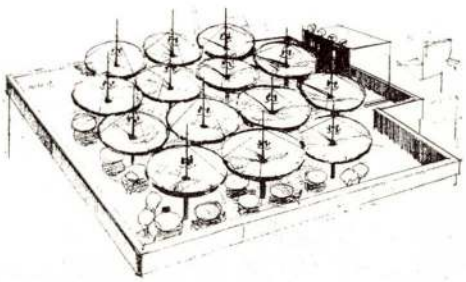


図-4 屋上ビアガーデン

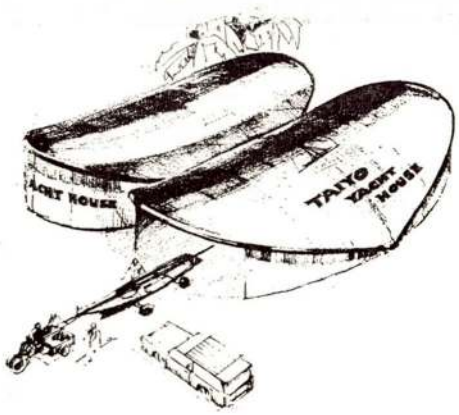


図-5 ヨット・ハウス

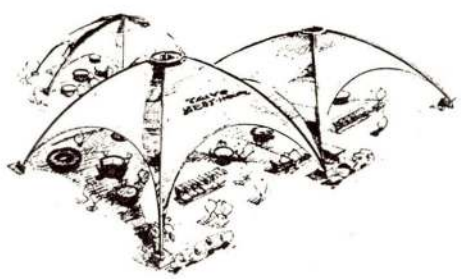


図-6 レストラン

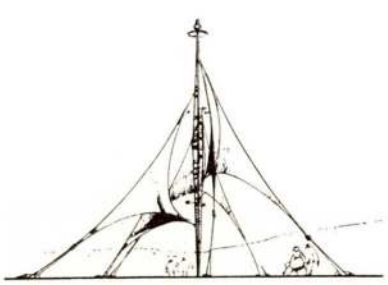


図-7 モニュメント

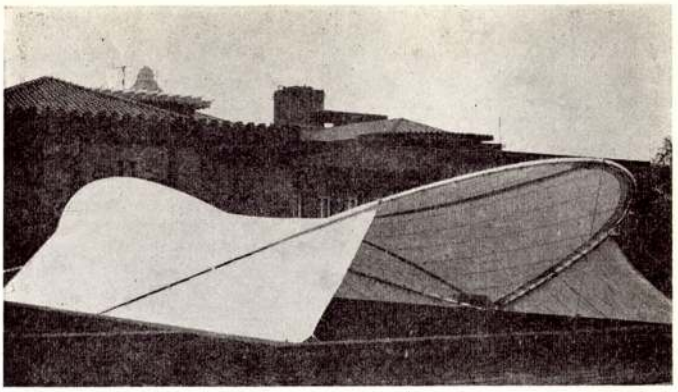


写真-3 首相官邸屋上・レセプション会場

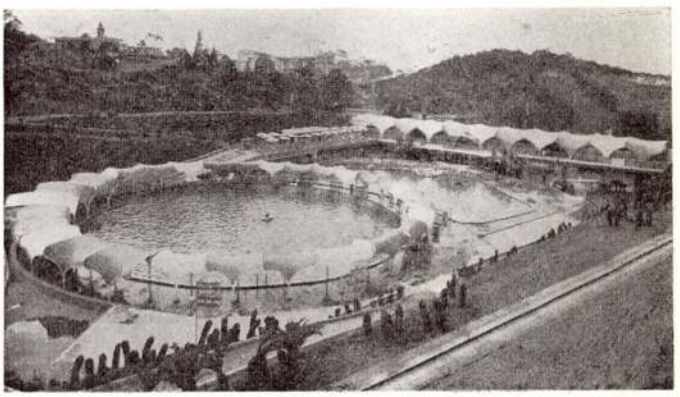


写真-2 多摩テック・プール全景

3. デ ザ イ ン

テント建築設計のおもしろさは，何んといっても，造形の自由さにあるといえるであろう。剛性のない材料を用いるのであるから，平面は出来得る限り避けるべきである。平面を形成するには，非常に大きなプリテンション力を必要とする。プリテンション力が少くともすむような構造にするには，スパンを小さくすればよいが，それによって，キャンバスを透過する光線のイルミネーション効果が大巾に殺されてしまう。キャンバス支持体である，鋼管なりワイヤー・ロープは，可能な限りシンプルとするのが設計のコツである。

コンクリートのガッシリとした建築には，それなりの安定感があるが，材質および直線の交互から来る冷たさをまぬがれ得ない。テントを，それ等の構築物と併用することによって，また楽しい空間を作り出せる。（写真—2，3，4）

4. 構　　造

テント建築の構造は，引張材と圧縮材の明確な区別があるところに特徴がある。梁を使用する場合でも，曲り梁とし，アーチの性質としての圧縮応力で荷重をうけるようにすると，構造体重量の大巾な軽減化がなされる。したがって，テントの構造体重量は基礎を除いて 5～10kg/㎡ が標準となる。

この構造の軽量化は，大型化するにつれて増し，大型の例をあげれば

東京スタジアム・アイス・ホッケー場・テント……7.5kg/㎡
（面積・2,000㎡，写真—5）

宮崎神宮・ジャイアント・フラワー・テント……5 kg/㎡

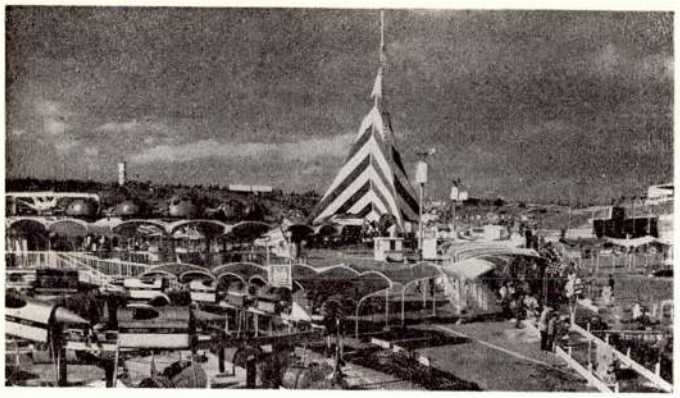


写真-4　鈴鹿テック・モニュメント

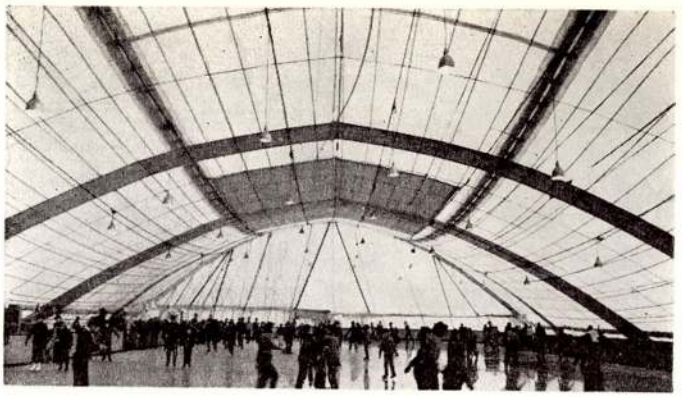


写真-5　東京スタジアム・アイスホッケー場テント内部

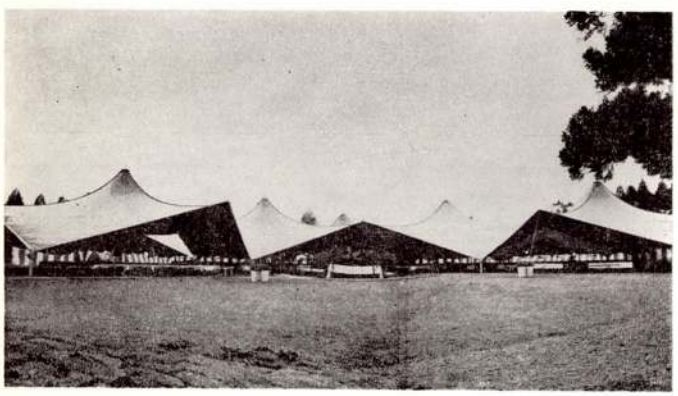


写真-6　宮崎神宮・ジャイアントフラワー・テント

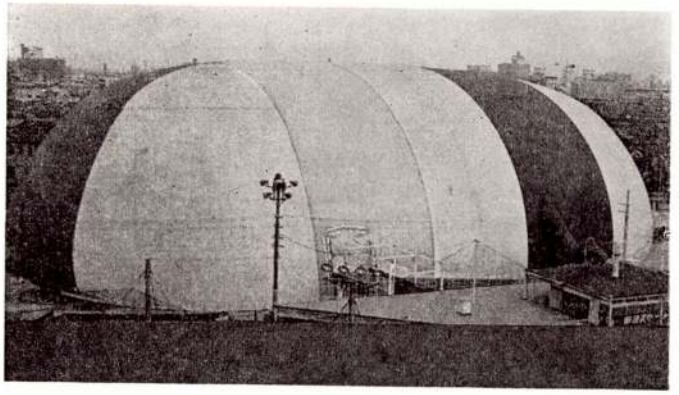


写真-7　野田プール・エアードーム

（面積・400㎡×10コ，写真—6）

野田プール・エヤー・ドーム……3 kg/㎡

（面積・5,000㎡，写真—7）

となる。支持構造に空気を用いる場合，構造体重量は，吊り屋根構造の場合の約半分となる。

フランスの建築家ルネ・サルジェは，構造体重量の軽減化が，やがて建築界に構造革命をもたらすであろうとも述べている。建築物の重量が減って来ると，天候による風荷重および雪荷重の影響が顕著にあらわれ，膜面の変形が大きくなる。膜面の変形を最少限度に押えるため，通常膜面にはかなりの初期張力（プリテンション）がかけられる。

5. 材　　料

テント建築の主材料は，キャンバスである。欧米においては，ナイロンおよびテトロンが主に用いられている。日本においては，これに加えてビニロンが用いられている。ビニロンは，国産の合成繊維であり，価格も割安なので，他の一般産業資材としても多く用いられている。

膜面の設計において，キャンバスの伸びは最も頭の痛い問題である。そのため，温度，湿度等の影響を知って，用途によって，キャンバス材質および織方を撰択しなければならない。一般に，伸びの少なく，また，タテ・ヨコの伸び率バランスの取れたものが望ましい。

ナイロンは，強じんであるが，糸の伸び率が割に大きく，また織物としたときの繊維のすべりも多少あるため，高プリテンション構造には，あまり適しないように思える。したがって，現状では，ビニロンおよびテトロンが，高プリテンション構造には有望であるといえる。しかし，ポリプロピレン他の新しい繊維も出て来ているのでこれから検討する必要もある。

キャンバスの耐候性をよりよくするため，キャンバスへ合成樹脂・合成ゴム等の表面処理が，ほとんどの場合用いられている。塩ビは，安価であるため，最も多く使われている。他に，ルーフィング材としてすでに建築で使われている，ネオプレン，他にハイパン，ウレタン・ゴム等用途によって，種々のものがあり，特殊の場合では10年〜20年の寿命をもつものも製作可能である。なお，膜面の汚れを気にしない産業用の場合は，年1回または2回位の表面処理剤塗布によって寿命を延ばすこともできる。

キャンバスのヤング率は，通常厚さを無視して，E_tで表わされ，

$E_t = 150\text{kg/cm} \sim 300\text{kg/cm}$

のものが，テント建築材料として適していると思われる。

おわりに

以上で，テント建築の概要を，デザイン，構造，材料について述べた。また，それ等の詳細については，別の機会に述べてみたいと思う。

テント建築は，これからの建築であり，未解決の問題も多々ある。材料の面では，「燃えないキャンバス」を開発するのもその一つであるが，積雪荷重を「0（ゼロ）」と考えられる発熱体キャンバス，さらに生物に必要な，太陽エネルギーを透過される半透明キャンバス，また，反対に熱を遮断する断熱キャンバス等の開発が，テント建築の将来を左右する重要課題となっていると思われる。

諸先生ならびに，材料メーカーのご指導，ご協力をお願いして，むすびの言葉としたい。

日本建築協会 月間の動き

□昭和42年3月分□

定時評議員会

22日　4時～5時　於会館集会室
出席者　評議員　神谷，森川正副議長ほか11名
委任状出席者　51名　計64名
理事　東畑，塚本正副会長ほか5理事
議事（1）評議員会議長および副議長互選の件
（2）昭和42年度収支予算承認の件
（3）副会長（1名）理事(15名）選任の件
（4）役員重任承認の件
（5）常務理事重任承認の件
なお評議員会閉会後，会館建設借入金の内50万円の償還抽せんを行なった（本年償還金額100万円の内50万円を日本建築学会へ償還）

評議員懇談会（技術部門）

16日　5時半～7時　於会館集会室
出席者　森川評議員ほか11名
評議員会副議長候補者並に技術部門選出5理事の候補者推せんに関して懇談。

理事会

9日　4時～5時　於会館集会室
出席者　東畑，塚本，鷲尾正副会長ほか4理事，宮飼兵庫，井手京都各支部長
議事（1）昭和42年度収支予算案承認の件
（2）常務理事重任に関する件
（3）事務局職員採用の件
（4）役員，委員の懇談会開催の件
（5）入退会者承認の件
（6）報告事項
（イ）事業報告
（ロ）会計報告

住宅委員会

正副委員長会議
1日　正午～1時半　於サイエンスクラブ
出席者　岡橋，黒谷，野々村正副委員長
昭和42年度住宅委員の選衡

編集委員会

住宅と設備第2回幹事会
1日　4時～7時　於会館集会室
出席者　岡橋幹事ほか2名
第1回幹事会案の組みかえと追補について

委員会
17日　4時～9時　於会館1階会議室
出席者　長谷川委員長ほか4名
議事　1.　4月号＝社会と建築特集経過報告
2.　5月号＝都市と流通空間特集経過報告
3.　6月号＝住宅と設備特集経過報告（第2回幹事会案報告）
4.　モントリオール万博特集の件
5.　生産施設特集の件
6.　青年建築家特集の取り扱いの件
7.　技術の頁の件
8.　クラスメートの件
9.　作品作風の件

事業委員会

幹事会
7日　5時半～8時　於会館集会室
出席者　岡本ほか3副委員長，金子ほか2幹事
議事，次年度委員会委員，建築データシート編集委員会

各種説明会小委員会
8日　5時半～8時半　於会館集会室
出席者　増井，岡本正副委員長，中原茂，松村幹事ほか6委員
議事　「建築データシート出版要項」

委員会
14日　5時半～7時半　於会館集会室
出席者　岡本副委員長，松村，星野幹事ほか13委員
議事（1）次年度委員会への申送り事項
（2）データシート編集委員会の設置
（3）次年度委員会構成員
（4）創立50周年記念事業
（5）役員，委員懇親会

建材委員会

委員会
10日　3時～5時　於会館集会室
出席者　政岡委員長ほか9委員
「防露対策」のまとめについて
次年度の委員について

出版委員会

鉄骨デザイン編集委員会
11日　正午～5時半　於会館集会室
出席者　鷲尾委員長，木田，宮川幹事ほか8委員
「鋼構造設計基準案に対する要望事項」

法規委員会

委員会
22日　3時～5時　於会館1階会議室
出席者　佐野委員長ほか9名
1.　建築基準法改正要望案検討
2.　委員交代の件

会勢委員会

委員会
9日　5時半～7時　於会館集会室
出席者　鷲尾委員長ほか10委員
部会活動の活発化について

50周年記念総務委員会

モントリオール万博視察団ゼミナー委員会
4日　正午～2時　於会館集会室
出席者　中原委員長ほか3委員
議事　「ゼミナーの企画検討」

記念ゴルフ大会実行委員会
6日　正午～2時　於会館集会室
出席者　佐野実行委員長ほか10委員
議事　「実行企画の詳細検討，その他」

モントリオール万博視察団アンケート委員会
6日　5時半～8時　於会館集会室
出席者　内藤委員長ほか3委員
議事　「アンケートの分類整理」

モントリオール万博視察資料委員会
7日　正午～2時　於会館集会室
出席者　鈴木委員長ほか3委員
議事　「資料の編集方法と内容」

運動会小委員会
9日　5時半～8時半　於会館1階会議室
出席者　窪田小委員長ほか5委員
議事　「ボウリング大会，ソフトボール大会企画」

記念事業写真記録打合会
10日　正午～2時　於会館集会室
出席者　近藤主査ほか4委員
議事　「記録写真担当事業と撮影内容」

展覧会小委員会
13日　5時半～9時　於会館集会室
出席者　佐野委員長ほか8委員
展覧会の諸準備について

記念式典，表彰式，祝賀会合同委員会
14日　正午～2時半　於太閤園
出席者　山本，矢野，岡本副委員長ほか15委員
議事　「記念式典，表彰式，祝賀会の企画詳細の検討」

ゴルフ大会幹事会
15日　正午～2時　於会館集会室
出席者　西嶋幹事ほか6幹事
議事　「組合せ表，ハンディキャップ，その他注意事項」

ボーリング大会打合会
16日　3時～8時　於野田ボーリングセンター
出席者　窪田小委員長ほか3委員
議事　「企画詳細の検討」

モントリオール万博視察旅程委員会
17日　正午～2時　於会館1階会議室
出席者　島田委員長ほか3委員
議事　「行程詳細の検討，旅行中の注意事項」

展覧会レイアウト
17日　10時～午後10時　於会館集会室
出席者　坂井，星野，山本各委員
展示写真および展示物のレイアウト

祝賀会小委員会

20日　5時半～8時　於会館集会室
出席者山本小委員長ほか4委員
祝賀会経費，進行表作成，委員担当作業について協議

モントリオール万博視察団アンケート委員会

23日　正午～2時　於会館集会室
出席者　内藤委員長ほか3委員
議事　「アンケートの回答依頼先」

モントリオール万博視察資料委員会

24日　正午～2時半　於会館集会室
出席者　鈴木委員長ほか3委員
議事　「編集方法と資料の入手方法」

展覧会小委員会

24日　5時半～9時　於会館集会室
出席者　星野委員ほか4委員
展覧会の諸準備について

モントリオール万博視察幹事会

31日　5時半～8時半　於会館集会室
出席者　中原幹事長ほか12幹事
議事　「各委員長報告，第1回ゼミナー，結団式」

50周年記念事業

東京の新建築見学会

22日，23日
新宮殿，国立劇場，千代田生命本社，霞ケ関超高層ビル，赤坂離宮　参加者　138名

懇親ゴルフ大会

29日　8時～6時　於鳴尾ゴルフクラブ
参加者　104名

記念式典，表彰式

30日　2時～3時　於太閤園
出席者　183名

祝賀会

30日　3時～4時半　於太閤園
出席者　245名

関西の建築50年回顧展

3月30日～4月4日
於阪神百貨店丸善画廊

説明会

第5回実務に直結した工事別説明会

「無音無振動基礎工法・合成ゴム系防水工法説明会」

8日　1時半～5時　於大阪科学技術センター
聴講者　130名
合成ゴム系各種防水剤並びに施工法
日本ゴム株式会社　深井三郎氏
株式会社エバレヂン工業所　桑名栄助氏
既製コンクリート杭の掘さく式施工法
日本コンクリート工業株式会社　高野民夫氏
ピアー基礎工法の問題点とその処理
清水建設株式会社　高橋賢之助氏
アースドリル工法の概念とその問題点
東洋基礎工業株式会社　有馬敏之氏

見学会

大阪銀行協会見学会

（日本建築学会近畿支部，大阪府建築士会共催）
4日　165名

建築と社会
第48集
業種別
広告目次

昭和42年5月号

基礎　kk武智工務所 ……表3
鉄骨鉄筋　住友金属工業kk ……表2
コンクリートブロック　シポレックス販売kk ……28
防水　奥山化工業kk ……93
kk久保商店 ……87
合同特許建材工業kk ……91
シェル石油kk …… 4
耐酸化学工業kk ……93
日新工業kk …… 6
日本アスファルト防水工業協同組合……14
kk日本セメント防水剤製造所 ……表3
西日本アスファルト事業協同組合……15
三星産業kk ……23
kk油脂化工社 ……表3
石　kk矢橋大理石商店 ……91
タイル衛陶　kk川岸窯業商店 ……91
kk吉田芳雄商店 ……91
屋根葺壁　朝日石綿工業kk ……表4
オリエンタルメタル製造kk …92
大島応用化学工業kk ……92
大同鋼板kk ……表4
kk大仏 ……91
ナニワ瓦kk ……91
金属　kk三幸商会 ……91
内外建材kk ……92
左官　サンエス石膏kk ……20
kk新興建材工業所 ……20
山本窯業化工kk ……10
建具　小俣シャッター工業kk ……94
ダイケンサッシkk …… 9
東京カーテンオール工業kk …94
東洋シャッターkk ……94
kk日本シャッター製作所 ……16
kk三高製作所 ……94
建金具物　永和工業kk ……13
kkゴール ……32
kkニッカナ …… 7
日恵機材kk …… 8
日本ドアーチェック製造kk …11
塗装　関西ペイントkk ……34
内装壁・天井　kk奥村重兵衛商店 ……24
田辺工業kk ……93
室谷商事kk ……87
内装床　東洋リノリュームkk …… 1
家具装飾　二葉屋装備工業kk ……91
保全　kk岸工作所 ……87
ミヅシマ工業kk ……12
設備機器　岩佐物産kk ……88
ダイキン工業kk …… 2
多田金属工業kk …… 3
kk谷山鉄工所 ……87
kk鶴見製作所 …… 5
松下電器産業kk ……30
エレベーター　日本エレベータ工業kk ……91
空調・衛生設備　暁建設工業kk ……88
kk朝日工業社 ……88
kk大阪城口研究所 ……88
大阪電気暖房kk ……88
kk建材社 ……88
斎久工業kk ……88
kk斎藤省三商店 ……88
三機工業kk ……88
kk三晃商会 ……88
須賀工業kk ……88
第一企業kk ……88
第一工業kk ……89
高砂熱学工業kk ……89
東洋キャリア工業kk ……89
東洋熱工業kk ……89
日本管工業kk ……89
日本熱学工業kk ……89
日本冷熱工産kk ……89
kk西原衛生工業所 ……89
平山工業kk ……89
kk森野工務店 ……89
山田工業kk ……89
理研鋼機kk ……89
電気設備　浅海電気kk ……90
工藤電気kk ……90
栗原工業kk ……90
kk三興社 ……90
三宝電機kk ……90
中央電気工業kk ……90
朝陽電気kk ……90
東光電気工事kk ……90
中本電気kk ……90
富士電業kk ……90
森井電業kk ……90
kkヤマト電気商会 ……90
建設　kk大林組 ……26
雑　kk内外写真 ……91
フタバ黒板……91
松平式白蟻殺滅予防所……91

信用ある技術と伝統の

アスファルト工事 専業大店

株式会社 久保商店

大阪市北区真砂町5番地　電話　大阪364代表 0206～9

室谷

内装資材専門店

室谷商事株式会社

本社　神戸市生田区北長狭通4－1　(英和ビル)
直通電話　神戸 (33) 0881～3
支店　大阪市北区絹笠町50(堂ビル5階 502号室)
直通電話　大阪(364) 2031～4
倉庫　神戸市葺合区八幡通1－5　(電話㉒2923)

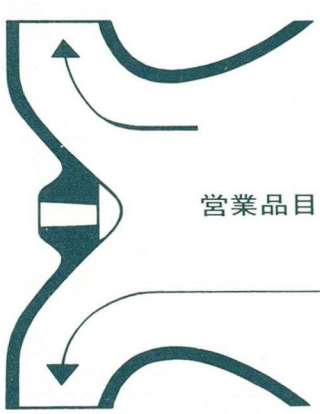
ビル設備の補修は 補修専門の 株式会社 岸工作所へ

- ボイラーや冷凍機の故障のとき　シーズンオフの手入れや検査等のとき
- ポンプやファンの故障のとき　シャフトやベヤリングの取替のとき
- エンヂンの故障のとき　ヂーゼルエンヂン・ガソリンエンヂン等の故障のとき
- 給水や排水管の詰ったとき　漏水したとき
- 衛生器具の故障破損のとき　陶器や金具の取替のとき
- 窓枠やシヤッター・出入口の故障のとき　サッシュ・ドアーチェック・ブラインドの故障のとき
- タンクやピット・浄化槽の掃除のとき　鉄板タンクの錆落しやペンキ塗りのとき

本社　大阪市旭区今市町1－262
TEL 951－7192・951－0870(仮設中)
出張所　大阪市北区堂島浜通1－25　新大ビルC階
TEL 361-3225・341-5819・(夜間)951-0244

Taniyama

送風機



営業品目
- LAF形　リミットロード送風機
- TAF形　可変式軸流送風機
- SL形　ストリームライン送風機
- CL形　セントリーライン送風機
- プレートフイン・ヒーター・クーラー

株式会社 谷山鐵工所

本社工場/大阪市城東区野江東之町二丁目一番地
電話　大阪 (931) 代7803～9
東京出張所/東京都文京区湯島四丁目六番十七号
電話　東京 (811) 3435・3440

暖冷房・換気・温湿度調整・衛生諸設備
設計・施工

暁建設工業株式会社

代表取締役　田中喜久雄
大阪出張所長　猪俣英雄

本社　東京都中央区日本橋通３－１　電話(201) 0181(代)
出張所　大阪市北区樋ノ上町５　電話(363) 4108～９
名古屋市中区丸ノ内２－17－10　電話(231)3046・6007
福岡市東湊町３８　電話 (74) 6863
(75) 5482

水道・衛生・暖冷房・其他管工事
設計並施工
(旧斎藤久孝事務所)

斎久工業株式会社大阪支店

大阪市北区常安町１１番地
電話　大阪 (443) ５０４１～５番

東京本社　東京都千代田区大手町２の８番地(日本ビル)
電話　東京 (270) ７４１１番(代表)

札幌営業所　札幌市南大通西4丁目1札幌道銀ビル　電話 札幌㉒5756
金沢営業所　金沢市高岡町２番１６号　電話 金沢㉑2074
福井出張所　福井市御幸２の１　電話 福井㉔2436
高松出張所　高松市２番丁９　電話 高松㉑5195
岡山出張所　岡山市大供３８０の１　電話 岡山㉔5486

空気調和・冷暖房設備
給排水・衛生設備　設計・施工

株式会社 朝日工業社

大阪市東淀川区加島町３５７　電話 (302) 2271～９(代)
大阪支社　同上
東京支社　東京都港区芝浜松町２－７　電話 (434) 6171(大代)
支店　北海道・仙台・名古屋・広島・福岡
営業所　盛岡・釧路

創業　大正二年
暖冷房・換気・空気調和
病院諸機械・給排水・衛生

株式会社 斎藤省三商店

東京店　東京駅前丸ビル６階６７６区
電話 東京 (201) ３７６１～４
大阪店　大阪市西区土佐堀通大同ビル616号
電話 大阪 (443) ３３６１～６
札幌店　札幌市北十条西１８丁目３６番地
電話 札幌 (61) ４３７１～３
名古屋店　名古屋市中区栄３－５－２９　千代田ビル514号
電話 中局 (261) ０６４１～３

General Electric (G. E) 社製
冷暖房機「ゾンナル」「ウェザートロン」その他各種冷暖房機
温水ボイラー「ハイテンプ」(西独WEBSTO社技術提携)

西日本総販売元

岩佐物産株式会社

本社　大阪市北区老松町３－56(西天満ビル)　電話 (364)2238(代表)
東京　東京都中央区霊岸島１－１０　電話 (551)1079・1617
名古屋　名古屋市南区大磯通２－７　電話 (821) ３５５８
四国　八幡浜市大黒町３　電話 八幡浜 514・1４

冷暖房
給排水、衛生水道
電気
厨房

６Ｓサッシ
環境衛生施設
荷役運搬機械
化学鉱山機械

三機工業 株式会社大阪支店

取締役社長　大前玉男
取締役支店長　樋口勝栄

大阪市東区北浜２丁目２２番地　電話 大阪 (202) 代表3071
本店　東京・日比谷・三信ビル
支店・出張所　名古屋、福岡、札幌、広島、仙台、富山、金沢、静岡、高松

給排水・衛生
暖冷房・換気　設計施工

株式会社 大阪城口研究所

取締役社長　城口庸平

大阪市北区高垣町一・電話大阪371局7151(代表)
京都市東山区大和大路正面上ル 電話京都56局4945(代表)
神戸市生田区下山手通六ノ一・電話神戸34局 ５８９２

空気調和・衛生設備
設計施工

株式会社 三晃商会

本社　大阪市北区富田町１６　電話(364)代表7031
支店　東京都千代田区神田小川町2丁目1　電話(292)代表7751
広島市紙屋町1丁目２番２２号　電話(47)代表4535
福岡市大名１丁目８番１２号　電話(76)代表3795
出張所　名古屋市中村区広小路西通3丁目9　電話(561) ２９４８
富山市堀川小泉町２８６　電話(31) ２２７４
金沢市下新町８　電話(34) ４０８９
福井市西宝永町２丁目１１３　電話(22) １５９６
松江市東本町４丁目１４７　電話(21) ５０９８

電気・暖冷房・水道・衛生設備
設計施工

大阪電気暖房株式会社

取締役社長　菅谷三郎

本店　大阪市西区江戸堀１－６０　電話 (441) 8231 大代
支店　東京・名古屋・福岡
出張所　京都・神戸・岡山・高松・広島・熊本・横浜
札幌・仙台・新潟・富山・金沢・福井

須賀工業株式会社

空気調和　衛生設備

大阪市西区土佐堀通１丁目１４　電話 441－5171
支店－東京・大阪・名古屋・京都・神戸・福岡
営業所－広島

空気調和装置・塗装・衛生設備
設計施工

株式会社 建材社
大阪支店

大阪市北区中ノ島二丁目 (新朝日ビル５階)
電話 大阪 (203) ３７２１(代)
本社及東京本店　東京都中央区銀座西６丁目３(朝日ビル８階)
支店　名古屋市中区錦２丁目２ノ１３
出張所　札幌・広島・神戸・北陸・仙台・松山

冷房・暖房・温湿度調整装置
換気・給排水・衛生設備
設計施工

第一企業株式会社大阪支店

大阪市北区北同心町１丁目５７
電話 (351) (代表) ２８０８
本社　東京都文京区本郷１丁目１２－５
電話 (811) (代表) ６２９４
支店出張所　名古屋・福岡・札幌・仙台・高松・広島

温湿度調整装置、暖　房
冷房、水道、搬送機設備
設計並ニ施工

第一工業株式会社大阪支店

大阪市北区富田町30　電話 (361) 5177(代)
(364) 0977(代)
本　社　東京都千代田区丸ノ内3－2(新東京ビル)
電話 (211) 8511・8561(代)
仙台支店　仙台市新伝馬町6　0
電話 (21) 4 4 9 1
名古屋支店　名古屋市東区東門前町3－6
電話 (971) 3 6 2 1

Carrier

冷暖房はキャリア
CARRIER

東洋キャリア工業(株)製品販売店・特約工事店

日本冷熱工産株式会社

本社及大阪営業所　大阪市西区土佐堀通1－16(石川ビル)
電話大阪 (443) 3661～5

暖・冷房・空気温湿度調整装置
設計施工

髙砂熱学

大阪支店　大阪市北区梅田8番地(新阪急ビル8階)
電話 大阪 (312) 4 5 2 1 (代表)
本　社　東京都千代田区神田駿河台4丁目2番地

給・排水・衛生・消火・暖冷房設備

株式会社 **西原衛生工業所大阪店**

大阪市大淀区中津南通4丁目11　電話大阪㊽3531番

Carrier

空気調和装置、各種冷凍機
設計・製作・施工

東洋キヤリア工業株式会社 大阪支店

大阪市北区堂島浜通1－25(新大ビル)
電話 大阪 (344) 1512(大代)
本社 東京都中央区日本橋本石町4－2(三井第二別館)
支店東京・名古屋　出張所九州
工場埼玉県北足立郡・東京都足立区

給水　衛生　空気調和設備
設計施工

平山工業株式会社

取締役社長　平山京平

大阪市西区江戸堀2丁目2番地
電話 大阪 (441) 代1994　(443) 代0331

MODAIR

空気調和設備
換気・除塵設備　設計施工

東洋熱工業株式会社大阪支店

大阪市西区京町堀4丁目　TEL (443) 8071
本社　東京都中央区京橋2丁目9　TEL (562) 1351
支店　名古屋・福岡

暖冷房・給排水・衛　生・消火設備
設計施工

株式会社 **森野工務店**

本社　大阪市北区菅原町75　電話(361)㊊6571
支店　東京都新宿区新小川町3－32　電話(269)2833～4

温湿度調整・暖冷房・換気給排水・衛生設備
設計並施工

日本管工業株式会社

代表取締役　市川繁雄

本　社　京都市南区西九条豊田町20番地の1
電話 (68) 5101～5・夜間専用 (69) 1045
大阪営業所　大阪市北区天満橋筋1－37(天満橋北詰)
電話 (352) 3501～3
四日市営業所　四日市市浜田西末広町　電話㊲37431～3
津営業所　津市栄町2－111　電話㊽3610

冷暖房・温湿度調整・水　道
衛　生・環境衛生施設
設計施工

山田工業株式会社

本社　大阪市西区京町堀1丁目62　電話 (443) 代表8161～9
出張所　東京都北区上十条1丁目9番22号　電話 (911) 3941
名古屋市中村区牧野町1の6　電話 (541) 0966
神戸市生田区北長狭通7丁目1の1　電話 (34) 1778・4386
広島市袋町6番4号　電話 (47) 7575・7588

暖冷房・空気調和・環境衛生工事一切
設計施工

日本熱学工業株式会社

社長　牛田正郎

本　社　大阪市北区万才町50
大阪事業本附　電話 大代表 (312) 8 6 7 1
東京事業本部　東京都新宿区三栄町18
電話 大代表 (353) 9 1 5 1
名古屋事業本部　名古屋市中村区下広井町3－15(中京電気ビル)
電話 (581) 9 3 7 6 ～ 8
各事業部　京　滋、下　関、新　潟、金　沢

温湿度調整装置・冷暖房・換気装置
ファン・ヒーター・クーラー
スチール・アルミ・サッシ・ドア・シャッター
設計・製作・施工

理研鋼機株式会社

大阪支店　大阪市東区高麗橋5－45(興銀ビル別館)
電大阪代 (202) 7745番
本社・工場　東京都北区神谷3の10の3
電東京代 (901) 3191番
本社・分室　東京都港区麻布笄町155(第5興和ビル)
電東京代 (409) 0151番
支　店　名古屋・仙台　連絡所 福岡

各種電気工事設計施工

浅海電気株式会社

取締役社長　浅海正雄

本　社　大阪市北区老松町ノ丁目22
電話大阪(362)8701
東京支社　東京都港区赤坂1丁目5番7号
電話(481)8621代表
支　店　名古屋・札幌・福岡
営業所　旭川・横浜・浜松・姫路・高松

電気設備 ε 設計施工

朝陽電気株式会社

代表取締役　山本博三

本　社　大阪市北区中之島3の3　朝日ビルディング
TEL　代表　(448)　1361
営業所　大阪市西区土佐堀通り4の8
TEL　代表　(448)　1361
営業所　京都市中京区西ノ京中合町20の11
TEL　代表　(81)　9296

電気工事設計施工

工藤電気株式会社

取締役社長　西村庄市

大阪市北区野崎町六九　電話・大阪(313)代表3456
東京支店　東京都中央区西八丁堀二丁目十二
電話(551)8330・8303
営業所　名古屋・神戸・岡山・広島・北九州

電気設備工事設計施工

東光電気工事株式会社
大阪支社

支社長　姉川正男

大阪市東区高麗橋五丁目二八番地　電話大阪(202)0325～9番
本　社　東京都千代田区西神田1丁目4番地
支　社　札幌・仙台・丸ノ内・名古屋・福岡
出張所　旭川・白河・横浜・静岡・富山

電気工事・計装工事
設計施工

栗原工業株式会社

取締役社長　栗原信英

大阪市北区高垣町16番地(東阪急ビル7階)
電話　大阪(313)1101(大代)
支社　東京・名古屋
出張所　舞鶴・広島・八幡・福岡・富山

電気工事 中 設計・施工

中本電気株式会社

取締役社長　中本正明

本　社　大阪市城東区野江東之町三丁目一五
電話大阪(931)代表7341～5
0388・2193
資材倉庫　大阪市城東区野江東之町三丁目一一　電話大阪(931)7004
奈良営業所　奈良県御所市御国通り360　電話御所②2607・4259

電気工事設計施工

株式会社　**三興社**

代表取締役　林　敏夫

本　社　大阪市北区絹笠町50(堂ビル7階)
電話㈱3671(代)
支　店　東京都中央区日本橋箱崎町3丁目2番地
電話㈱1478(代)
出張所　川崎・相模原・堺・福山

電気工事設計施工

富士電業株式会社

取締役社長　田中実

本　社　大阪市西区北堀江上通1丁目65
電話大阪(541)0564～7・7148～9
営業所　東京・名古屋・広島・福岡

電気・暖冷房・空調工事設計施工

三宝電機株式会社

取締役社長　嘉納伝三

本　社　大阪市北区絹笠町五〇(堂ビル三階)
電話(364)1471(代)
支　店　東京都中央区明石町6－23(辻孝ビル)
電話(542)5641
営業所　名古屋市北区城見通二丁目二〇番地
電話(991)5131～3
出張所　神戸市・堺市・高槻市・姫路市

選択制御監視装置
MU型動力制御盤
グラフイック盤
高低圧受配電盤

空調衛生設備監視盤
各種動力自動制御盤
分電盤・各種警報盤
設計・製作

森井電業株式会社

取締役社長　森井定勝
専務取締役　佐野春吉

本　社　東京都港区芝三田網町一番地
電話　東京(451)代表9611
東京支店　東京都品川区南品川町4丁目1番3号
電話　東京(474)3221(大代表)
大阪支店　大阪市北区常安町16番地
電話大阪(443)代表8381　夜間(441)0502
出張所　名古屋・広島・福岡・仙台
工　場　東京・大阪・福岡・名古屋

電気工事・計装工事設計施工

中央電気工業株式会社

取締役社長　今村騰

本　社　大阪市北区梅ケ枝町五六番地
電話大阪代表(341)8131～7
支　店　東京・名古屋・四日市・神戸・和歌山
営業所　松山・京都・草津

各種電気工事設計施工

株式会社　**ヤマト電気商会**

取締役社長　山本永造

本　社　大阪市北区西堀川町15番地
電話大阪(364)代3056
東京営業所　東京都港区新橋5－34－6　相馬ビル5階
電話　東京(434)3848・(431)8435
出張所　大阪南・北海道・名古屋・四日市・福山・福岡

エレベータ・リフト・カーリフト
設　計　・　製　作

日本エレベータ工業株式会社

代表取締役　長尾正大

本社　大阪市大淀区天神橋筋六（天六阪急ビル）（351）4927代
大阪営業所　（351）4927代　サービス事業所　（328）0336代
東京営業所　（822）0995代　工　場　（328）0336代

営業品目
- カネボウゴーレックス防水
- 化粧壁材ソリジットスタイン吹付
- 樹脂砂壁エバーサンド吹付
- 樹脂蛭石エバテックス吹付

合同特許建材工業株式会社

本社営業所・大阪市東住吉区駒川町3－54　電話（702）代7814～6
特約代理店・東京・名古屋・金沢・広島・今治・福岡



トラフ・ヒューム管
ベンチレーター・マンホール

株式会社
三幸商會

大阪市北区与力町一ノ一〇
電話　大阪（358）4031

耐酸ツボ各種
陶器、ガラス製品卸問屋
セトモノのデパート



源八橋セトモノ百貨店をご利用下さい。

株式会社
吉田芳雄商店

本　店　大阪市北区旅篭町18　電話（361）3450・（364）2345
源八橋店　大阪市北区天満橋筋4－78　電話（358）1790・1838

奉仕感謝の店

タイル　衛生陶器

株式会社
川岸窯業商店

大阪市西区靱本町2丁目98　靱本町電停前
電話　大阪（532）0461～4番

FUTABAYA DECORATORS, LTD.
建築物、船舶等造作工事
家具、建具、寄木、室内装飾工事　設計施工
内外装飾織物・窓掛、敷物、壁紙類一式

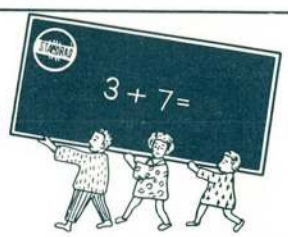
二葉屋装備工業　株式会社

取締役社長　若林繁吉
大阪市大淀区本庄川崎町2の6
（創業大正7年）　電話・大阪（371）3321～3・3630

株式会社
矢橋大理石商店

大阪出張所

大阪市東区高麗橋二丁目九　野村ビル五階
電話　大阪（231）4257－8番



Standard　Board&Slate

フタバ黒板

大阪市東住吉区桑津町三丁目101番地　電話大阪（717）4561～2

社寺数奇屋用瓦……大仏瓦
内外装用窯変美術タイル……大仏タイル

（株）大仏

本　社	京都市東山区今熊野大仏池田町9の9	（56）3555 3725
大阪営業所	大阪市北区堂心町1丁目28	（351）0703
名古屋営業所	名古屋市瑞穂区堀田通1丁目30	（881）2703
東京営業所	東京都渋谷区上原1丁目29の4	（467）1641
工　場	京都清水・山城・瀬戸	

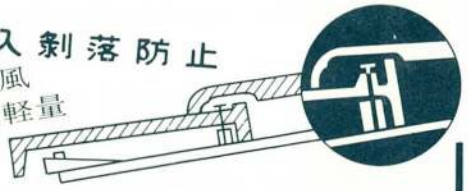
特許
白蟻

松平式白蟻殺滅予防所

所長　防除士　松平藤佐根

奈良市南城戸南方町28　電話（22）4098
奈良市登大路二番町（博物館前）　電話（22）4098
本部　高知県宿毛市宿毛町2639

雨水浸入剝落防止
耐震耐風
安定軽量



ナニワ緩勾配瓦

3寸緩勾最適軽量水止付（空葺）瓦

ナニワ瓦株式会社
大阪市浪速区元町二丁目四一番地　電話（641）五五五

青写真とマイクロフイルム

株式会社
内外写真

製図・トレース・複写写真

大阪市北区堂島北町16　TEL（361）9055（代表）

網入光り波型ガラス（スレート小波／スレート大波）長サ965m/m　1,818m/m

ダイニチ・アーモライト 波板・平板

（硝子繊維強化ポリエステル板）各種波、寸法（長尺物有）

製造販売　**大日本硝子工業株式会社**

大阪支店　大阪市北区堂江町２ノ４（三菱倉庫ビル）電話（441）1389・3389・3281
本　社　神奈川県相模原市小山字久保２２４　電話（72）３１０１－４

●法定不燃材の屋根長尺現地成型

ガスにも／熱にも
酸・薬品にも
大丈夫です

●責任施工・型録送呈

特許●耐酸・耐アルカリひふく鉄板

オリエンタルメタル

●永久建材の超ひふく鉄板

スーパーオリエンタルメタル（SPM）

カラースーパーオリエンタルメタル（CSPM）

●新時代にマッチした各種のカラー製品があります

オリエンタルメタル製造株式会社

本社工場　尾崎市大物北口　電話 大阪(481)8085～9
大阪支店　尾崎市北新町4－41(古川ビル)　電話 大阪(481)8085～9
東京支店並工場　埼玉県蕨市東町2－20－4　電話 蕨(32)3115～7
支店・出張所　都山・八幡・名古屋・川崎・岩国・宇部・延岡・教賀・三原・徳島・徳山

腐らない　そして燃えない
法定不燃材 298号

ケミカラーオーシマメタル

新しい型の
ひふくてっぱん

屋根材、壁材・谷樋棟包水切に
スタンダードメタルの**大島応用化学**

東大阪市新庄(782)4171代

特許　内外式　意匠登録

電動ベンチレーター

屋上強制換気装置製作のバイオニア

50年の豊富な経験と技術、研究により
1．最高の換気率
2．スマートな外観
3．雨仕舞の完全
4．価格の低廉
5．直傭工による施工の完璧
6．行届いたアフターサービス

近畿コカコーラボトリング美原工場
NK型口径 900m/m（モートル3HP）40基

内外建材株式会社

移転仮営業所　大阪市西区江戸堀北通2の3（新坂ビル）　TEL(441)3983・4396
工場　大阪市城東区天王田町1の141　TEL(962)1149

内外式コンチニアスベンチレーター
筒型ベンチレーター
内外式ガラス屋根
内外式連続採光換気装置
設計施工

陸屋根防水には 奥山式 特許 絶縁工法 を

OKUYAMA-KAKOGYO
OAM
WATER-PROOF

カッパー防水帯

コーパータイト

パーフェクトな 冷工法 デラタイト

奥山化工業株式會社

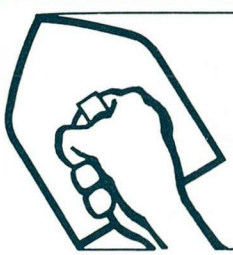
東京都中央区銀座西８－３　電話(571)2703～4・2370・4064・0264
大阪出張所　大阪市都島区都島中通り５－４　電話（921）2497
名古屋出張所　名古屋市南区若草町３３　電話（811）3660

完全防水 冷工法
プルーフテックス防水工事

耐酸工事　防水工事専門店

耐酸化学工業株式会社

大阪市北区高垣町80　TEL代361/0178



＊左官工事のスピード化＊

仕上が自在・日本壁にも、洋室にも、
（一週間て立派な和洋壁仕上が出来ます）

＊５大特長
① 塗り易い
② 割れない
③ アクが出ない
④ 早い仕上り
⑤ 好みの仕上

YNプラスター

TIGER BRAND

吉野石膏株式会社

本　　社　東京都千代田区丸ノ内3丁目2番地(新東京ビル6階) 東京(216)0951(大代表)
大阪支店　大阪市北区堂島浜通１の25(新大ビル) 大阪(341)2556(代)

内装
カーテン
ブラインド
アコーディオンドア
クロス
ジュウタン
木工練付



床貼
Pタイル
カラローン
リグノイド
ロンリューム
ビノリューム
リノリューム

特許 気光式通風器 製造

田辺工業株式会社

大阪市西区江戸堀２－７９　TEL〈441〉7437～９

カーテンウォール
サッシ・ドア
アッセンブルフロアー
グリルウォール
ワイヤーモール
天井パネル
軽量間仕切
防潮扉
エヤームーバー
その他

●超高層時代をになって、カーテンウォールの果す役割はますます大きくなりました。　東京カーテンオール工業の、この分野における特異な技術は広く業界に認められていますが、アルミ、ステンレス、ブロンズ等を使用した美しい金属外装で都市に一層の美観をそえることも、またビルディングドレスメーカーとしての東カテの使命です。

TKK 東京カーテンオール工業

本社及工場　東京都荒川区西尾久4丁目12－12　電話(893)0111大代
大阪支店　大阪市南区順慶町通4－25（順慶町ビル）　電話(252)5891代
名古屋支店　名古屋市東区武平町4～16～5（住商ビル）　電話(941)2577代
営業所　東京都中央区八重洲5－7（八重洲三井ビル）　電話(272)0401代
出張所　福岡・札幌・新潟・仙台

近代建築の要求する

＊特許 小俣式 ステンレス・アルミニウム 防火シャッター

設計
製作
施工

小俣シャッター工業株式会社大阪支店

大阪支店　大阪市北区若松町30　電話大阪(364)9004・9016・4825
本社工場　東京都北区田端町1138　電話東京(893)5211～5

スチール
アルミ
ステンレス

サッシ・ドアー
カーテンウオール
シヤッター
三高式オペレーター・ドアーハンガー

TRADE MARK M.T.K.S

株式会社 三高製作所
本社・工場　尼崎市神崎五反田280番地
電話 大阪(401)6158・6159・7939・9463 (491)3200

シヤッターの総合メーカー

豊かな経験と
最新の技術…

東洋シヤッター

東洋シヤッター株式会社
本社工場　大阪市西淀川区佃町4－33　TEL (471) 8331代表
支店　東京 (771) 1171・名古屋 (331) 6171・大阪 (352) 4571
営業所　横浜・滋賀・京都・神戸・福岡・他全国主要都市

日本建築協会優良證明

セメント増強防水剤

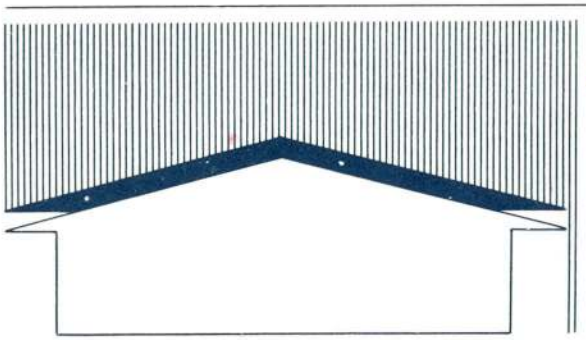
ウォータイトB号

CEMENT WATER-PROOF WOTAITO

仕様書型録贈呈

株式会社 日本セメント防水剤製造所

本　　社　大阪市東区船越町２－３１（船越ビル）　電話（941）2626・2628
連　絡　所　宝塚市高台上の池　電話　宝塚（36）2153
出　張　所　電話　東京(431)8648・名古屋(321)1331・仙台㉓0721・札幌㊲1111
ウォータイト式防水工事代行店　電話　大三工業 高松(2)0016　安藤工事 福岡（28）５２０７　豊永建材 広島（61）６３７１



モルタル・コンクリート用

マノール

●防水工事責任施工

製品

防水剤
急結剤
A号
接着剤
剥離剤

●セメント混和剤のトップ……

ご一報次第カタログ進呈します

株式会社 油脂化工社

本　　社　東京都品川区大井１－１５　電話（774）4111(代表)
大阪営業所　大阪市東成区西今里２－48　電話（971）4765・0063



●基礎施工の悪條件を克服する

武智式 日信三角杭

特　　許●第２３３７４４号
特　　許●第２５０１０８号
実用新案●第２５－１０９４２号
実用新案●第３７－３６１０６号

株式会社 武智工務所

本　　社　大阪市東区高麗橋２－２０（高麗新ビル）
TEL 大阪（202）3233(代)・7501(代)
名古屋営業所　名古屋市中村区船入町１－12(服部ビル)
TEL 名古屋（582）３０３６(代)
大阪工場　大阪市住吉区北加賀屋町５－２７
TEL 大阪（672）３２２３・３２２４
名古屋工場　愛知県海部郡弥富町佐古木
TEL 弥富（7）１１９１・１１９２

日本建鉄の

PS型レディメードサッシ



アルミサッシドア

日本建鉄株式会社

本　　社　東京都千代田区大手町２～８　TEL東京(270)6511(大代)
大阪支店　大阪市北区梅田町４７(新阪神ビル)　TEL大阪（361)6758（代）

建築と社会

Vol.48

第5号

昭和二十四年三月十九日　昭和四十二年五月二十日印刷
第三種郵便物認可　昭和四十二年五月廿五日発行
（毎月廿五日発行）

屋根●外壁●内壁●天井に

建設省認定 **朝日の不燃建材を**



工場・倉庫・住宅に

法定不燃材
朝日波形スレート
朝日フレキシブルボード
朝日大平板
朝日ステンドスレート
朝日ネットインスレート

ビル・工場に

朝日耐火パネル
朝日防火パネル
朝日グラスインパネル
朝日フェザーパネル
朝日コルゲートインパネル
吹付石綿
朝日プロベスト

ASK
朝日石綿工業株式会社

大阪支店／大阪市北区神山町４３　電話(312)8521(代表)
本　　社／東京都中央区銀座7—3　電話(573)5111(大代)
営業所／東京・横浜・静岡・名古屋・富山・大津・姫路
岡山・広島・門司・福岡・長崎・延岡・高松
新居浜・札幌
工　　場／東京・横浜・山梨・大阪・水島・玉島・門司

防露・断熱・防音カラー鉄板 **ダンネット**®

●《ダンネット》は着色亜鉛鉄板《カラーグリップ》と難燃性《ポリウレタンフォーム》の複合建材です



特長
1. 防露性　屋内の温度変化が小さく、ルーフィングなど不要室内に露滴落下の心配がありません。
2. 断熱性　太陽の直射や屋外寒気などを防ぎ、熱貫流抵抗は20㎜厚の木毛セメント板に等しい。
3. 吸音遮音性　雨音の発生が少なく、室内・室外の騒音を吸収。静かな環境をつくります。
4. 加工性　長尺ロール成形、波付加工及び現場施工は従来の亜鉛鉄板と同様に簡単です。
5. 経済性　施工が容易、工程が簡単、その上軽量であるため工事費がグーンと節減できます。
6. 防火性　特殊難燃処理が施されたウレタンフォームは自己消火性を有し防火上安全です。
7. 防水性　ウレタンフォームがコーキング材の働きをして防水性を高め、雨漏りの心配無用です。

■標準寸法及び色彩

種類	長尺・平板・波板
厚さ	カラーグリップ 0.27㎜(#31)～0.60㎜(#24) ポリウレタンフォーム　5㎝
幅	914㎜(3尺)(大波の場合仕上り幅 800㎜)
長さ	長尺品50mまで 平・波板1829㎜(6尺)～2438㎜(8尺)
色彩	カラーグリップの色　標準色8色 ポリウレタンフォームの色　灰色・黄色

DAIDO **大同鋼板**

本　社 大阪市東区高麗橋２－41 ☎(203) 0751
営業所 東京都千代田区丸の内３－10 ☎(212) 0501

■カタログ・見本帳ご希望の方は《建築と社会》とご記入の上ご請求下さい

ご入会のお申込みは……「建築と社会」発行所
社団法人　日本建築協会　大阪市東区北浜三ノ壱
電話大阪(二三一)九六四八・九六四九・九六四〇　振替口座大阪三九七番

定価　一部　三〇〇円
（送料共）